

岩手大学大学教育総合センター

年次報告

2013

THE ANNUAL REPORT OF UNIVERSITY EDUCATION CENTER,
IWATE UNIVERSITY, 2013

CONTENTS

1. 運営委員会
2. 入試部門
3. 全学共通教育部門
4. 教育改善部門
5. 専門教育等連携部門
6. 学生支援部門
7. キャリア支援部門



岩手大学大学教育総合センター

年次報告

2013

THE ANNUAL REPORT OF UNIVERSITY EDUCATION CENTER,
IWATE UNIVERSITY, 2013

CONTENTS

1. 運営委員会
2. 入試部門
3. 全学共通教育部門
4. 教育改善部門
5. 専門教育等連携部門
6. 学生支援部門
7. キャリア支援部門





はじめに

大学教育総合センター長
高畑 義人

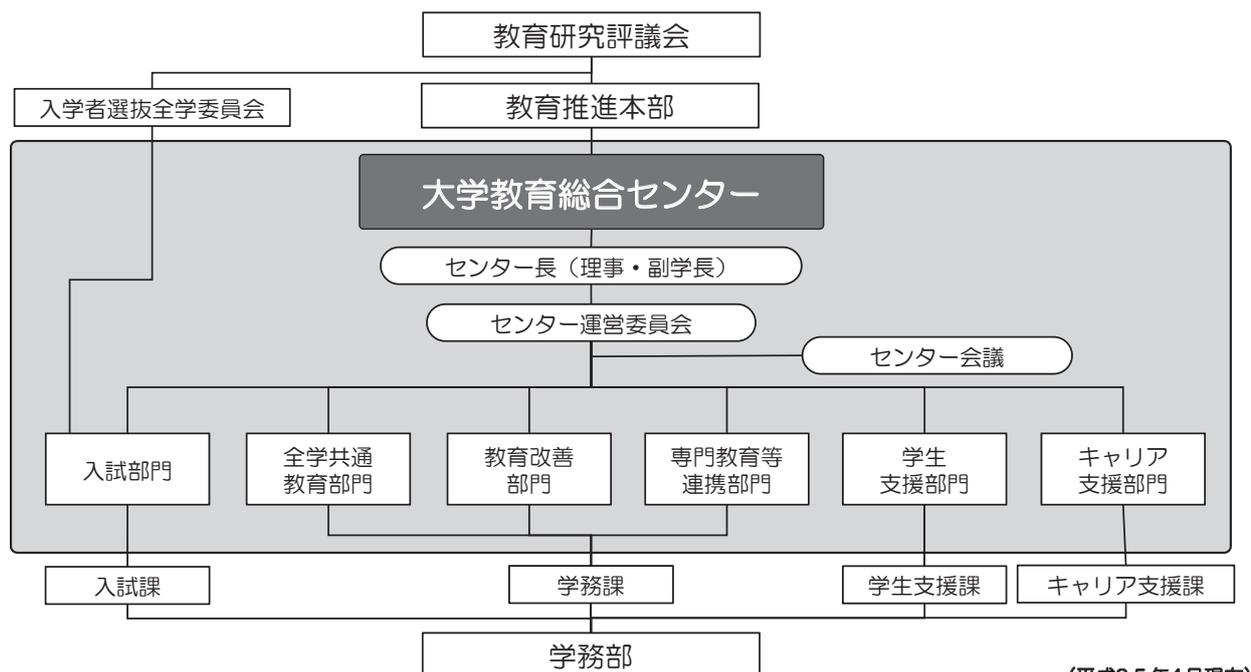
教育研究支援施設等の見直しにより、平成25年度末で大学教育総合センターは廃止となり、26年度から本センターの任務を引き継ぎ、新たな任務を負った「教育推進機構」が設置されました。したがって、大学教育総合センターとしての年次報告はこの号で最終となります。本報告書は大学教育総合センターの1年間の様々な活動を網羅したものです。電子化しホームページだけの公開で十分であるという声を聞くこともありますが、確かに電子化された媒体は、ピンポイントで見たり検索するには便利ですが、全体像を知るには必ずしも便利とは言えません。また電子化された媒体がこの先保存されていくかどうか不明なところです。それに対し、このような冊子体は全体像を包括的に把握する情報源として、またセンターの適正な評価を受けるための証拠資料として価値あるものと考えています。本報告書が多くの関係者に役立つことを願っています。

本センターは、大学が法人化した平成16年に「大学教育センター」として設置された時から始まりました。それは、教育協議会を母体にし、その下に全学委員会として置かれていた「全学共通教育運営委員会」、「専門教育連携調整委員会」、「ファカルティ・デベロップメント委員会」を「全学共通教育企画・実施部門」、「専門教育関係連絡調整部門」、「教育改善部門」の3部門に再編し設置したものです。その後、平成18年に学生の入口から出口までの一貫した教育体系の構築という理念のもと、「入試部門」、「学生生活部門」、「キャリア支援部門」を加えた6部門体制となり、現在の大学教育総合センターとして、拡充・総合化されました。このセンター化により、各学部の専門教育以外の学生教育と学生支援が大学として統一的に行われる体制ができました。一方、全学委員会ではなく部門制をとったため、各部門で行われている業務が学部構成員にうまく伝わらず、センターが行っている業務の全体像が見えにくくなったことが問題として出てきました。原因としては、それぞれの部門で審議決定していることが多くありますが、そこに出席している兼務教員は各学部を代表する委員ではなく、それらの審議内容を学部へ報告する義務がないためと考えられます。新たに設置された教育推進機構はこの問題点を解消してくれることを願っています。

教育についてしばしば思うことは、教える側としては制度や組織より「人」が、学ぶ側にはやる気をいかに出させるか、すなわち「教えないこと」、が重要であるということです。最後になりますが、今まで全学の学生の教育と支援のために努力していただいた各学部から選出されたセンター運営委員会委員、各部門の部門長、兼務教員、センター専任教員、そして事務職員の皆様に最後のセンター長として感謝申し上げます。

平成26年7月

大学教育総合センター 組織図



(平成25年4月現在)

大学教育総合センター運営委員会委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
センター長	高畑 義人	理事(教育・学生担当)
副センター長	松林 城弘	人文社会科学部
入試部門長	高畑 義人	理事(教育・学生担当)
全学共通教育部門長	横山 英信	人文社会科学部
教育改善部門長	武井 隆明	教育学部
専門教育等連携部門長	松川 倫明	工学部
学生支援部門長	栗林 徹	教育学部
キャリア支援部門長	安田 準	農学部
副学部長又は評議員	吉村 泰樹	人文社会科学部
	遠藤 孝夫	教育学部
	船崎 健一	工学部
	古賀 潔	農学部
教務関係委員長	河田 裕樹	人文社会科学部
	遠藤 匡俊	教育学部
	嶋田 和明	工学部
	佐藤 和憲	農学部
学務部長	渡部 徹	学務部

大学教育総合センターセンター会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
センター長	高畑 義人	理事(教育・学生担当)
副センター長	松林 城弘	人文社会科学部
入試部門長	高畑 義人	理事(教育・学生担当)
全学共通教育部門長	横山 英信	人文社会科学部
教育改善部門長	武井 隆明	教育学部
専門教育等連携部門長	松川 倫明	工学部
学生支援部門長	栗林 徹	教育学部
キャリア支援部門長	安田 準	農学部
専任教員	江本 理恵	大学教育総合センター
	岡本 崇宅	大学教育総合センター
学務部長	渡部 徹	学務部

入試部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	高畑 義人	大学教育総合センター長
専任教員	岡本 崇宅	大学教育総合センター
兼務教員	竹村 祥子	人文社会科学部
	土屋 明広	教育学部
	小林 宏一郎	工学部
	小藤田 久義	農学部
各学部入試委員会 (正・副委員長)	横山 英信	人文社会科学部
	竹原 明秀	人文社会科学部
	我妻 則明	教育学部
	大野 眞男	教育学部
	水野 雅裕	工学部
	一ノ瀬 充行	工学部
	木村 賢一	農学部
	御領 政信	農学部
入試課長	藤原 昇	学務部

全学共通教育部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	横山英信	人文社会科学部
専任教員		
兼務教員	横井雅明	外国語分科会
	清水茂幸	健康・スポーツ分科会
	藤本忠博	情報基礎分科会
	菅野文夫	思想と文化分科会
	神常雄	心と表象分科会
	横山英信	人間と社会分科会
	御領政信	生物の世界分科会
	本田卓	自然と数理の世界分科会
	成田晋也	科学技術分科会
各学部教務委員会	佐野宏明	環境分科会
	後藤尚人	人文社会科学部
	菅野文夫	教育学部
	嶋田和明	工学部
学務課長	伊藤芳明	農学部
	浅沼良庸	学務部

教育改善部門会議委員名簿

(平成25年10月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	武井隆明	教育学部
全学共通教育部門長	横山英信	人文社会科学部
専任教員	江本理恵	大学教育総合センター
兼務教員 (学部選出委員)	井上博夫	人文社会科学部
	後藤尚人	人文社会科学部
	重野和彦	教育学部
	山崎浩二	教育学部
	小林悟	工学部
	土岐規仁	工学部
	濱上邦彦	農学部
学務課長	山田美和	農学部
	浅沼良庸	学務部

専門教育等連携部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	松川 倫明	工学部
専任教員		
兼務教員 (各学部教務委員会選出教員)	後藤 尚人	人文社会科学部
	阿久津 洋巳	教育学部
	嶋田 和明	工学部
	國崎 貴嗣	農学部
学務課長	浅沼 良庸	学務部

学生支援部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	栗林 徹	教育学部
兼務教員 (各学部学生委員会選出教員)	松岡 勝実	人文社会科学部
	ホール ジェームズ	教育学部
	吉原 信人	工学部
	吉川 信幸	農学部
学部選出教員	松林 城弘	人文社会科学部
	菊地 悟	教育学部
	海田 輝之	工学部
	宇塚 雄次	農学部
学生支援課長	今野 和男	学務部

キャリア支援部門会議委員名簿

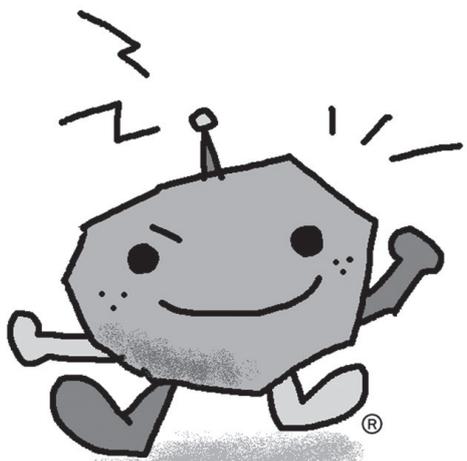
(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	安田 準	農学部
兼務教員 (各学部就職委員会選出教員)	内田 浩	人文社会科学部
	大河原 清	教育学部
	高木 浩一	工学部
	古賀 潔	農学部
キャリア支援課長	佐藤 祐一	学務部

目 次

□センター長あいさつ	
□組織構成図 名簿	
□目次	
□運営委員会	
運営委員会報告	003
文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」	005
大学教育総合センターの改組計画について	007
□入試部門	
活動報告	011
□全学共通教育部門	
活動報告	015
平成25年度分科会メンバー表・開講科目一覧	017
分科会教育目標及び成績評価基準のガイドライン	035
オムニバス方式授業科目の講義間の連携のためのガイドライン	048
「総合科目」の教育目標と成績評価のガイドライン	049
□教育改善部門	
活動報告	053
平成25年度大学教育総合センター主催のFD関連一覧	055
平成25年度学外の研修等への参加状況一覧	060
平成25年度FD研修会実施報告	061
テーマ「よりよい授業のために」と題し開催した学生との懇談会（ガンチョンタイム）で出された主な意見	065
各学部・研究科等の授業アンケートの実施及び活用方法	067
平成25年度授業アンケート実施状況報告	068
平成25年度前期授業アンケート集計結果	069
平成25年度前期授業アンケート集計結果（基礎ゼミナール）	072
平成25年度前期授業アンケート集計結果（健康・スポーツ科目）	075
平成25年度後期授業アンケート集計結果	077
平成25年度後期授業アンケート集計結果（初年次自由ゼミナール）	080
平成25年度後期授業アンケート集計結果（健康・スポーツ科目）	083
平成25年度全学共通教育授業公開	085

平成25年度前期全学共通教育授業公開実施報告	087
平成25年度後期全学共通教育授業公開実施報告	089
平成25年度入学前教育実施報告	093
平成25年度卒業生・卒業時アンケート集計結果	101
平成25年度修了生・修了時アンケート集計結果	109
□専門教育等連携部門	
活動報告	115
専門基礎科目に関する懇談会（物理学・化学）メモ	118
専門基礎科目に関する懇談会（数学）メモ	124
専門基礎科目・習熟度別クラス編成に関する意識調査の集計結果	128
基礎ゼミナール総括	143
放送大学活用プロジェクト	144
□学生支援部門	
活動報告	147
平成25年度岩手大学学生表彰者名簿（個人・団体）	151
□キャリア支援部門	
活動報告	155



がんちゃん



大学教育総合センター 運営委員会

大学教育総合センター運営委員会委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
センター長	高畑 義人	理事（教育・学生担当）
副センター長	松林 城弘	人文社会科学部
入試部門長	高畑 義人	理事（教育・学生担当）
全学共通教育部門長	横山 英信	人文社会科学部
教育改善部門長	武井 隆明	教育学部
専門教育等連携部門長	松川 倫明	工学部
学生支援部門長	栗林 徹	教育学部
キャリア支援部門長	安田 準	農学部
副学部長又は評議員	吉村 泰樹	人文社会科学部
	遠藤 孝夫	教育学部
	船崎 健一	工学部
	古賀 潔	農学部
教務関係委員長	河田 裕樹	人文社会科学部
	遠藤 匡俊	教育学部
	嶋田 和明	工学部
	佐藤 和憲	農学部
学務部長	渡部 徹	学務部

運営委員会報告

センター長 高畑 義人

3つのポリシーの見直しについて

今年度の年度計画として、昨年度策定した「ディプロマ・ポリシー」と「カリキュラム・ポリシー」等について検証し、必要があれば見直すこととしています。また、認証評価において「カリキュラム・ポリシー」に全学共通教育の記載がない学科・課程もあり、教育課程編成としては不十分であるという指摘がありました。「学位授与の方針」・「教育課程編成・実施の方針」ブラッシュアップ・ワークショップを開催し、これらのポリシーの検証を行い、それに基づいて各学科・課程において3つのポリシーの見直しを行いました。また、各学部で策定した「カリキュラム・マップ」に関しても見直しを行い、学生が卒業までの教育課程について入学時から把握できるように、平成26年度の新入生からオリエンテーション等で配布することを決定しました。なお、3つのポリシーと「カリキュラム・チェックリスト」および「カリキュラム・マップ」を加えたものを冊子体にまとめ、全教員に配布しました。

「地(知)の拠点整備事業(COC)」について

本整備事業の申請に伴う全学共通教育科目の関わりについて審議しました。カリキュラム上に、地域の歴史、文化、産業、特色等に関する科目を設定する必要があることから、全学共通教育科目の中にも「地域に関する科目」を用意し、さらに履修人数を確保する必要がある点について確認しました。その後、8月に本整備事業が採択され、それに伴い設置された「COC推進委員会」から、特任教員採用（PBL教育およびキャリア教育）に係る選考について、本センターに依頼があり、2つの選考委員会を設置し教員選考を行い、PBL教育担当およびキャリア教育担当のCOC特任准教授の最終候補者として、後藤厚子氏、遠藤雅子氏をそれぞれ決定しました。

本整備事業における1年生対象の被災地学修の具体的な実施方法について審議し、「基礎ゼミ」で行うこととし、「被災地学修の実施要領」と具体的なプログラム・メニューを策定しました。実際の実施に当たっては各学部の実施教員と連絡をとり、柔軟に対応していくこととしました。

オンライン成績報告システム(Web化)の決定

現在のOCRシートによる成績報告からオンラインで成績を報告することについて提案し審議しました。各学部からは賛成が得られましたが、セキュリティ対策を講じること、非常勤講師については従来通りOCRシートによる報告を可能とすること等の付帯意見があり、それらも考慮し平成26年度後期から実施することを決定しました。それに向けてオンライン成績報告システム仕様検討WGを設置し、具体案を検討することとしました。

学年暦に補講期間を明示

平成26年度学年暦および学生主催の行事に伴う2日間の全学休講について決定しました。その中で学年暦に補講期間を明示することを審議し、了承しました。この補講期間は15回の講義の確保および休講等により講義回数が確保できない場合に利用するものですが、この期間以外でも補講は可能であることも確認しています。

非正規生に係る「授業料の未納除籍」に関する内規について

非正規生に関して、授業料未納による除籍がいくつかの学部で見られるため、非正規生に関しては、授業料未納除籍の時期を正規生より早くすることについて審議しました。その結果、授業料の未納除籍の時期を4月入学の場合は5月末日、10月入学の場合は11月末日とすることを決定しました。

成績評価比率の共有化

科目の「成績評価比率」の共有化については、すでにアイアシスタントで開示（教職員限定）し、お互いに見ることができますが、より一層の共有化を図るため、各学部の教務委員会等で成績評価比率の印刷資料を配布し、各学科・課程等で組織的に成績評価について確認し、成績評価比率について極端な科目等があれば、意見交換し成績評価について改善していくこととしました。なお、開示する成績評価比率の資料において、講義担当者の個人名を公表することについて意見が出され、今後検討することとしました。

専任教員の採用と転出

2年ほど空席であった、大学教育総合センター（平成26年4月から教育推進機構）において主に全学共通教育を担当する専任教員の採用が9月の組織検討委員会で承認されました。それに伴い10月の運営委員会で選考委員会を設置し、教員選考を行い秋田工業高等専門学校教授である脇野 博氏を教授の最終候補者として決定しました。一方、入試部門の専任教員である岡本崇也准教授に対し香川大学から割愛依頼があり、平成26年2月28日付けでの転出を了承しました。これに伴い後任の早急な補充を依頼することを運営委員会で決定し、2月の組織検討委員会で専任教員の採用（4月から組織の見直しで入試センター専任教員）が承認されました。

その他

平成26年4月から教育推進機構が設置されることに伴い、その業務、部門等について意見交換し、最終的に関係諸規則について審議し、了承しました。今年度図書館に開設した学修支援室（ラーニング・サポート・ルーム）の利用者が2500人を超えたことから、平成26年度も引き続き開設することを了承しました。平成25年度FD合宿研修会を8月22～23日に「これからの大学評価の在り方と3つのポリシー」というテーマで、4学部教員のほか「いわて高等教育コンソーシアム」に所属する教員も参加し、開催しました。平成25年度高大連携ウインターセッションを「知（地）は力 - 地域と大学-」というテーマで12月25～26日に開催し、140名の受講生がありました。

文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」

“いわて協創人材育成+地元定着”プロジェクト

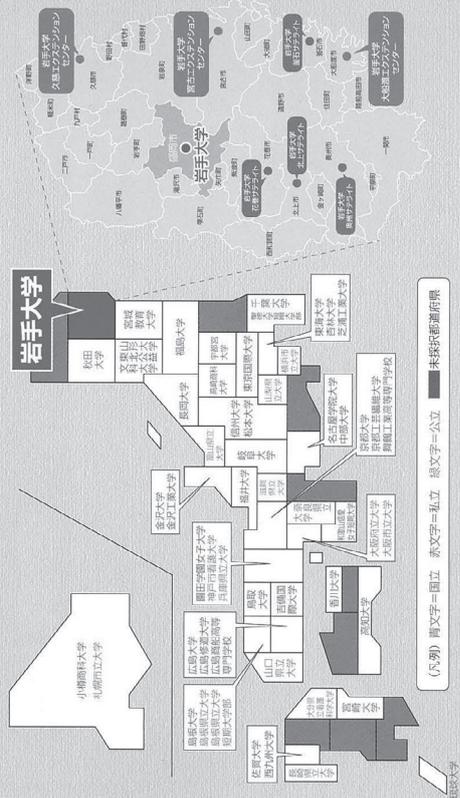
事業概要

震災復興を含め、岩手の多種多様な課題を解決し、地域を再生・活性化するためには、地域の歴史・文化・特色を理解し、異分野の専門家と協働し、自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができている人材(いわて協創人材)を育成して、その人材を地域の工学分野、農学分野等の企業、岩手県の教育界、金融業界、行政等の様々な分野へ輩出することが中長期的には最も重要であり、岩手に唯一存在する国立大学である本学の重要な使命です。よって、今回の事業では、自治体・地域企業等との協働により、被災地での学修を全学必修化する等、共通教育及び各学部の専門教育の中に地域に関する学修を体系的に配置して、いわて協創人材の育成及び人材の地元定着を促すことを目標としています。また、地元定着のためには人材の受け皿も必要となるため、本事業では、地域企業の振興・高度化・グローバル化を図る取組も併せて行います。

連携自治体 岩手県、盛岡市

事業期間 5年間(平成25年度～平成29年度)

文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」平成25年度採択大学(地域一覽)



◇岩手大学の特徴
工学部・農学部の理系分野と教育学部・人文社会科学部の文系分野を有する岩手県内唯一の国立の総合大学。人文社会科学部・教育学部・工学部・農学部が1キャンパスに立地。学生数約5,700人。地域との連携体制に実績有り。東日本大震災で被災した地域の復興に全学をあげて取り組むなど、地域の再生・発展に貢献。[地域貢献度ランキング 3位(2013年)経日グローバル]

COC番号:2506928

岩手大学
Iwate University

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目16番34号 <http://www.iwate-u.ac.jp/>

●本件に関するお問い合わせ先:岩手大学教育推進機構 COC推進室 TEL.019-621-6926 担当:千田・舟

文部科学省
平成25年度 「地(知)の拠点整備事業」

地域と創る

いわて協創人材育成+ 地元定着プロジェクト



【岩手のビジョン】
盛岡市総合計画
岩手県復興基本計画

【岩手の課題】
●少子高齢化・過疎化・産業の集積と技術の高度化、人材の産業の活性化、食の安全・安心の確立と食料の安定供給、学力向上と進学率向上

【岩手大学のこれまでの取組】
●心豊か「岩手の大地」と共にのれど、教員個人や各学部がそれぞれで活発な地域貢献活動を推進

【課題】
●地域を重視した教育プログラムの展開が不十分
●学生の県内就職率が低くない(過去4年平均93.4%)

「地(知)の拠点整備事業」(Center of Community)とは
平成25年度の文部科学省の所管重点整備事業で、自治体等と連携し、学術的に地域を創出した教育・研究・社会貢献が主たる大学を支援すること。地域再生・活性化の拠点となる大学の協力を促進することを目的としています。
2年間は、全国19所14校の大学等が申請し、岩手大学はその採択の1つとして選定されました。



岩手大学
Iwate University

地域と創る “いわて協創人材育成+地元定着”プロジェクト

- 全学共通教育と全学部(人文社会科学部、教育学部、工学部、農学部)の専門教育の中に地域に関する科目を体系的に配置し、被災地での学修を必修化、岩手の歴史・文化・特色等を学ぶ科目の設定、地域課題をテーマとした課題解決型授業の導入、地域企業・自治体へのインターンシップの拡充等
- 達成目標(教育に関する取組の詳細)…平成29年度 県内就職率 39%(直近4年間平均34%)

教育



研究

- 地域企業との課題解決型共同研究の推進(学生との共同研究への参画)
《研究テーマ例》
農業生産、まちづくり、ものづくり等

社会貢献

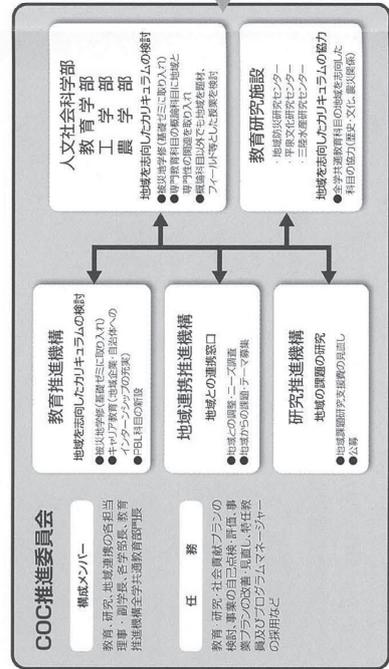
- 社会人学び直し教育、小中学生の科
学技術理解増進教育等の生涯学習
を推進等

震災復興

- 復興関連事業の実施
- 全学共通教育で「復興学」「地域防災学」等を開設
- ボランティアセンター機能の整備
- 地域の防災教育への協力

◆学内取組連携図

自治体・地域企業等との協働により、被災地での学修を全学必修化する等、地域に関する学修を体系的に配置して、いわて協創人材の育成及び人材の地元定着を促すことを目標としています。

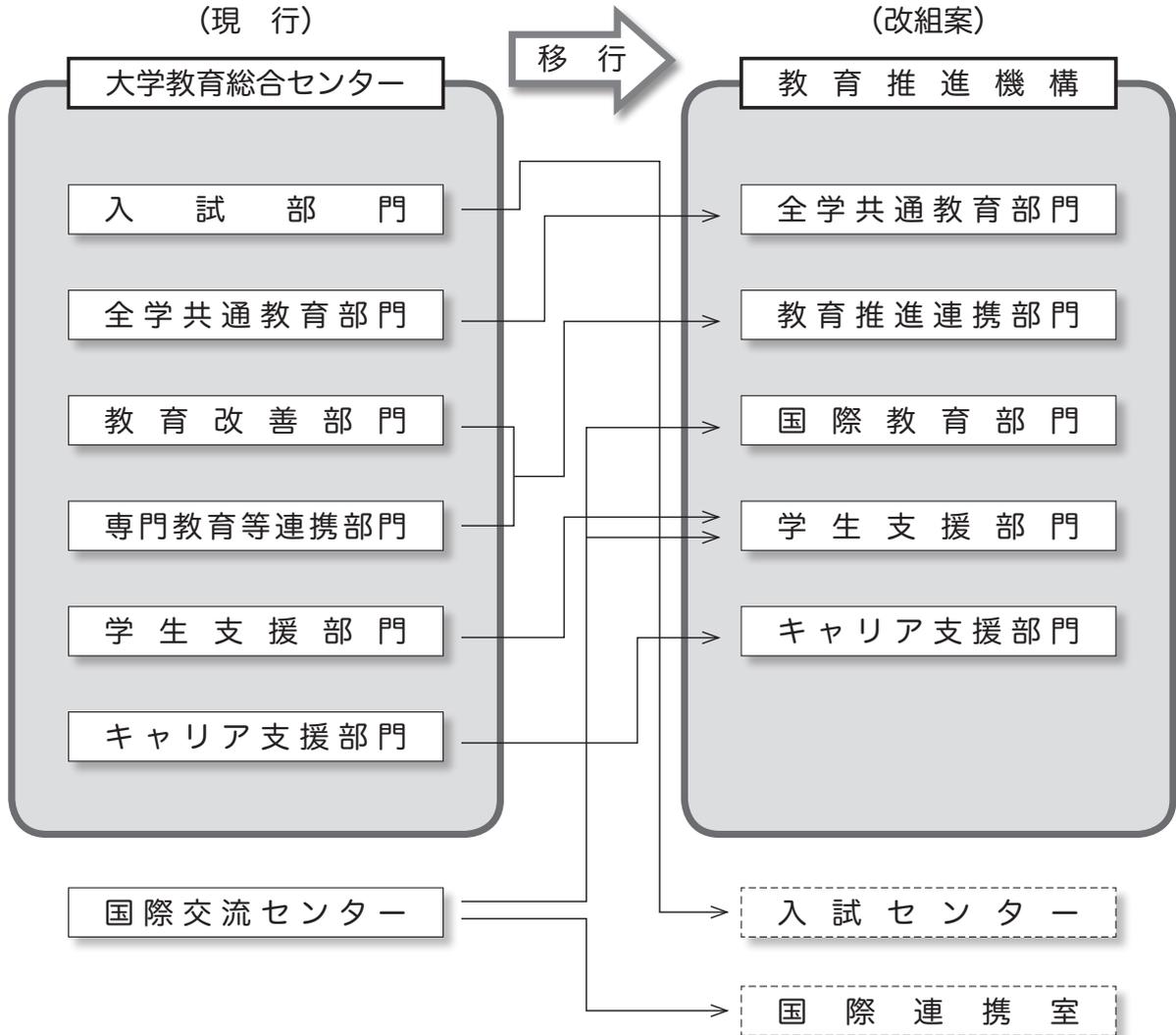


◆岩手大学のPBL

近年、高等教育機関において、「PBL(Project Based Learning/Problem Based Learning)などチームの力によって課題を解決すること」により知識に加え、コミュニケーション力や主体性、課題解決力などを育成する授業が注目されています。* 岩手大学では新たな教育手法の一つとして、全学的なPBL教育の導入を検討しています。本事業においては、地域企業・自治体等へのインターンシップの拡充により、地域を「新たな学びの場」とする実践的な「地域創生型」PBL(Project Based Learning)科目の創設を目指しています。

*平成25年度先端的学芸改革推進委員会「岩手大学における特色ある教育事例の把握等に関する調査研究(平成25年度文部科学省委託調査 株式会社リベルタス・コンサルティング)では、特色ある教育の種類及びそれを牽引している大学の事例を分析している。PBLは、教育方法の改善に関する取組15項目の一つである。

大学教育総合センターの改組計画について



教育推進機構の各部門のミッション

【全学共通教育部門】

本学の全学共通教育の企画・実施における中核として、全学共通教育の全学的な体制による円滑な実施を目指す。

【教育推進連携部門】

組織的な教育改善活動を推進して、教育内容・教育方法を高度化することを目指す。

【国際教育部門】

海外からの外国人留学生の受け入れや、日本人学生の海外留学に関する様々な支援の充実を図ることを目指す。

【学生支援部門】

学生の修学上、生活上、正課外活動の支援を行うことにより、学生生活全般の充実を図ることを目指す。

【キャリア支援部門】

学生に将来を見据えたキャリア教育の教授、的確な就職情報の提供や就職相談による就職支援を目指す。





入試部門

入試部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	高畑 義人	大学教育総合センター長
専任教員	岡本 崇宅	大学教育総合センター
兼務教員	竹村 祥子	人文社会科学部
	土屋 明広	教育学部
	小林 宏一郎	工学部
	小藤田 久義	農学部
各学部入試委員会 (正・副委員長)	横山 英信	人文社会科学部
	竹原 明秀	人文社会科学部
	我妻 則明	教育学部
	大野 眞男	教育学部
	水野 雅裕	工学部
	一ノ瀬 充行	工学部
	木村 賢一	農学部
	御領 政信	農学部
入試課長	藤原 昇	学務部

活動報告

入試部門長 高畑 義人

平成25年度入試

平成25年度入試の志願者は、一般・推薦・AO入試の総志願者数が3,577人で、昨年度より68人減で志願倍率についても3.3倍と0.1ポイント減少しました。また、一般入試については、志願者2,953人で昨年度の3,083人から130人の減少となりました。全体的には昨年度とそれほど変わりませんが、学部別で見ると教育学部の増加に対し、工学部、農学部は減少しました。詳細については、入試部門が中心となり作成した「平成25年度入学試験実施結果報告書」をご覧ください。

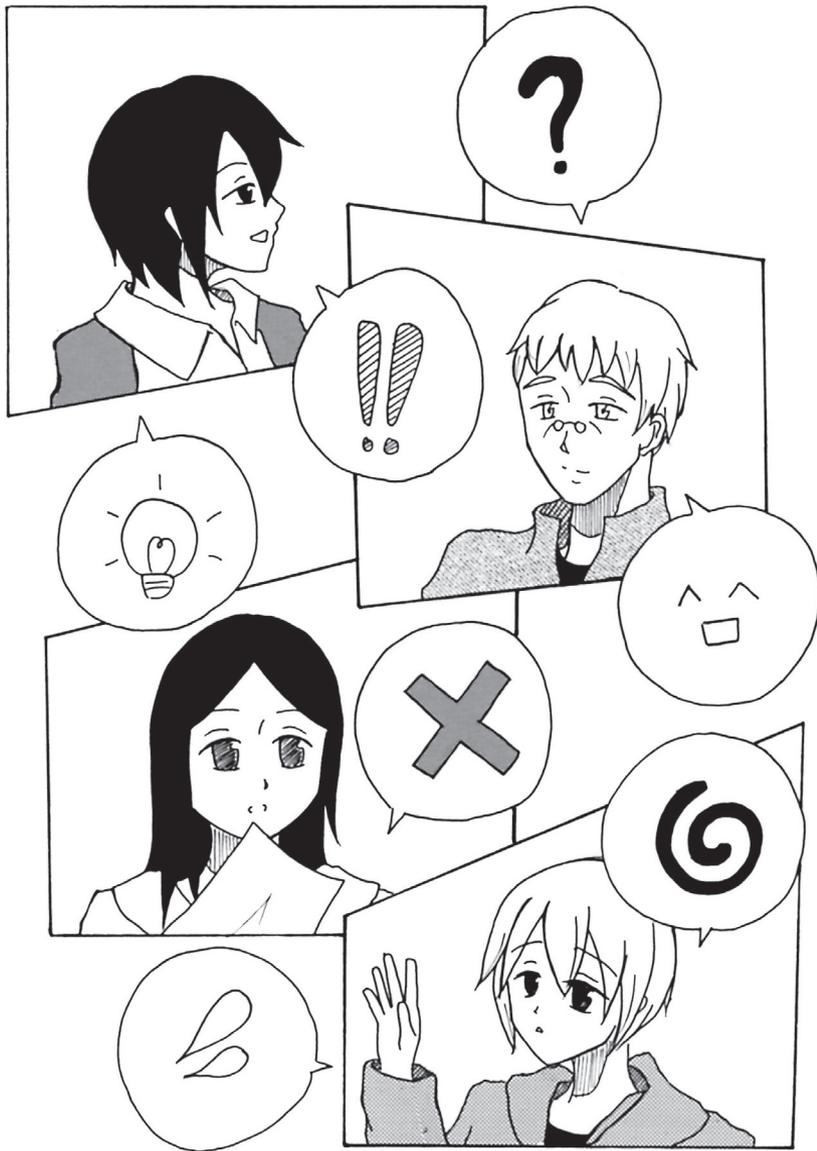
入試部門会議

平成26年度入試の作題体制、入試電算処理・日程、志願票、審査資料について確認しました。新たに策定した「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」とすでに策定している「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」との整合性について昨年度末に各学部にて検討依頼していましたが、各学部から整合性の検証は済んでいることの報告がありました。東日本大震災被災者への平成26年度検定料免除については、対象者の要件を絞り一部見直した学生支援部門会議における決定を参考に検定料についてもそれに準じた見直しを行ったうえで、引き続き免除を行うことを決定しました。7月10日に入試部門専任教員による「平成25年度入試分析結果報告会」を実施しました。12月18日には「平成27年度一般入試の経過措置意見交換会」を実施しました。

入試広報

平成25年度入試広報活動として、東北地区内の募集広報は前年度と同様に東北地区新聞社連合主催の「2013東北の著名大学進学説明会」に5月から6月にかけて7都市の会場に参加し、本学ブース訪問者は282人（総入場者4,690人）という結果でした。また、高校訪問は専任教員が北海道、青森、岩手の高校35校を訪問し、その他38会場（北海道、青森、岩手、秋田、宮城、栃木、東京、静岡）でのガイダンスと本学紹介講演を行いました。

教育研究支援施設等の見直しに伴い、平成26年度から入試センターが設置されたことから入試部門会議は平成25年度をもって廃止となりました。これまでご協力・ご支援頂いた方々に対し、この場を借りてお礼申し上げます。





全学共通教育部門

全学共通教育部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	横山英信	人文社会科学部
専任教員		
兼務教員	横井雅明	外国語分科会
	清水茂幸	健康・スポーツ分科会
	藤本忠博	情報基礎分科会
	菅野文夫	思想と文化分科会
	神常雄	心と表象分科会
	横山英信	人間と社会分科会
	御領政信	生物の世界分科会
	本田卓	自然と数理の世界分科会
	成田晋也	科学技術分科会
	佐野宏明	環境分科会
各学部教務委員会	後藤尚人	人文社会科学部
	菅野文夫	教育学部
	嶋田和明	工学部
	伊藤芳明	農学部
学務課長	浅沼良庸	学務部

COC事業への対応

今年8月に岩手大学は平成25年度～平成29年度実施の文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）に採択されました。

同事業は、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援する事業であり、全学共通教育・専門教育については、地域を志向した体系化された教育プログラムを策定することが必要になります。

本学のCOC事業に関しては全学のCOC推進委員会が最高決定機関になりますが、同事業は今後の全学共通教育にも大きな影響を与えることになるため、全学共通教育に関する事項については本部門で検討を行うことになりました。これを受けて、本部門会議において、今後の全学共通教育のあり方の基本的方向性について意見交換を行いました。全学共通教育の見直しの具体化は、平成26年度から本格化することになります。

大学組織改編と全学共通教育部門

大学組織改編によって、平成26年度から大学教育総合センターは「教育推進機構」になります。これに伴って業務改善の観点から各部門の所掌業務の見直しが行われますが、全学共通教育部門は、従来、他部門が対応してきた基礎ゼミナールや全学共通教育アンケートにも対応することになりました。

なお、本部門では昨年度から、全学共通教育の実施体制の見直し（「科目区分ごとに授業科目実施に責任をもつ学部を明確にする」という体制構築を一つの選択肢とする）の検討を行ってまいりましたが、COC事業の採択と大学組織改編という状況の変化を受けて、その本格的検討は平成26年度以降にすることにしました。

「人間と社会」分科会の教育目標・成績評価ガイドラインの作成

平成25年度から旧「公共社会」分科会と旧「現代の諸問題」分科会が統合して「人間と社会」分科会が発足しましたが、教育目標・成績評価ガイドラインはまだ作成されていなかったため、旧2分科会のものを参考にする形で、新たな教育目標・成績評価ガイドラインを作成しました。

平成26年度新規開講科目について

従来、毎年度、単発の講義として開講されていた「総合科目特別講義（危機管理と復興）」は、授業内容がほぼ確定するとともに担当教員の充実も図られ、パーマネントの総合科目として位置づけることができるようになったため、平成26年度から新規に総合科目「危機管理と復興」として開設されることになりました。

総合科目の維持・発展

総合科目についてはこれに対応する分科会は設けず、各分科会からそれぞれ1名選出された担当者と各総合科目の代表者から構成される「総合科目企画・実施委員会」によって必要な連絡・調整が行われています。

本年度も同委員会にて平成25年度の実施状況を踏まえて総合科目のあり方・実施体制について意見交換を行うとともに、平成26年度の開講科目の実施について確認を行いました。上述の「危機管理と復興」の新設もこの意見交換を踏まえたものです。

一方で、「現代職業選択論」については、従来これを担当していた教員の多くが退職され、これに代わる担当教員が見つからず、ここ数年不開講の状況が続いており、今後の開講の見込みが立たないため、平成25年度をもって廃止することにしました。

FD活動について

全学共通教育のFD活動については各分科会がその実施主体として位置づけられています。各分科会のFD活動経費については、昨年度と同様に今年度も各分科会からのFD活動経費の請求に対して原則として10万円を上限として各分科会に配分することにしました。本年度は5分科会から請求があり、FD活動経費は講演会やFD関連資料・文献の購入等として使用されました。

大規模クラスの対応

全学共通教育科目では、毎年度、曜日・時間帯・科目区分等に着目しながら各授業の履修者数の動向を分析しています。特定の曜日・時間帯に受講者が集中しないように開講数の調整を行っていますが、残念ながら大規模クラスを解消するには至っていません。

この対応としては、開講数の調整をいっそう細やかにするとともに、開講数自体を増やすことが必要になっているため、引き続きこれらについて検討を行っていくことにしています。

今年度も大規模クラスについては、担当教員の希望によって、受講生が150名を越える場合は1名、200名を越える場合は2名のティーチング・アシスタントを配置しました。

日常的な業務について

全学共通教育のカリキュラムを円滑に実施するために、各分科会や学務部学務課と連携して以下の事項についての審議・策定を行いました。

①翌年度授業計画の策定、②時間割の変更、③非常勤講師の採用、④資格試験等による単位認定、⑤高大連携科目の選定、⑥北東北3大学単位互換集中講義の実施、⑦放送大学利用科目の選定、⑧学年歴の策定、⑨ガイドラインに基づく成績評価の検証、ガイドラインの見直し、⑩年度計画の把握、など。

全学共通教育分科会名簿

(平成26年 3月31日現在)

外国語分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	横井 雅明	人文社会科学部
2		秋田 淳子	人文社会科学部
3		大友 展也	人文社会科学部
4		金子 百合子	人文社会科学部
5		川村 和宏	人文社会科学部
6		川本 榮三郎	人文社会科学部
7		北村 一親	人文社会科学部
8		GRAS Alexandre Jean	人文社会科学部
9		後藤 尚人	人文社会科学部
10		小林 葉子	人文社会科学部
11		齋藤 伸治	人文社会科学部
12		齋藤 博次	人文社会科学部
13		Schwamborn, Frank	人文社会科学部
14		中里 まき子	人文社会科学部
15		長野 俊一	人文社会科学部
16		橋本 学	人文社会科学部
17		松林 城弘	人文社会科学部
18		MULVEY Bern Martin	人文社会科学部
19		山本 昭彦	人文社会科学部
20		梁 仁實	人文社会科学部
21		UNHER MICHEL	教育学部
22		犬塚 博彦	教育学部
23		大河原 清	教育学部
24		菊地 悟	教育学部
25		境野 直樹	教育学部
26		HALL JAMES	教育学部
27		山崎 友子	教育学部
28		加藤 大雅	工学部
29		呉(諸) 松竹	工学部
30		鈴木 忠彦	農学部
31		原科 幸爾	農学部
32		尾中 夏美	国際交流センター
33		松岡 洋子	国際交流センター

全学共通教育科目 開講一覧 (H25)

履修区分	授業科目名	備考
外国語科目	英語総合Ⅰ (上級)	
	英語総合Ⅱ (上級)	
	英語総合Ⅰ (中級)	
	英語総合Ⅱ (中級)	
	英語総合Ⅰ (初級)	
	英語総合Ⅱ (初級)	
	英語コミュニケーションⅠ (上級)	
	英語コミュニケーションⅡ (上級)	
	英語コミュニケーションⅠ (中級)	
	英語コミュニケーションⅡ (中級)	
	英語コミュニケーションⅠ (初級)	
	英語コミュニケーションⅡ (初級)	
	初級ドイツ語 (入門)	
	初級ドイツ語 (発展)	
	中級ドイツ語	
	初級フランス語 (入門)	
	初級フランス語 (発展)	
	中級フランス語	
	初級ロシア語 (入門)	
	初級ロシア語 (発展)	
	中級ロシア語	
	初級中国語 (入門)	
	初級中国語 (発展)	
	中級中国語	
	初級韓国語 (入門)	
	初級韓国語 (発展)	
	中級韓国語	
	上級日本語A	
	上級日本語B	
	上級日本語C	
	上級日本語D	
	上級日本語E	
上級日本語F		
上級日本語G		
上級日本語H		

健康・スポーツ分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	清水 茂幸	教育学部
2		浅沼 道成	人文社会科学部
3		鎌田 安久	教育学部
4		上濱 龍也	教育学部
5		栗林 徹	教育学部
6		澤村 省逸	教育学部
7		清水 将	教育学部
8		大川井 宏明	工学部
9		佐々木 誠	工学部
10		北條 智彦	工学部
11		立原 聖子	保健管理センター
12		立身 政信	保健管理センター
13		早坂 浩志	保健管理センター

全学共通教育科目 開講一覧 (H25)

履修区分	授業科目名	備考
健康・スポーツ科目	健康・スポーツA	
	健康・スポーツB	
	健康・スポーツC (シーズン)	集中講義

情報基礎分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	藤本 忠博	工学部
2		遠藤 教昭	人文社会科学部
3		五味 壮平	人文社会科学部
4		白倉 孝行	人文社会科学部
5		天木 桂子	教育学部
6		井上 祥史	教育学部
7		宮川 洋一	教育学部
8		明石 卓也	工学部
9		小栗栖 太郎	工学部
10		小山 猛	工学部
11		佐藤 拓己	工学部
12		清水 友治	工学部
13		関本 英弘	工学部
14		出戸 秀明	工学部
15		中谷 直司	工学部
16		平山 貴司	工学部
17		本間 尚樹	工学部
18		松山 克胤	工学部
19		山口 明	工学部
20		伊藤 幸男	農学部
21		伊藤 芳明	農学部
22		折笠 貴寛	農学部
23		佐藤 至	農学部
24		鈴木 忠彦	農学部
25		関野 登	農学部
26		立川 史郎	農学部
27		築城 幹典	農学部
28		塚本 知玄	農学部
29		三浦 靖	農学部
30		三宅 諭	農学部
31		今井 潤	地域連携推進センター
32		中西 貴裕	情報処理センター
33		吉田 等明	情報処理センター

全学共通教育科目 開講一覧 (H25)

履修区分	授業科目名	備考
情報科目	情報基礎	

思想と文化分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	菅野 文夫	教育学部
2		池田 成一	人文社会科学部
3		音喜多 信博	人文社会科学部
4		海妻 径子	人文社会科学部
5		梶 さやか	人文社会科学部
6		中村 安宏	人文社会科学部
7		樋口 知志	人文社会科学部
8		開 龍美	人文社会科学部
9		藤本 幸二	人文社会科学部
10		宇佐美 公生	教育学部
11		今野 日出晴	教育学部
12		佐藤 由紀男	教育学部
13		武田 京子	教育学部
14		室井 麗子	教育学部
15		安井 もゆる	教育学部
16		藪 敏裕	教育学部
17		古賀 潔	農学部
18		江本 理恵	大学教育総合センター

全学共通教育科目 開講一覧 (H25)

履修区分	授業科目名	備考
人間と文化	哲学の世界	
	倫理学の世界	
	日本の思想と文化	
	アジアの思想と文化	
	欧米の思想と文化	
	日本の歴史と文化	
	アジアの歴史と文化	
	欧米の歴史と文化	
	ジェンダーの歴史と文化	
	女性と科学の関係史	
	大学の歴史と現在	
	岩手大学ミュージアム学	
	人類の歴史と地球の現在	
	日本事情A	
	日本事情B	
思想と文化		

心と表象分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	神 常雄	教育学部
2		家井 美千子	人文社会科学部
3		奥野 雅子	人文社会科学部
4		織田 信男	人文社会科学部
5		小島 聡子	人文社会科学部
6		中里 まき子	人文社会科学部
7		松岡 和生	人文社会科学部
8		山口 浩	人文社会科学部
9		山本 昭彦	人文社会科学部
10		阿久津 洋巳	教育学部
11		我妻 則明	教育学部
12		阿部 裕之	教育学部
13		岩木 信喜	教育学部
14		牛渡 克之	教育学部
15		大河原 清	教育学部
16		大野 眞男	教育学部
17		川口 明子	教育学部
18		菊地 悟	教育学部
19		木村 直弘	教育学部
20		近藤 克義	教育学部
21		境野 直樹	教育学部
22		佐々木 正利	教育学部
23		重野 和彦	教育学部
24		白石 文子	教育学部
25		煤孫 康二	教育学部
26		田中 隆充	教育学部
27		玉澤 友基	教育学部
28		平田 光彦	教育学部
29		宮崎 眞	教育学部
30		本村 健太	教育学部
31		山崎 浩二	教育学部
32		山本 奨	教育学部
33		藁谷 収	教育学部
34		立原 聖子	保健管理センター
35		早坂 浩志	保健管理センター

全学共通教育科目 開講一覧 (H25)

履修区分	授業科目名	備考
人間と文化	心の理解	
	日本の文学	
	言葉の世界	
	中国の文学	
	欧米の文学	
	欧米の言語論	
	芸術の世界	
	日本語表現技術入門	
	心と表象	

人間と社会分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	横山 英信	人文社会科学部
2		井上 博夫	人文社会科学部
3		内田 浩	人文社会科学部
4		江原 勝行	人文社会科学部
5		小野澤 章子	人文社会科学部
6		海妻 徑子	人文社会科学部
7		河合 墨	人文社会科学部
8		川崎 秀二	人文社会科学部
9		菊池 孝美	人文社会科学部
10		杭田 俊之	人文社会科学部
11		齊藤 彰一	人文社会科学部
12		笹尾 俊明	人文社会科学部
13		鈴木 護	人文社会科学部
14		高橋 宏一	人文社会科学部
15		田口 典男	人文社会科学部
16		竹村 祥子	人文社会科学部
17		塚本 善弘	人文社会科学部
18		中島 清隆	人文社会科学部
19		西牧 正義	人文社会科学部
20		深澤 泰弘	人文社会科学部
21		藤本 幸二	人文社会科学部
22		藤原 千沙	人文社会科学部
23		松岡 勝実	人文社会科学部
24		丸山 仁	人文社会科学部
25		宮本 ともみ	人文社会科学部
26		遠藤 孝夫	教育学部
27		遠藤 匡俊	教育学部
28		菊地 洋	教育学部
29		佐藤 眞	教育学部
30		滝吉 美知香	教育学部
31		田代 高章	教育学部
32		立花 正男	教育学部
33		塚野 弘明	教育学部
34		土井 宣夫	教育学部
35		土屋 明広	教育学部
36		土屋 直人	教育学部
37		名古屋 恒彦	教育学部
38		新妻 二男	教育学部
39		藤井 知弘	教育学部
40		HALL JAMES	教育学部
41		三井 隆弘	教育学部
42		麦倉 哲	教育学部
43		渡瀬 典子	教育学部
44		岩淵 明	工学部
45		小山 猛	工学部
46		平井 寛	工学部
47		岡田 啓司	農学部
48		佐藤 和憲	農学部

	氏名	専任担当
49	鈴木 忠彦	農学部
50	堀 久美	男女共同参画推進室
51	大川 一毅	評価室
52	越野 修三	地域防災研究センター
53	小野寺 純治	地域連携推進センター
54	松岡 洋子	国際交流センター

全学共通教育科目 開講一覧 (H25)

履修区分	授業科目名	備考
人間と社会	市民生活と法	
	憲法	
	経済のしくみ	
	現代社会と経済	
	市民と政治	
	現代政治を見る眼	
	社会的人間論	
	現代社会の社会学	
	地域と生活	
	地域と社会	
	対人関係の心理学	
	知的財産入門	集中講義
	著作権法概論	
	知財ワークショップ	集中講義
	キャリアを考える	
	多文化コミュニケーションA	
	多文化コミュニケーションB	
	持続可能なコミュニティづくり実践学	
	地元の企業に学ぶESD	
	地場産業・企業論	集中講義
	社会と知的財産	
	ボランティアとリーダーシップ	集中講義
科学・技術と現代社会	新規科目(総合科目→人間と社会)	
公共社会		
現代の諸問題		

生物の世界分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	御領 政信	農学部
2		安川 洋生	教育学部
3		荒木 功人	工学部
4		一ノ瀬 充行	工学部
5		坂田 和実	工学部
6		富田 浩史	工学部
7		松浦 哲也	工学部
8		山口 昌樹	工学部
9		若林 篤光	工学部
10		居在家 義昭	農学部
11		磯貝 雅道	農学部
12		磯部 公安	農学部
13		板垣 匡	農学部
14		今井 正樹	農学部
15		上村 松生	農学部
16		宇塚 雄次	農学部
17		岡村 泰彦	農学部
18		片山 泰章	農学部
19		加藤 一幾	農学部
20		鎌田 洋一	農学部
21		河村 幸男	農学部
22		木村 賢一	農学部
23		黒田 榮喜	農学部
24		小森 貞男	農学部
25		斎藤 靖史	農学部
26		佐川 了	農学部
27		佐々木 淳	農学部
28		佐藤 繁	農学部
29		佐藤 れえ子	農学部
30		佐原 健	農学部
31		澤井 健	農学部
32		島村 俊介	農学部
33		下野 裕之	農学部
34		白旗 学	農学部
35		壽松木 章	農学部
36		関 まどか	農学部
37		高橋 透	農学部
38		高橋 正弘	農学部
39		高畑 義人	農学部
40		立澤 文見	農学部
41		立石 貴浩	農学部
42		堤 賢一	農学部
43		中牟田 信明	農学部
44		長澤 孝志	農学部
45		西向 めぐみ	農学部
46		西山 賢一	農学部
47		橋爪 一善	農学部
48		橋爪 力	農学部

		氏 名	専任担当
49		平田 統一	農学部
50		古市 達哉	農学部
51		古濱 和久	農学部
52		松原 和衛	農学部
53		宮崎 雅雄	農学部
54		村上 賢二	農学部
55		村元 隆行	農学部
56		安田 準	農学部
57		山岸 則夫	農学部
58		山田 美鈴	農学部
59		山田 美和	農学部
60		山本 欣郎	農学部
61		横井 修司	農学部
62		RAHMAN ABIDUR	農学部
63		渡邊 学	農学部

全学共通教育科目 開講一覧 (H25)

履修区分	授業科目名	備考
人間と自然	生命のしくみ	前期1クラスは放送大学科目
	生物の世界	

自然と数理の世界分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	本田 卓	教育学部
2		石垣 剛	人文社会科学部
3		尾臺 喜孝	人文社会科学部
4		川崎 秀二	人文社会科学部
5		河田 裕樹	人文社会科学部
6		北爪 英一	人文社会科学部
7		奈良 光紀	人文社会科学部
8		西崎 滋	人文社会科学部
9		花見 仁史	人文社会科学部
10		三浦 康秀	人文社会科学部
11		吉村 泰樹	人文社会科学部
12		押切 源一	教育学部
13		川田 浩一	教育学部
14		重松 公司	教育学部
15		武井 隆明	教育学部
16		土谷 信高	教育学部
17		土井 宣夫	教育学部
18		中村 好則	教育学部
19		藤井 義久	教育学部
20		八木 一正	教育学部
21		山崎 浩二	教育学部
22		吉井 洋二	教育学部
23		鈴木 忠彦	農学部
24		岩淵 明	工学部
25		宇井 幸一	工学部
26		小笠原 敏記	工学部
27		長田 洋	工学部
28		鎌田 康寛	工学部
29		小林 悟	工学部
30		小林 宏一郎	工学部
31		是永 敏伸	工学部
32		坂田 和実	工学部
33		嶋田 和明	工学部
34		白井 誠之	工学部
35		鈴木 映一	工学部
36		高木 浩一	工学部
37		田野崎 真司	工学部
38		萩原 義裕	工学部
39		内藤 智之	工学部
40		中村 満	工学部
41		成田 晋也	工学部
42		北條 智彦	工学部
43		三好 扶	工学部
44		三輪 讓二	工学部
45		向川 政治	工学部
46		八代 仁	工学部
47		吉澤 正人	工学部
48		小川 薫	地域連携推進センター
49		木村 毅	地域連携推進センター

全学共通教育科目 開講一覧 (H25)

履修区分	授業科目名	備考
人間と自然	自然のしくみ	
	自然と数理	
	数理のひろがり	
	宇宙のしくみ	
	物質の世界	
	自然と法則	
	自然と数理の世界	

科学技術分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	成田 晋也	工学部
2		山崎 浩二	教育学部
3		會澤 純雄	工学部
4		安倍 正人	工学部
5		叶 榮彬	工学部
6		伊藤 歩	工学部
7		井山 俊郎	工学部
8		岩崎 正二	工学部
9		上野 和之	工学部
10		内館 道正	工学部
11		瓜生 誠司	工学部
12		大石 好行	工学部
13		大西 弘志	工学部
14		岡 英夫	工学部
15		小川 智	工学部
16		小山田 哲也	工学部
17		門磨 義浩	工学部
18		菊池 弘昭	工学部
19		木村 彰男	工学部
20		金 天海	工学部
21		越谷 信	工学部
22		今野 晃市	工学部
23		堺 茂樹	工学部
24		佐藤 淳	工学部
25		佐藤 宏明	工学部
26		佐藤 信	工学部
27		芝崎 祐二	工学部
28		嶋田 和明	工学部
29		白井 誠之	工学部
30		末永 陽介	工学部
31		関本 英弘	工学部
32		大坊 真洋	工学部
33		竹口 竜弥	工学部
34		谷口 英夫	工学部
35		千葉 則茂	工学部
36		恒川 佳隆	工学部
37		土岐 規仁	工学部
38		永田 仁史	工学部
39		中西 良樹	工学部
40		七尾 英孝	工学部
41		西川 尚宏	工学部
42		西館 数芽	工学部
43		西谷 泰昭	工学部
44		西村 文仁	工学部
45		西山 清	工学部
46		羽原 俊祐	工学部
47		晴山 巧	工学部
48		平塚 貞人	工学部

	氏 名	専任担当
49	平原 英俊	工学部
50	廣瀬 宏一	工学部
51	福江 高志	工学部
52	藤岡 豊太	工学部
53	藤代 博之	工学部
54	藤本 忠博	工学部
55	船崎 健一	工学部
56	細貝 拓也	工学部
57	松川 倫明	工学部
58	三浦 健司	工学部
59	水野 雅裕	工学部
60	水本 将之	工学部
61	村岡 宏樹	工学部
62	柳岡 英樹	工学部
63	山口 明	工学部
64	山口 勉功	工学部
65	山中 克久	工学部
66	山本 英和	工学部
67	湯川 俊浩	工学部
68	横田 政晶	工学部
69	吉野 泰弘	工学部
70	吉原 信人	工学部
71	吉本 則之	工学部
72	吉森 久	工学部
73	盧 忻	工学部
74	脇 裕之	工学部
75	武田 純一	農学部
76	山下 哲郎	農学部
77	比屋根 哲	連合農学研究科
78	対馬 正秋	地域連携推進センター

全学共通教育科目 開講一覧 (H25)

履修区分	授業科目名	備考
人間と自然	科学と技術の歴史	
	くらしと科学技術	
	科学技術	

環境分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	佐野 宏明	農学部
2		井上 博夫	人文社会科学部
3		竹原 明秀	人文社会科学部
4		中島 清隆	人文社会科学部
5		西崎 滋	人文社会科学部
6		開 龍美	人文社会科学部
7		松岡 勝実	人文社会科学部
8		丸山 仁	人文社会科学部
9		宇佐美 公生	教育学部
10		梶原 昌五	教育学部
11		金澤 俊成	教育学部
12		菊地 洋一	教育学部
13		菅原 悦子	教育学部
14		土谷 信高	教育学部
15		長澤 由喜子	教育学部
16		中村 一基	教育学部
17		名越 利幸	教育学部
18		三井 隆弘	教育学部
19		山崎 浩二	教育学部
20		石川 奈緒	工学部
21		海田 輝之	工学部
22		大河原 正文	工学部
23		大塚 尚寛	工学部
24		鴨志田 直人	工学部
25		齊藤 貢	工学部
26		清水 健司	工学部
27		白井 誠之	工学部
28		中澤 廣	工学部
29		晴山 涉	工学部
30		松林 由里子	工学部
31		南 正昭	工学部
32		青井 俊樹	農学部
33		東 淳樹	農学部
34		安 嬰	農学部
35		伊藤 菊一	農学部
36		井良沢 道也	農学部
37		岡田 秀二	農学部
38		岡田 益己	農学部
39		小田 伸一	農学部
40		金山 素平	農学部
41		鎌田 洋一	農学部
42		河合 成直	農学部
43		木崎 景一郎	農学部
44		喜多 一美	農学部
45		木下 幸雄	農学部
46		國崎 貴嗣	農学部
47		倉島 栄一	農学部
48		小出 章二	農学部

	氏名	専任担当
49	小林 沙織	農学部
50	小藤田 久義	農学部
51	颯田 尚哉	農学部
52	澤口 勇雄	農学部
53	庄野 浩資	農学部
54	関野 登	農学部
55	出口 善隆	農学部
56	橋本 良二	農学部
57	濱上 邦彦	農学部
58	廣田 純一	農学部
59	前田 武己	農学部
60	松木 佐和子	農学部
61	松嶋 卯月	農学部
62	三宅 諭	農学部
63	武藤 由子	農学部
64	山本 清龍	農学部
65	山本 信次	農学部
66	山本 清仁	農学部
67	吉川 信幸	農学部
68	阿部 久幸	教員養成機構

全学共通教育科目 開講一覧 (H25)

履修区分	授業科目名	備考
環境教育科目	「環境」を考える	
	生活と環境	
	都市と環境	
	地域の環境保全を考える	
	地球環境と社会	
	水と環境	
	廃棄物と環境	
	植物栽培と環境テクノロジー	
	森林と環境	
	動物と環境	
	人の暮らしと生物環境	
	環境マネジメントと岩手大学	

総合科目

全学共通教育科目 開講一覧 (H25)

履修区分	授業科目名	備考
総合科目	文化の伝統と現在	
	コミュニケーションの現在	
	現代社会をみる視角	
	岩手の研究	
	これからの健康科学	
	現代職業選択論	
	岩手大学論	
	図書館への招待	
	宮沢賢治の思想と文学	
	環境マネジメント実践学	
	いわて学Ⅰ	集中講義
	いわて学Ⅱ	集中講義
	国際研修－エネルギーと持続可能な社会－	集中講義
総合科目特別講義		

高年次課題科目

全学共通教育科目 開講一覧 (H25)

履修区分	授業科目名	備考
高年次課題科目	男女共同参画の実践を学ぶ	集中講義
	都市の自然再生プランニング	
	北上川流域学実習	集中講義
	津波の実際から防災を考える	集中講義
	環境都市盛岡づくりプロジェクト	
	社会のなかの法律問題を考える	
	日本と文化・社会と国際ボランティア	
	異文化理解と実践	新規科目
	高年次課題科目特別講義Ⅰ	
	高年次課題科目特別講義Ⅱ	放送大学科目 (問題解決の進め方)

平成25年度 分科会FD担当責任者名簿

外国語分科会	金子 百合子
健康・スポーツ分科会	清水 茂幸
情報基礎分科会	藤本 忠博
思想と文化分科会	開 龍美
心と表象分科会	大河原 清
人間と社会分科会	藤本 幸二
生物の世界分科会	佐原 健
自然と数理の世界分科会	八木 一正
科学技術分科会	成田 晋也
環境分科会	梶原 昌五

平成25年度 総合科目企画・実施委員会委員名簿

全学共通教育部門長 (分科会からの代表)	横山 英信
外国語分科会	秋田 淳子
健康・スポーツ分科会	清水 茂幸
情報基礎分科会	藤本 忠博
思想と文化分科会	江本 理恵
心と表象分科会	近藤 克義
人間と社会分科会	笹尾 俊明
生物の世界分科会	立石 貴浩
自然と数理の世界分科会	本田 卓
科学技術分科会	成田 晋也
環境分科会 (授業担当者 (代表))	木崎 景一郎
文化の伝統と現代	秋田 淳子
コミュニケーションの現在	橋本 学
現代社会をみる視角	西牧 正義
岩手の研究	名古屋 恒彦
これからの健康科学	澤村 省逸
現代職業選択論	
岩手大学論	江本 理恵
図書館への招待	武井 隆明
宮沢賢治の思想と文学	山本 昭彦
環境マネジメント実践学	梶原 昌五
いわて学Ⅰ・Ⅱ	(岩手県立大学が実施)
国際研修－エネルギーと持続可能な社会－	尾中 夏美
総合科目特別講義 (危機管理と復興)	後藤 尚人

〈平成25年度検証後〉

分科会教育目標及び成績評価基準のガイドライン

「外国語」分科会

(1) 教育目標

1) 英語

「英語」は、学生の習熟度に応じ、a) 十分な英語力を身につけていない学生に対しては、英文法や基礎的表現の復習を通して、読み書きの基礎的な能力、および簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力を育成し、b) 基礎的な運用能力を身につけている学生に対しては、各学問分野の入門的な書物を十分に読みこなせる読解力、平易な英語を使って正しく書ける作文力、身近な話題について説明したり意見を述べたりすることができる能力を養い、c) 高度な学力を有する学生に対しては、各学問分野のより精緻な英文や時事英語を早く正しく読める読解力、様々なトピックについて、明確な英語を用いて自分の意見を書くことができる作文力、さらには自分の意思や意見を十分に表現できるスピーチ能力やプレゼンテーション能力の育成を図る。また、全ての授業を通して異文化理解の促進を図る。

2) 英語以外の外国語

「英語以外の外国語」は、

- a) 日常生活に必要な簡単な会話ができるようにすること
- b) 外国語の基礎的な文法を習得し、簡単な文章を読むことができるようにすること
- c) 日常生活で使う簡単な文章を書けるようにすること
- d) 外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること

の4点を身につけることを教育目標とする。具体的には、初級では「入門・発展」を修めることにより各語学検定試験の4級程度、また中級では3級程度をマスターしたと認められる程度のレベルをめざす。

3) 日本語

「日本語」は、受講学生（外国人留学生）が既に初中級レベルの日本語をマスターしていることを前提に、上級レベルの会話・読解・作文等の指導を行うこととしております。日本人学生や教師、一般市民等と十分な会話を交わすことができ、日本語の新聞・雑誌・教科書等を概ね読むことができ、作文やレポートも日本人学生にあまり劣らない程度に書くことができるという日本語力を修得させることを教育目標としてめざします。

(2) 授業科目の位置づけと到達目標

1) 英語

- ・英語総合Ⅰ（初級）、英語総合Ⅱ（初級）
 - 十分な英語力を身に付けていない学生を対象にして、「読むこと」と「書くこと」を中心にして英語力の向上を図る。
- ・英語コミュニケーションⅠ（初級）、英語コミュニケーションⅡ（初級）
 - 十分な英語力を身に付けていない学生を対象にして、「聞くこと」と「話すこと」を中心にして英語力の向上を図る。
- ・英語総合Ⅰ（中級）、英語総合Ⅱ（中級）
 - 基礎的な英語力を身に付けている学生を対象にして、「読むこと」と「書くこと」を中心にして英語力の更なる向上を図る。
- ・英語コミュニケーションⅠ（中級）、英語コミュニケーションⅡ（中級）
 - 基礎的な英語力を身に付けている学生を対象にして、「聞くこと」と「話すこと」を中心にして更なる英語力の向上を図る。
- ・英語総合Ⅰ（上級）、英語総合Ⅱ（上級）
 - 高度な英語力を身に付けている学生を対象にして、「読むこと」と「書くこと」を中心にして英語力の更なる向上を図る。
- ・英語コミュニケーションⅠ（上級）、英語コミュニケーションⅡ（上級）
 - 高度な英語力を身に付けている学生を対象にして、「聞くこと」と「話すこと」を中心にして更なる英語力の向上を図る。

2) 英語以外の外国語

- ・初級ドイツ語（入門）、初級フランス語（入門）、初級ロシア語（入門）、初級中国語（入門）、初級韓国語（入門）
 - それぞれの言語について、文法と発音、および「読む」「書く」「聞く」「話す」の基本的な力を養う。
- ・初級ドイツ語（発展）、初級フランス語（発展）、初級ロシア語（発展）、初級中国語（発展）、初級韓国語（発展）
 - それぞれの言語について、文法と発音、および「読む」「書く」「聞く」「話す」の基本的な力を発展させ、各語学検定試験の4級程度の力を養う。
- ・中級ドイツ語、中級フランス語、中級ロシア語、中級中国語、中級韓国語
 - それぞれの言語において基礎的な能力を身に付けた者に対して、文法と発音、および「読む」「書く」「聞く」「話す」の基本的な力を発展させ、各語学検定試験の3級程度の力を養う。

3) 日本語

- ・上級日本語A、上級日本語E
 - 口頭表現（プレゼンテーション、討論、高度な会話）の能力を養う。
- ・上級日本語B、上級日本語F

- アカデミックリーディング（論文、資料読解）の能力を養う。
- ・上級日本語C、上級日本語G
 - 文系・理系別専門日本語（基礎専門用語）の能力を養う。
- ・上級日本語D、上級日本語H
 - アカデミックライティング（論文、レポート作成）の能力を養う。
- ・各授業は技能別に編成され、それぞれ日本語能力試験1級合格以上の知識、技能と基礎的なアカデミックジャパニーズ（専門日本語）の習得を到達目標とする。すなわち、高度の文法・漢字（2,000字以上）、語彙（10,000語以上）を習得し、大学生活を送る上で必要な総合的な日本語の知識・技能を習得させることを到達目標とする。

（3）成績評価基準のガイドライン

1) 英語

出席、授業中の言語活動（積極的な参加）、課題、試験（ミニテストなども含む）の結果を総合的に判断し、上級、中級、初級のレベルごとに設定された目標（下記参照）に照らし合わせて成績を付ける。

- ・英語総合Ⅰ（初級）、英語総合Ⅱ（初級）
 - 英文法の知識や基礎的表現力が身に付き、基礎的な読み書き能力が身に付く。
- ・英語コミュニケーションⅠ（初級）、英語コミュニケーションⅡ（初級）
 - 英語を使って簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力が身に付く。
- ・英語総合Ⅰ（中級）、英語総合Ⅱ（中級）
 - 各学問分野の入門的な書物など比較的レベルの高いテキストを読みこなせる読解力があり、また平易な英語を使って正しく書ける作文力がある。
- ・英語コミュニケーションⅠ（中級）、英語コミュニケーションⅡ（中級）
 - 英語を使って、身近な話題について説明したり意見を述べたりできる能力がある。
- ・英語総合Ⅰ（上級）、英語総合Ⅱ（上級）
 - 各学問分野のより精緻な英文や時事英語などのテキストを早く正しく読める読解力、様々なトピックについて、明確な英語を用いて自分の意見を書くことができる作文力が身に付く。
- ・英語コミュニケーションⅠ（上級）、英語コミュニケーションⅡ（上級）
 - 英語を使って自分の意思や意見を十分に表現できるスピーチ能力やプレゼンテーション能力が身に付く。

2) 英語以外の外国語

それぞれの段階で、定期試験、小テスト、出席、それ以外の平常点などの中から2つ以上の基準をもって多角的に判断する。

3) 日本語

出席、授業参加態度、課題の3つの観点から総合的に評価する。教員の意見を一方的に聞くだけでなく、授業に積極的に参加し、課される課題に対して十分に取り組み、成果を示すことに対して評価を行う。

成績評価は以下のように行う。

「秀」：出席の基準を満たし、授業に積極的に関与し、課題に対して授業を通じて得た知識を生かして自らの知見を十分に表現した。

「優」：出席、授業態度が優秀で、授業中に得た知識を十分に活用して課題に取り組んだ。

「良」：出席、授業態度が良好で、授業内容を十分理解し、課題に取り組んだ。

「可」：出席、授業態度に問題がなく、授業内容をある程度理解し、課題に取り組んだ。

「健康・スポーツ」分科会

(1) 教育目標

健康・スポーツ科目は、スポーツの実践を通して、健康と体力の保持増進を図るとともにコミュニケーション能力を高め、スポーツの科学的方法やスポーツ文化についても理解を深め、生涯スポーツ社会の実現に対応できる実践力を育てることを教育目標とします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

評価方法	割合	評価の観点				評価の具体的な基準	
		関心・意欲・態度	知識・理解	技能・表現	志向・判断		
健康・スポーツA	平常点	75%	◎	○	○	○	S：授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に大いに取り組んでいる。 A：授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 B：授業に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 C：授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが少し不足している。 D：授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが全く不足している。
	課題	25%		◎	○	○	S：課題・レポートの内容がかなり秀でている。 A：課題・レポートの内容が秀でている。 B：課題・レポートの内容が普通である。 C：課題・レポートの内容が低い。 D：課題・レポートの内容がかなり低い。
健康・スポーツB	平常点	75%	◎	○	○	○	S：授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に大いに取り組んでいる。 A：授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 B：授業に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 C：授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが少し不足している。 D：授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが全く不足している。
	課題	25%		◎	○	○	S：課題・レポートの内容がかなり秀でている。 A：課題・レポートの内容が秀でている。 B：課題・レポートの内容が普通である。 C：課題・レポートの内容が低い。 D：課題・レポートの内容がかなり低い。
健康・スポーツC	平常点	75%	◎	○	○	○	S：集中講義に積極的に参加し協力して冬季スポーツの実践に大いに取り組んでいる。 A：集中講義に積極的に参加し協力して冬季スポーツの実践に取り組んでいる。 B：集中講義に参加し協力して冬季スポーツの実践に取り組んでいる。 C：集中講義に参加し協力して冬季スポーツを実践する取り組みが少し不足している。 D：集中講義に参加し協力して冬季スポーツを実践する取り組みが全く不足している。
	課題	25%		◎	○	○	S：課題・レポートの内容がかなり秀でている。 A：課題・レポートの内容が秀でている。 B：課題・レポートの内容が普通である。 C：課題・レポートの内容が低い。 D：課題・レポートの内容がかなり低い。

平常点・課題のうち、「D」がある場合は不可とする。

「情報基礎」分科会

(1) 教育目標

「情報基礎」は、高度情報通信社会において主体的に学生生活、社会生活を送る上で必要とされる基礎・基本的な能力を育成するために開設された科目です。

この科目は、情報及び情報手段を活用できる基礎的な知識や技能を習得することを通して、情報や情報手段を適切に取捨選択し意思決定するために必要な見方や考え方を身につけること、さらには、情報化の進展が人間や社会に及ぼす影響を理解して今後の情報社会に参画する上で望ましい態度を身につけることを教育目標としています。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 授業の目的

授業の目的にあたっては、分科会の教育目標に従って、この授業科目を学ぶ目的を、授業を行う側の視点から明記する。

全学共通教育の基礎としての部分で、「情報及び情報手段を活用できる基礎的な知識や技能を習得すること」「情報や情報手段を適切に取捨選択し意思決定するために必要な科学的な見方や考え方を身につけること」「今後の情報社会を参画する上で望ましい能力と態度を身につけること」は共通する授業の目的であると考えられる。

しかし、同時に専門教育の基礎として、最終的にどのようなことができるようになって欲しいのか（「実験データを分析し、レポートを作成する」という場面において、エクセルやワード等を適切に選択し利用して、目的を達成できるようになって欲しいのか、「授業で用いる教材を作成する」という場面において、ワードやパワーポイント等を適切に選択し利用して目的を達成できるようになって欲しいのか、など）については、各学部、学科ごとに今後の専門教育との関連を明らかにし、検討した上で決定し、明記することとする。

2) 到達目標

授業の目的に沿って、今度は、具体的に「学生が何をできるようになるのかを自分自身で確認できるような形で」到達目標を記述する。授業の目的が、授業をする側（教員側）からの視点で書かれたものであれば、到達目標は、学生側の視点で書かれたものとなる。その意味では、学生自身の自主学習に対する指針ともなるべき部分である。

上記の「授業の目的」と関連して、「情報及び情報手段を活用できる基礎的な知識や技能を習得」でどの程度の知識や技能を習得しなければならないのか（ワード、エクセルを使える、UNIXの基本的なコマンドが使える、など）、「情報や情報手段を適切に取捨選択し意思決定するために必要な見方や考え方を身につける」ために、どのような題材を学習し、どこまでできるようにならなければいけないのか（「実験データを分析し、レポートを作成する」という課題において、エクセルやワード等を適切に選択し利用して時間内に目的を達成できる、「授業で用いる教材を作成する」という課題において、ワードやパワーポイント等を適切に選択し利用して時間内に目的を達成できる、など）、「情報化の進展が人間や社会に及ぼす影響を理解」でどのよう

な理解を求めるのか（開発者の立場から人間や社会に及ぼす影響を考えるのか、ユーザ（消費者）の立場から考えるのか、など）など、具体的な到達点として何を要求するのかについては、各学部、学科ごとに今後の専門教育との関連を明らかにし、検討した上で具体的に示すようにする。

情報基礎分科会においては、この「到達目標」を明確にすることが要求されている。少なくとも、同じ学部もしくは学科内では、一定の到達目標を持つ必要がある。

3) 成績評価の方法と基準

○成績評価方法

出席点（授業に出席したことによる点数）は不可だが、平常点として、授業中に実施した課題（指示されたことができたかどうか）による評価を加えることは十分に考えられる。また、実践的な能力を身につけることを目指す意味より、最終テストによる評価だけではなく、できる限り、通常の授業及び授業時間以外に学生が行う課題を評価方法として加えるようにする。

○観点

- ・それぞれの評価方法に対して、複数の観点からの評価を行うことを意識する。
（人間の身体を測定するのに、身長（長さ）を測定したり、体重（重さ）を測定したりするように、できるだけ色々な観点で測定した方が実態に近づける、という考え方に基づく。）
- ・4つの観点（「関心・意欲」「知識・理解」「技能・表現」「思考・判断」）をバランス良く含むこと。
- ・「知識・理解」もしくは「技能・表現」だけに偏らないように配慮すること。
- ・情報基礎では、特に「思考・判断」（自分で選択できる）の観点を取り入れ、そのような実習を行わせるようにする。

○基準

- ・それぞれの「方法」において、具体的に何をどのように評価するのかを明記すること。
- ・それぞれの「方法」において、全体（100%）に対して、どのぐらいの割合（例えば30%など）を占めるものなのかを明記すること。

○秀、優、良、可

設定した到達目標に照らし合わせて、「秀」「優」「良」「可」の基準を明記すること。例えば、「秀：与えられた課題に対して、使うソフトウェアを自分で選択して時間内に解決できる」、「優：与えられた課題に対して、使うソフトウェアの候補を指示すれば、その中から選択して、時間内に解決できる」など、それぞれの「到達目標」に照らし合わせておおよその「像」を示すこと。

特に「可」の学生は最低限どの程度の能力が身につけているのかについては、できる限り明記すること。

情報基礎分科会では、「到達目標への達成度を基準とした絶対評価」を行うことを基本とするが、秀、優、良、可のバランスが極端にならないよう（ほぼ全員が秀、ほぼ全員が不可など）、常に到達目標及び評価の基準を見直すこととする。

「思想と文化」分科会

(1) 教育目標

「思想と文化」は、人間と思想・文化との関係を主題とする教養科目です。

すなわち、これは、主として思想・文化・歴史の観点から、人間の生み出す思想と文化およびその歴史をめぐるさまざまな問題を主題として扱う科目です。この科目では、学生の皆さんが現代の思想や文化に特徴的な課題や、それを理解するために必要な歴史的な課題にふれるとともに、あわせて思想・歴史・文化にかかわる学問分野に特有の「ものの見方・考え方」にもふれることを通じて、教養科目全体としての教育目標〔特に①と②〕の達成をめざします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 到達目標

- ・学生の皆さんが、思想・文化・歴史にかかわる学問分野の「ものの見方・考え方」や知識を幅広く習得することにより、自分自身の専門分野の仕事の全体的な意味や役割を知り、その専門的な知識を生かすことのできるような幅広い教養を自ら培うことができるようになる。
- ・学生の皆さんが、あらゆる学問分野の基盤になっている各種の常識・通念を根底的に深く問い直すための、深い「ものの見方・考え方」や知識を習得することにより、思想・文化・歴史との関係において、創造的・個性的に生きるうえで必要な深い教養を自ら培うことができるようになる。

2) 成績評価基準

(A) 成績評価の方法について

- ・現行のシラバス手引き等にある評価項目をふまえて評価を行うが、個々の授業科目において評価方法の選択の余地が実質的に残されるよう配慮する。
- ・評価項目としては、出席、テスト、レポート、レスポンスカードなど、共通の評価項目を踏まえて評価していく。
- ・各評価項目の重みづけについては、授業担当者が自身で決定できるものとする。

(B) 成績評価の基準について

- ・シラバスで定めた「到達目標」の達成度を基準として成績評価を行う。

評価	基準
秀	所期の「到達目標」にほぼ完全に達しているか、または傑出した水準に達している。
優	やや問題はあるが、所期の「到達目標」に十分に達している。80～89点に対応。
良	誤りや不十分な点があるが、所期の「到達目標」にかなりの程度まで達している。70～79点に対応。
可	所期の「到達目標」に最低限ではあるが達している。60～69点に対応。
不可	単位を与えるためにはさらに勉強が必要である。60点未満に対応。

「心と表象」分科会

(1) 教育目標

「心と表象」は、人間の心の世界とその具体的な表れ（表象）としての言葉・文学・芸術の世界を主題とする教養科目です。すなわち、これは心の世界、言葉と文学の世界、芸術の世界の諸相とその背景にある諸問題を主題として扱う科目です。

この科目では、学生の皆さんが、人間の心に関する諸問題と人間の表象（表現）活動としての言葉、文学および芸術の諸相を理解するとともに、あわせて心、言葉、文学、芸術にかかわる学問分野に特有の「ものの見方・考え方」にもふれることを通じて、教養科目全体としての教育目標〔特に①と②〕の達成をめざします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 到達目標

- a) 学生の皆さんが、心の世界、言葉と文学の世界、芸術の世界にかかわる学問分野の「ものの見方・考え方」や知識を幅広く習得することにより、自分自身の専門分野の仕事の全体的な意味や役割を知り、その専門的な知識を生かすことのできるような幅広い教養を自ら培うことができるようにする。
- b) 学生の皆さんが、あらゆる学問分野の基盤となっている各種の常識・通念を根底的に深く問い直すための、深い「ものの見方・考え方」や知識を習得することにより、心の世界、言葉と文学の世界、芸術の世界との関係において、創造的・個性的に生きるうえで必要な深い教養を自ら養うことができるようにする。

2) 成績評価基準のガイドライン

- a) 科目間の不均衡をさけるため、各授業担当者は、成績評価が（ほぼ全員がAとかDなど）極端に偏らないよう配慮する（この点はシラバス等には記載しない）。
- b) 各授業担当者は、担当科目の成績評価の方法と基準をあらかじめシラバスに明示する。〔シラバスに入力する成績評価の方法と基準は、基本的にアイアシスタントでのシラバス入力の枠組みに準拠する。〕
- c) 評価方法の項目としては、①試験、②レポート、③講義への貢献度（出席回数、課題発表、質疑・討論等）、④その他講義内容に応じ各担当教官が指示した事項、が挙げられるが、これらの中から各授業担当者が授業の内容に応じて、できるだけ複数の評価方法を適宜選択し、シラバスに明示する。

「人間と社会」分科会

(1) 教育目標

「人間と社会」分科会は、単なる個々人の集合ではなく、人と人との関係を含んだ概念である「社会」について、そこで生じている様々な問題を主題として取り上げる科目を担当します。

「人間と社会」分科会は、混沌としているように見える複雑な社会問題について、受講生がその表層部分にのみ注目するのではなく、広い視野をもって個々の社会現象間の連関を認識することを通して、社会を科学的に把握するための知識や「ものの見方・考え方」を修得し、もって現代社会に適切に対応し、これからの社会を形成していく市民としての基礎的素養を身につけることを教育目標とします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 成績評価の方法

成績評価は出席点（授業に出席したことによる点数）のみでは行わない。最終試験・最終レポートだけではなく、出席状況やレスポンスカードの内容、中間試験・中間レポートなども評価の対象とする。

2) 成績評価の基準

- ・秀 — 授業の内容を十分に理解するとともに、到達目標に照らして学修成果がとくに高い水準に達している（100点～90点）。
- ・優 — 授業の内容を十分に理解するとともに、到達目標に照らして学修成果が高い水準に達している（89点～80点）。
- ・良 — 授業の内容を十分に理解するとともに、到達目標に照らして学修成果が一定程度の水準に達している（79点～70点）。
- ・可 — 授業の内容をだいたいにおいて理解するとともに、到達目標に照らして学修成果が合格水準を超えている（69点～60点）。

「生物の世界」分科会

(1) 教育目標

「生物の世界」は現代社会に生きている人、すなわちこれから社会にでて生きていこうとしている理科系、文科系を問わず全ての学生に教養としての現代生物学あるいは生命科学を様々な角度から複眼的、鳥瞰的かつ総合的に概説することによって、学生が生命のしくみを日常生活と関連づけて理解し、いのちのあり方を見つめ、改めて自分を知ることができるような講義内容とし、科学的な生命観を養うことを目標とする。

(2) 成績評価基準のガイドライン

「生物の世界」の分科会は以下に示した成績評価基準と成績評価方法を採用。本分科会の教育目標に従い、生命のしくみに対する科学的な「ものの見方・考え方」の習得を測定するために多様な評価方法を採用。

1) ガイドライン

秀：生命のしくみについて十分に理解し、自分なりの観点で生命現象を科学的に分析し、十分に理解する能力を身につけていること。(90点)

優：生命のしくみについて十分に理解し、一定の観点で生命現象を科学的に分析し、理解する能力を身につけていること。(80点)

良：生命のしくみについて理解し、一定の観点で生命現象を科学的に分析し、理解する能力を身につけていること。(70点)

可：生命のしくみについて理解し、科学的に思考する能力を身につけていること。(60点)

不可：上記「可」の到達目標を達していない。

2) 成績評価法

平常点、小テスト、レポート、期末試験等により評価する。これらの成績評価の比重については、担当教員の総合判断による。

「自然と数理の世界」分科会

(1) 教育目標

「自然と数理の世界」分科会は、自然科学的な自然認識の到達点を踏まえつつ、自然科学における各学問分野、とりわけ、数学・物理学・化学の分野を中心として、それぞれの学問分野に特有な基礎的概念と「ものの見方・考え方」の理解を図り、論理的な思考力を養成することを目標とする。

(2) 成績評価基準のガイドライン

「自然と数理の世界」分科会は、以下に示した範囲内で成績評価基準と成績評価方法を作成する。本分科会の教育目標に照らし、基礎的概念と「ものの見方・考え方」の理解や論理的な思考力を測定するために多様な評価方法を採用のものとする。

- ※ 到達目標に対応した基準を設定する。どのような到達目標に到達すれば、「秀」、「優」、「良」、「可」なのかを明記する。
- ※ 成績評価の方法を示す。平常点、小テスト、レポート、期末試験など。
- ※ 複数の方法で評価する場合には、それぞれの方法でどのような基準で判定し、およそどのくらいの割合で集計するかを明示する。

「科学技術」分科会

(1) 教育目標

科学技術と人間社会の関わりをテーマに、現代社会の繁栄を担う様々な科学技術開発の歴史と現状そして将来を、社会や経済との関連も含めて理解し、幅広い教養とものの見方・考え方を習得することを目指します。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 到達目標……中世・近世以降の科学と技術の歴史と、先端科学技術（例えば、ロボット、コンピュータ、エレクトロニクス、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、新材料など）の現状を、講義と自宅学習を通じて理解する。さらに、人間社会との関わりの中から科学技術の将来のあるべき姿について、自らの考えをまとめることが出来る能力を習得する。

2) 成績評価の基準

本分科会では以下に示す評価基準で評価する。

- ・これまでの科学と技術の歴史と、先端科学技術のいくつかの分野の歴史と現状を理解出来ているか。（「可」、「良」の評価基準とする）
- ・科学技術の歴史と現状の理解に基づき、将来のあるべき姿について自らの考えをまとめることが出来るか。（「優」、「秀」の評価基準とする）
- ・成績は平常点（レスポンスカードの提出や授業中の発言など）20%、レポートや期末テスト80%で総合評価する。
- ・関連する内容に関する書籍や論文を自ら読んでまとめるレポートを課し、評価に加える。

「環境」分科会

(1) 教育目標

「環境教育科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられる教育科目です。

この科目では、教育科目全体としての上記の教育目標に沿い、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことをめざします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) ガイドライン

秀：到達目標（各教官が定める）のほぼすべてにおいて特に高い水準に達している。（90点）

優：到達目標のほぼすべてにおいて高い水準に達している。（80点）

良：到達目標をある程度達成している。（70点）

可：到達目標の一部を達成しているが、学習成果が十分でない。（60点）

不可：到達目標を達成していない。

2) 成績評価方法

平常点 20%

レスポンスカード 40%

学期末試験 40%

なお、教員の判断により、レポートを課し、レスポンスカードの得点に含めても良い。

平成20年3月3日

オムニバス方式授業科目の講義間の連携のためのガイドライン

複数の教員が一つの授業科目を担当するいわゆるオムニバス授業は、多角的・学際的視野を学生に提供できるなど長所が多い反面、一つの授業科目としての統一性に欠けるという欠点も指摘されてきた。事実、各講義担当者が自分の担当分以外には無関心で、受講者の立場からすると前後に脈絡のないバラバラな話を聞かされたという印象しか残らない授業科目も皆無ではなかったと思われる。

こうした反省を踏まえて、平成17年に大学教育センター全学共通教育企画・実施部門では、総合科目担当者を対象にしたアンケート調査や当時の「総合科目分科会」の検討を経て、「オムニバス方式の学際的な授業科目における講義間の密接な連携について」（平成17年9月）を策定し、総合科目の授業方法の改善に活用してきた。

以下に箇条書きされている新たなガイドラインは、旧「総合科目分科会」に替る「総合科目企画・実施委員会」が従来の指針を再検討するとともに、課題として残された点にも検討を加えて策定したものであり、平成20年度開講科目から活用することとする。

- 1 オムニバス方式授業科目の講義間の連携は以下のような方法で当該科目の代表者を通じて達成を図る。
 - (1) 各授業科目の担当代表者は科目の責任者及びコーディネーターの役割を担い、各科目は、原則として、一人の担当者による通常の科目と同じように担当代表者の科目として扱う。なお、代表者及び授業担当者の教育貢献度等については別途検討する。
 - (2) 担当代表者は授業の目的・到達目標・授業の概要・成績評価基準などについて講義担当者間で共通理解を図り、シラバス記載や成績提出等に責任を持つ。
 - (3) 担当代表者は初回のオリエンテーション等により受講者に対して授業の目的等について周知を図る。
 - (4) 担当代表者は原則として2回程度講義担当者全員を招集して授業の趣旨・内容等について検討会など（授業に組み入れることも可）を開催し、講義担当者全員が授業科目全体の把握に努める。講義担当者に学外者がいる場合も何らかの方法で相互理解を図る。
 - (5) その他、担当代表者は可能な範囲内で他の担当者の講義に出席するなど連携に必要なと思われる措置を講ずる。
- 2 各講義担当者は上記の役割を担う代表者に協力するとともに、以下の点に留意する。
 - (1) 各講義担当者は授業科目全体における自分の担当分の位置と意義を十分理解する。
 - (2) アイアシスタントなどの有効活用により、講義内容や学生への配付資料等を担当者間で共有する。
 - (3) その他連携に必要なと思われる措置を講じる。
- 3 大学教育総合センターは担当代表者が円滑に役割を果たせるように協力する。
 - (1) 大学教育総合センターは「総合科目企画・実施委員会」を通じてオムニバス方式授業の実施状況を把握する。
 - (2) その他連携に必要なと思われる措置を講じる。

平成20年3月3日

「総合科目」の教育目標と成績評価のガイドライン

(1) 教育目標

多角的な「ものの見方・考え方」や学際的な知識を習得することにより、激しく変動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を学生が自ら培うことを支援する。（『履修の手引き』より）

(2) 成績評価のガイドライン

1) 授業科目の目的

上記の「総合科目」全体の教育目標を踏まえて、授業科目ごとに目的を設定する。

2) 授業科目の到達目標

授業の目的に沿って、「具体的に何を出来るようになるのかを学生自らが確認できる形で」到達目標を記述する。言い換えれば、教員が設定した目的に対して学生は何か出来れば到達したことになるのかを具体的に記述して、自主的な学習の指針を与える。

3) 成績評価の方法と基準

- ・到達目標を踏まえた絶対評価とする。
- ・期末試験だけでなく、複数の方法で評価する。
- ・平常点については出席回数だけではなく、レスポンスカード、iカード等も利用する。
- ・レポートやテストなども複数の観点（関心・意欲、知識・理解、技能・表現、思考・判断など）から評価する。
- ・上記の評価方法について何（平常点、テストなど）をどの程度の割合（例えば平常点30%など）で評価するかを明示する。

4) 授業担当者間の確認

オムニバス形式授業科目では「オムニバス方式授業科目の講義間の連携のためのガイドライン」を踏まえて、成績評価についても一つの授業科目としての統一を図れるよう成績評価基準等を確認する。

Lock!

- 鍵をかけましょう。
- 自転車に乗るときはちゃんと止めましょう。
- 運転中のイヤホンは大変危険なのでやめましょう。



自転車の鍵をかけることを忘れずに行きましょう。



教育改善部門

教育改善部門会議委員名簿

(平成25年10月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	武井隆明	教育学部
全学共通教育部門長	横山英信	人文社会科学部
専任教員	江本理恵	大学教育総合センター
兼務教員 (学部選出委員)	井上博夫	人文社会科学部
	後藤尚人	人文社会科学部
	重野和彦	教育学部
	山崎浩二	教育学部
	小林悟	工学部
	土岐規仁	工学部
	濱上邦彦	農学部
	山田美和	農学部
学務課長	浅沼良庸	学務部

活動報告

部門長 武井 隆明

本年度は、各部局で実施している授業アンケートの活用方法、および卒業（修了）時学生アンケートの活用方法と実施形態について、主に審議した。

授業アンケートについては、工学部においては研究科も含め、結果の分析と報告書の作成を行い、その結果に基づいた各学科毎に改善策の検討を依頼し、アンケート結果の概要と授業改善の方針の公開まで行っていることを昨年度に報告いただいた。そのことを受け、継続して検討を行ったものである。検討の結果、アンケートの質問内容が個々の授業にかかわる内容であり、このままでは課程・コースでの組織的な活用が難しいなどの意見があり、質問項目の見直しの必要性が明らかになった。また、シラバスを意識した質問内容になっていないなどの意見も出された。今後の見直しに期待したい。

卒業（修了）時学生アンケートについては、平成22年度からweb回答により実施しているが、回答率が低下してきているため、その実施方法について検討を行ったものである。検討の結果、紙媒体で実施することにした。なお、この検討を通して、「アンケートの利用・目的が形骸化している点を改善し、回答への動機付けが必要ではないか」、「全数調査である必要はなく、サンプル調査でよいのではないか」、「卒業生の回答なので、改善事項等をHP上で公開しては」等の意見も出され、活用方法やアンケート項目についても検討を行うこととした。なお、今年度行うアンケート項目の変更については最小限にとどめることにした。また、次年度以降のアンケートの実施に当たっては、学習成果の達成度調査も視野に入れて検討する必要性も議論された。

今期は「学生による授業アンケート」活用事例報告会に代え、学生支援課の協力の下、学生議会と連携して、「よりよい授業のために」というテーマで学生との懇談会（ガンチョンタイム）を開催し、そこで出された意見等をもとに、部門会議で意見交換を行い、各部局に持ち帰ってもらうこととした。

ガンチョンタイムは、1月15日（水）のお昼に開催し、学生15名、教員10名の参加を得、3グループに分かれて懇談した。ガンチョンタイムで出された意見等は、主催した学生議会及び出席した部門会議兼務教員から、それぞれが取りまとめたものを戴き、部門会議の資料として意見交換を行った。

以下に、今年度の活動の概容を報告する。詳細は資料編を参照願いたい。

【定例事業】

*全学共通教育科目の授業アンケートの実施

十分に定着してきたこともあり、学生への負担も考え、2010年度から原則隔年で行うこととしている。本年度は後期開講科目におけるアンケートの実施を原則とした。なお、アンケート結果は全学共通教育の各分科会の実情を把握するデータともなると考え、全学共通教育部門会議に資料として2012年度から提出している。

***全学共通教育科目の授業アンケートに基づく優秀授業の選出**

2013年度の授業アンケートは後期に行ったため、それに関わる優秀授業の選出は2014年度に行うことになった。

***全学共通教育科目の授業公開**

前期は6月の第2週、後期は11月の第3週に実施した。各学部の専門科目についても、希望があれば合わせて案内をした。

***FD研修会**

「これからの大学評価の在り方と3つのポリシー」をテーマに、8月22日、23日に八幡平ハイッで実施した。

***FD講演会・学習会等**

新規採用職員研修はじめ、様々な形で実施している。後掲の資料参照。

***入学前教育**

推薦入試、AO入試合格者を対象に、入学時までの学習の継続を目的に行われている。大学教育総合センター運営委員会の下に入学前教育実施小委員会を置いて実施されている。

***卒業（修了）時学生アンケート**

インターネットを利用したアンケートの実施で、4年目となった。回収率が悪く、2013年度から紙媒体での回収とした。

【審議事項】

主に、各部局で実施している授業アンケートの活用方法、および卒業（修了）時学生アンケートの活用方法と実施形態について審議し、授業アンケートの活用方法については、質問項目の見直しなど、各学部・研究科において現在検討中であることから、各学部・研究科での検討状況について、随時報告願うこととし、継続して審議することとした。

また、卒業（修了）時学生アンケートについては、「実施方法」「活用方法」及び「アンケート項目」について審議し、実施方法については、webの活用から紙媒体で実施することにした。アンケート項目については、今年度は微修正のみとし、組織的に活用できるようアンケート項目の内容について継続して審議することとした。また、大学機関別認証評価を踏まえ、学習成果の達成度調査も併せて継続して審議することとした。

平成25年度大学教育総合センター主催のFD関連一覧

教育改善部門 江本理恵

◆新規採用教員研修（春）・（秋）

【実施の目的】

本研修は、岩手大学の教員として授業を実施するのに最低限必要な知識等を身につけ、支障なくより良い教育活動に取り組んでいただくことを目的に行うものです。

【対象者】

春の研修は、前年度の10月2日～今年度の4月1日までに着任された教員、秋の研修は、4月2日～10月1日に着任された教員を対象としています。人事課より案内を出し、人事課主催の研修の一部として実施。

【実施日時】

春：平成25年 4月 3日13：30～17：00・4日13：30～15：00

秋：平成25年10月 8日13：30～17：00

【実施内容】

- * 岩手大学の教育の仕組み
- * 学務部各課訪問
- * 図書館ツアー
- * 教育関係情報システム研修（アイアシスタント、サイボウズ、大学情報データベース他）

◆CALL教室説明会

【実施の目的等】

学生センターA棟に整備されているCALLシステムを導入した3部屋について、業者による使い方等の説明会を開催しました。

【日時】

平成25年4月 9日

平成25年4月12日

◆発達障がい学生の修学支援に関する学習会

※特別学生支援室、学生支援部門と共催

【実施の目的等】

発達障がい独特の特性のために、発達障がいのある大学生は大学生活を送るうえで様々なハンディを抱えています。このような発達障がい学生が本来の能力を活かして大学生活を送る手助けをするためには、教職員が発達障がいの理解を持ち、適切な対応方法を学ぶことが必要不可欠です。本学習会は、岩手大学はもとより、いわて高等教育コンソーシアムの構成大学の教職員を対象として、発達障がい学生の理解を深め、対応方法を学ぶことを目的として実施しています。

【日時】

平成25年7月31日（水）13：00～15：00

平成25年8月2日（金）10：00～12：00

平成25年8月7日（水）14：00～16：00

※3回共同じ内容です。

【場所】

学生センターB棟1F多目的室

【講師】

岩手産業保健推進センター 臨床心理士 坂下 史絵 氏

【内容】

- ・発達障がいに関する基礎的な知識と対応方法について
- ・岩手大学学生特別支援室の支援状況について
- ・質疑応答

【参加者】

8月7日30名 8月2日23名、7月31日26名

◆全学共通教育授業公開

【実施の目的等】

岩手大学の全学共通教育について、保護者、市民の外部の方に理解を深めていただくとともに、改善に必要な意見をいただくことを目的として実施しています。

【日時】

（前期）平成25年6月3日～6月7日

（後期）平成25年11月11日～11月15日

【実施概要】

期間中、全学共通教育の全開講科目を一般に公開し、保護者、市民の方に参観していただいています。来ていただいた参観者にはアンケート等を実施し、参観した授業等についてのご意見をいただいています。平成25年度は、前期10名、後期23名の参観者がありました。

【コメント】

以前から参観された方には授業公開に対する評判はよかったです。参観者が増えないという問題がありました。広報を改善し、より多くの参観者を集める努力をしているところです。

◆全学共通教育授業アンケート

【実施の目的等】

全学共通教育の各授業科目について、学生からの意見をきき、改善に活かすことを目的として実施。平成25年度は、前期は基礎ゼミと希望科目、後期は全開講科目を対象としてアンケートを実施しました。

※詳細は別紙参照。

◆FD研修会

【テーマ】これからの大学評価の在り方と3つのポリシー

【実施の目的等】

岩手大学（いわて高等教育コンソーシアム）として、教育の質の充実を図るために、大学の理念や目標、教育課程のあり方、教育の内容や方法について教員の共通理解を深めるとともに、日頃接点の少ない他大学の教員相互の意思疎通を図ること、そして、教員自身の「教育者」としての責任を相互に確認することを目的とした教員研修会を実施します。

今年度は、「認証評価」に代表される大学評価に焦点をあて、大学の説明責任として何が要求されているのかを読み解き、これからの大学教育のあり方について、一人一人が考え、議論を交わす機会を目指します。また、それに付随して策定した「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」等の見直しを行い、構成員一人一人がこれらの「方針」を意識し、系統だった学士課程教育プログラムの実施を考える機会でもあります。



【日時】

平成25年8月22日・23日

【実施内容等】

基調講演：これからの大学評価

プログラムⅠ：大学機関別認証評価「大学評価基準」を学ぶ

プログラムⅡ：評価に左右されない大学を考える

プログラムⅢ：「学位授与の方針」ブラッシュ・アップ・ワークショップ

※詳細は別紙参照

◆3つのポリシー・ブラッシュ・アップ・ワークショップ

【実施の目的】

今年度の年度計画である、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針の見直しを行うために、ワークショップを行いました。

【日時】

平成25年12月25日 13:30～15:00

【実施内容】

参加者でグループを構成し、お互いの方針を読んで、意見を交換しあう活動を行いました。

◆ガンチョンタイムの実施

【テーマ】「より良い授業のために」

【実施の目的等】

「授業」について、学生から率直な意見をいただき、今後の改善に反映させることを目的として、学生議会と共同で、「より良い授業のために」をテーマにした「ガンチョンタイム」を開催しました。

【日時】

平成26年1月15日 12:10～12:50

【実施内容等】

学生議会と共同で、学生と一緒に昼食を食べながら意見交換を行う「ガンチョンタイム」を開きました。今回のテーマは「より良い授業のために」で、8名程度の3つのグループに分かれ、それぞれ、教員と学生とで意見交換を行いました。学生からは、例えば、「授業アンケートに回答しても、それが授業改善に活かされていらないように思う」「アンケートは自由記述欄を増やして欲しい」などの意見が出されました。その他にも色々と意見交換を行いましたが、「(アンケート等ではなく)顔をあわせて意見交換を行う」重要性をお互いに認識し、そのような機会を増やすことを、今後検討したいと考えています。



されていらないように思う」「アンケートは自由記述欄を増やして欲しい」などの意見が出されました。その他にも色々と意見交換を行いましたが、「(アンケート等ではなく)顔をあわせて意見交換を行う」重要性をお互いに認識し、そのような機会を増やすことを、今後検討したいと考えています。

◆学習会

【タイトル】「学生調査」はどのような意味があるのか — 「岩手大学」の事例から —

【講師】

山田礼子氏（同志社大学社会学部教授／学習支援・教育開発センター所長／
文部科学省中央教育審議会大学分科会大学教育部会専門委員）

【日時】

平成26年3月7日（金）15:00～17:00

【実施内容等】

山田先生の研究グループは、アメリカの州立大学UCLAの高等教育研究所（HERI）が毎年実施し、国際的に通用する大学生調査として認められている学生調査「CSS」を、日本の実情に照らし合わせて翻訳した「JCSS」（日本版大学生調査）の開発と実施、分析に取り組んでいます。この調査は新入生用と高年次学生用があり、入学した学生がどのように学生生活を送り、学業の成果を挙げるのかについて分析が行われています。

岩手大学は、この調査に平成19年度（2007年度）から参加し続けており、結果として、7年分のデータが蓄積されたこととなります。山田先生には、この蓄積された「岩手大学」のデータを元に、「学生調査」を実施する意義、データを蓄積する意義等をお話いただきました。



◆ワークショップ

【タイトル】 レポート・論文作成指導法 ―学生の「書く力」「考える力」を鍛えるために―

【講師】

井下千以子氏（桜美林大学心理・教育学系教授）

【日時】

平成26年3月20日（木）13：00～15：00

【実施内容等】

「文章を書くことを通して学生の思考を鍛える」という信念の元、長年、大学生の「書く力」「考える力」の育成に取り組んでこられた井下先生をお招きして、井下先生のご著書「思考を鍛えるレポート・論文作成法」（慶應義塾大学出版会）を用いたワークショップを行いました。

参加者は岩手大学のみならず、県立大学等からもきていただいております、井下先生のやわらかな口調による講演と、ビデオやワークシートを用いたワークショップを、和気藹々と楽しく実施できました。ただ、時間設定が不十分で、途中で退席せざるを得なかった先生もおり、その点は大変残念でした。ワークショップ後は、参加された先生方と学生の教育に対する率直な意見交換を行うこともでき、日常的にこのような教育について意見交換を行う機会を設ける必要性を感じました。



平成25年度学外の研修等への参加状況一覧

期 日	名 称	主催等	会 場	参加者数
5月24日	第18回東北大学高等教育フォーラム 新時代の大学教育を考える [10] 「書く力」を伸ばすー円滑な高大接続のためにー	東北大学高等教育開発推進センター	東北大学 川内北キャンパス	2名
6月 1日	大学教育学会公開講演・シンポジウム 「教育から学習への転換を支えるもの」	大学教育学会（東北大学高等教育開発推進センターのPDPとして公開）	東北大学 川内北キャンパス	2名
7月15日	高等教育開発東京国際シンポジウム 「高等教育開発の世界的潮流ー未来そして挑戦ー」	国際高等教育開発コンソーシアム 日本高等教育開発協会	学士会館	3名
7月26日	授業デザインとシラバス作成	東北大学高等教育開発推進センター	東北大学 川内北キャンパス	3名
8月 3日	大学教育論： 教養と専門の二項対立を超えて	東北大学高等教育開発推進センター	東北大学川内北キャンパス	1名
8月 9日	大学改革フォーラム2013 「大学教育の未来を探るー大学改革支援プログラム（GP）の検証と展望	大学改革フォーラム 実行委員会 他	明治大学 駿河台キャンパス	4名
9月 3日	平成25年度山形大学教員研修会 「第15回基盤教育ワークショップ」	山形大学	山形大学 小白川キャンパス	1名
12月21日	データに基づく教育改善	東北大学高等教育開発推進センター	東北大学 川内北キャンパス	2名

平成25年9月20日

平成25年度 ファカルティ・ディベロップメント 研修会

実施報告

大学教育総合センター
教育改善部門

大学教育総合センター教育改善部門では、いわて高等教育コンソーシアムのFD・SD連携推進委員会との共催で、平成25年8月22日、23日にかけて、合宿形式にてFD研修会を開催しました。今年度は、いわて高等教育コンソーシアムを構成する4つの大学から参加者がいました。

以下、研修会の概要とアンケート集計結果をご報告します。

日時・場所

- 平成25年8月22日（木）～23日（金）
- 八幡平ハイツ

参加者

- 教員
岩手大学 25名 岩手医科大学 4名 富士大学 4名 盛岡大学 1名
- スタッフ
岩手大学 7名
- 講師等
大阪大学 1名

プログラム概要

テーマ：これからの大学評価の在り方と3つのポリシー

基調講演

「これからの大学評価」

大阪大学評価・情報分析室准教授 齊藤 貴浩氏

最初に大阪大学の齊藤先生から「これからの大学評価」と題して、主に認証評価を中心に「なぜ、大学評価が必要なのか」についてお話をいただきました。齊藤先生は大学評価・学位授与機構に所属していた時期があり、第一期の「認証評価」の設計に携わった方です。「大学ってなに？」という問いかけから、最近の学生の大学に対する見方、考え方、そして産業界や高校側など、大学を様々な立場から見た場合の見方、考え方などを示された後、大学評価の経緯、そして、大学に求められている「質保証」の在り方、「内部質保証システム」について、わかりやすくお話いただきました。

プログラムⅠ

大学機関別認証評価「大学評価基準」を学ぶ

プログラムⅠでは、大学評価・学位授与機構が提示している大学機関別認証評価用の「大学評価基準」について、割り当てられた文献を読んで、その内容を整理して発表し、共有する活動を行いました。

プログラムⅡ

評価に左右されない大学を考える



プログラムⅡでは、プログラムⅠで示された基準等を踏まえて、「評価に右往左往しない骨太の大学」の在り方について議論をしました。各班からの発表では、大学の施設設備や組織の在り方から教員の意識の持ち方等々まで様々な意見が出されました。例えば、組織的な知応として、施設設備の充実、学生を確保するための組織的な対応の必要性、執行部と現場との密接なコミュニケーションの必要性、評価されるのを待つのではなく「売り」

を自ら打ち出していく方策をとることなどが挙げられ、また、教員の教育者としての姿勢として、教員が研究者としての目標になり、生き方のモデルとなる覚悟をもつこと、時間をかけてじっくりと人材を養成する覚悟を持つこと、教員が教育に対する哲学を持つことの必要性、などが挙げられました。

プログラムⅢ

「学位授与の方針」ブラッシュアップ・ワークショップ

プログラムⅢでは、それぞれ所属の学科、課程、コース等の「学位授与の方針」をブラッシュアップする活動に取り組みました。具体的には、4人で1つのグループを作り、順番にそれぞれの「学位授与の方針」を読み、わからなかったところや矛盾を感じた点等について意見交換を行っていきます。個別の項目に対する意見の他、前文部分の「卒業」や「修了」と「学位の授与」との関係について疑問が出されたり等、より適切な「学位授与の方針」を策定するためのヒントを数多く得ることができました。



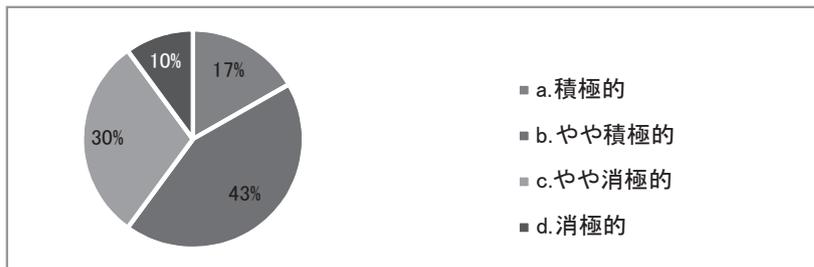
ナイト・セッション

ナイト・セッションでは、岩手医科大学の佐藤先生と富士大学の筑後先生から話題提供をいただきました。佐藤先生からは、「プロフェッショナルイズム教育」を題材に、「プロを育てるということ」について、従来、日本では、知識の伝達以外の教育、例えば姿勢や態度を育てる教育があまり行われてこなかったが、それは昔の日本には「武士道」があったからで、現在の大学ではやはり教える必要があるのだろう等のお話をいただきました。筑後先生からは、アメリカ滞在時の経験から、現在、取り組んでいる富士大学の教育改革についてお話いただきました。卒業時に身につける「学士力」を定義し、それに沿って卒業研究等の評価の基準を策定し、評価を行い、結果を分析するなど、確実に教育改革を進めている様子を伺うことができました。

今回のナイトセッションは、本研修会がいわて高等教育コンソーシアムの活動の1つとして位置づけられ、複数の構成大学の参加者があったことから実現したものです。このように、他分野、他大学の状況について意見交換できる機会を、意識的に作っていくことが必要かと思えます。

アンケート集計結果

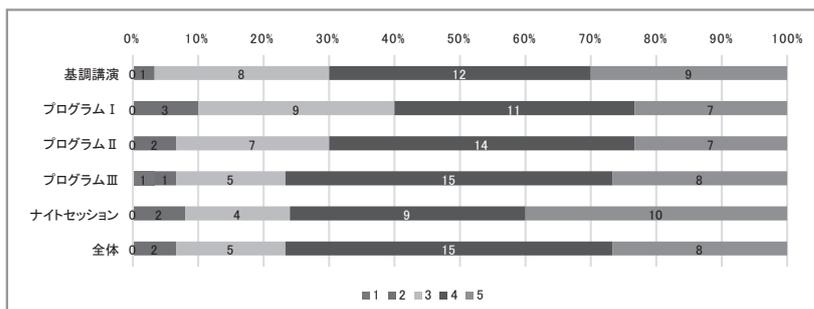
今回の研修会について、どのような意識で参加されましたか？



結果的に、今回の研修会に参加して良かったと思いますか？



今回の研修会の各プログラムについて、5段階で評価し、○で囲んでください。



自由記述

- ・情報交換会は有意義である。
- ・ワークショップよりもレクチャーに時間を割いてほしかった。(内容の理解を深めるためにも)
- ・勉強になりました。ありがとうございました。PCやiPadがあったほうがよい旨を周知していただけていたら、なおよかったかと思えます。
- ・特にプログラムⅠについては、もともとまとめられているものを、さらにまとめて発表することの意図がよく分からなかった。すべての評価基準について扱うのではなく、教学に関連するものにしばって、詳しく扱うことのほうがよかったかもしれない。
- ・斎藤先生、江本先生のお話がわかりやすく、とても勉強になりました。また、ワークショップでも貴重なご意見を伺うことができました。感謝しております。ありがとうございました。
- ・FD研修の勉強になったことに加えて、他学科の先生方と話せる機会ができてよかったです。
- ・斎藤先生の講演は、私の勉強不足のため理解するのが難しかったです。
- ・冒頭で、本研修会の研修内容と到達目標について、具体的に説明していただけるとよかったと思います。
- ・非常に快適に研修に参加することができました。
- ・プレゼンの資料があったら、理解が深められた。
- ・参加について、連絡が不十分で迷惑をかけました。出席に対する連絡を、誰がするのがよくわかりませんでした。
- ・とても勉強になりました。
- ・普段考えてもいなかった分野の内容を総ざらえでき、又、他学部・他大学の方々と知り合う良い機会となりました。有難うございました。
- ・今回は、テーマがかなり高度だった。
- ・お疲れ様でした。
- ・他のディプロマ・ポリシーと見比べながら、自課程のディプロマ・ポリシーを検討できる機会があってよかった。
- ・ナイトセッションのプロフェッショナル教育は参考になった。
- ・現在、我々の大学では、三学部そろった3つのポリシーを策定中です。今回は、作成中のポリシーに貴重なご意見やアドバイスを頂き、まことにありがとうございました。ぜひとも、参考にさせていただき、よいものを作成したいと思えます。たいへんお世話になり、ありがとうございました。
- ・大学の認証評価を通じて、現在の大学における課題や、今後の教育の方向に関する勉強ができました。より広範な(様々な大学を取り巻く課題)をピックアップしながら、定期的にこのような機会があると、ありがたいと思えます。(泊りがけでなくても・・・)
- ・お酒の量が充分で満足。
- ・コミュニケーションとしてのよい場であった。
- ・また参加してよい。



テーマ「よりよい授業のために」と題し開催した学生との懇談会 (ガンチョンタイム)で出された主な意見

2014年1月15日(水) 12:10~12:50に、学生センターB棟多目的室で、学生15名と教員10名が参加して、「よりよい授業のために」というテーマでガンチョンタイムを開催。

「主な意見等」

○授業アンケート実施への要望

- ・途中でも実施して欲しい(自分たちが出した意見が反映されるように)
- ・アンケート時期を早めたら?(話し方や板書など、すぐに改善できる点がある)
- ・アンケートを中間(あるいは1/3終了時に)と最後で実施することも考えられる。

○授業アンケートへの質問

- ・全講義で実施していますか?
- ・アンケートはどのように利用されていますか?
- ・アンケート結果が実際に反映されているか不明
- ・教員側の改善につながっているのか?
- ・(レスポンスカードは見ていますか)

○授業アンケート結果への要望

- ・学生も結果を見たい
- ・シラバスに総合評価の結果なども載せて欲しい。(そうすれば教員の授業改善への意欲も湧く。ただし、講義への興味や関心より評価で履修科目を決めることがないように、載せる項目は要検討)
- ・前年度の集計結果と比較してみてもは?(改善されているかが分かる)

○授業アンケートについての他の意見等

- ・形骸化しているようで、あまり考えずに答えていることもある
- ・自由記述欄に殆ど書かれていない
- ・アンケート項目は減らして自由記述を増やして欲しい
- ・比較対象(他教員など)があればアンケートに答えやすい
- ・人数が少ないと書きづらい
- ・人数が少ないと性別も書きたくない
- ・記名はしたくない

○授業への一般的な要望・提案等

- ・授業で使う資料をアイアシスタントに載せて、授業前に予備知識をつけられるようにしてほしい
- ・テストの答案も返却して解説できないか？分からないところがそのままになってしまう
- ・レポートもコメントをつけて返すことも実施してほしい
- ・レポートは返却してほしい。改善点分かるから
- ・板書とプロジェクターを比較すると板書の方が眠らない。プロジェクターを使っても配布プリントに書き込ませるようにすることも考えられる
- ・履修科目は先輩から聞いて、楽しそうなものをとっている
- ・予復習をどうすればよいのか？

○教員への要望

- ・アイアシスタントに記録を書く先生と書かない先生がいる。(書くようにしてほしい)
- ・アイアシスタントの使い方を知らない学生が多いから、使い方もセットで教えてほしい
- ・(教員の熱意が分かりづらい)

「参加教員」

A班：後藤（人社），横田（工），武井（教育）

B班：高畑（センター長），横山（人社），小林（工）

C班：山崎（教育），秋田（人社），山田（農），江本（センター）

各学部・研究科等の授業アンケートの実施及び活用方法

2013.3.18 「授業アンケートに関する意見交換会」発表内容より、一部追記

部局等	人文社会科学部	教育学部	工学部・工学研究科	農学部	全学共通教育科目
担当委員会	教務委員会	学務委員会	教務委員会	点検評価委員会	大学教育総合センター教育改善部門
実施回数	年2回（前期・後期）	年2回（前期・後期）	年2回（前期・後期） ※但し、隔年実施	年2回（前期・後期）	年2回（前期・後期） ※但し、科目単位では2年に1回、アンケートの対象科目となるように実施する科目区分を前期・後期で調整 ※転換教育科目（基礎ゼミナール・初年次自由ゼミナール）は毎年実施
実施対象・実施方法	教員が単独で担当している講義科目の中から、原則1科目（なるべく受講者が多い科目）を選んで実施 ※実施は年間1科目、前期・後期のどちらから可	教員は前期あるいは後期の最低1科目で必ず実施すること、できるだけ必修、履修学生の多い講義を優先して実施する。	実験・実習・演習・集中講義・教職科目等を除いた通常の講義形式の科目	実験・実習・演習科目を除いた講義科目（但しオムニバス科目の場合は、1科目当たり6回以上授業をした教員が実施できる）	全科目
利用目的・結果の活用	・授業担当教員にフィードバック、授業改善に活用 ・組織的活用・検証については検討段階	・授業担当教員にフィードバック、授業改善に活用 ・その他、全体の集計結果を教授会で報告	・授業担当教員にフィードバック、授業改善に活用 ・学科・専攻単位でアンケート結果の検証を行い、隔年で「授業評価報告書」を作成 ・その他、成績評価比率、講義回数等の確保等を検証した授業実施報告書を作成	・23年度までは教員評価へ導入（教育活動領域での加要素） ・授業担当教員にフィードバック、授業改善に活用 ・2年に1回報告書を作成 ・カリキュラムの改善、外部評価に資する ※24年度後期から、アンケート項目を簡略化	・授業担当教員にフィードバック、授業改善に活用 ・優秀授業の選定と優秀授業表彰を実施 ・工学部では学科単位で基礎ゼミの授業アンケート結果を検証し、授業内容への反映を行っている。 ・組織的な活用・検証をどうしていくかは検討課題

平成25年度 全学共通教育「学生による授業アンケート」実施状況報告

教育改善部門

平成25年度は、前期は基礎ゼミナールと新規開講科目・希望科目のみを対象、後期はすべての開講科目を対象とした授業アンケートの実施でした。授業アンケートの実施状況は以下の通りです。

平成25年度 授業アンケート実施率

【前期】

区分	実施科目数	対象科目数	実施率
人間と文化	6	6	100%
人間と社会	9	9	100%
人間と自然	5	5	100%
健康・スポーツ	8	8	100%
情報	5	5	100%
外国語（英語）	19	20	95%
外国語（英語以外）	6	7	86%
基礎ゼミナール	46	52	88%

【後期】

区分	実施科目数	対象科目数	実施率
人間と文化	21	21	100%
人間と社会	17	21	81%
人間と自然	11	11	100%
総合	4	5	80%
環境	12	12	100%
健康・スポーツ	5	6	83%
外国語（英語）	73	76	96%
外国語（英語以外）	40	47	85%
初年次自由ゼミナール	5	5	100%

平成25年度後期の授業アンケートの結果は、平成26年度の教育推進機構全学共通教育部門で検討される予定です。また、平成26年度以降の授業アンケートの実施予定は以下の通りです。

全学共通教育の授業アンケートについては、全学共通教育部門会議にて議論することとなりましたので、アンケートの在り方等についても、部門会議で議論されることになるでしょう。

授業アンケート実施スケジュール

平成26年度	前期	教養科目（文化、社会、自然、総合） 共通基礎科目（情報基礎、外国語、健・スポ） 転換教育科目（基礎ゼミナール）
	後期	転換教育科目（初年次自由ゼミナール） 新規開講科目／アンケート実施希望科目 教養科目（総合）※隔年開講科目のみ
平成27年度	前期	転換教育科目（基礎ゼミナール） 新規開講科目／アンケート実施希望科目
	後期	教養科目（文化、社会、自然、総合、環境） 共通基礎科目（外国語、健・スポ） 転換教育科目（初年次自由ゼミナール）

平成25年度前期 全学共通教育授業アンケート 学生の学習状況集計結果

大学教育総合センター

B この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
指定(指導)されたから	1.8%	19.8%	1.6%	89.6%	69.2%	11.2%
単位がとりやすそうだったから	18.4%	11.1%	18.5%	2.1%	3.3%	9.9%
自分の専門と関係がなさそうだから	7.5%	6.9%	6.1%	0.5%	0.5%	1.3%
先輩などからすすめられたから	14.1%	7.3%	17.2%	0.3%	1.7%	11.2%
他にやりたい外国語がなかったから	8.6%	9.6%	8.7%	0.8%	11.4%	15.5%
シラバスを読んで興味を持ったから	32.6%	29.1%	26.6%	1.8%	2.5%	24.9%
友達が選択するから	6.6%	6.5%	8.3%	1.0%	0.4%	1.7%
自分の専門に関係が深そうだから	7.9%	5.2%	10.7%	2.9%	6.0%	9.4%
他の外国語で人数制限を受けたから	0.5%	0.5%	0.6%	0.0%	0.5%	2.6%
その他(具体的に:)	2.1%	3.9%	1.7%	1.0%	4.6%	12.4%
合計(集計枚数)	1216	1307	807	385	769	233

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
0回	63.8%	61.4%	57.7%	88.7%	82.4%	62.1%
1回	20.0%	17.3%	18.9%	8.7%	12.2%	20.1%
2回	10.2%	14.1%	11.6%	2.0%	3.4%	11.8%
3回以上	6.0%	7.2%	11.8%	0.6%	2.0%	5.9%
合計(回答数)	803	963	551	345	683	169

b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
わかった	19.0%	19.6%	16.3%	18.6%	12.1%	18.1%
だいたいわかった	54.8%	57.1%	51.2%	38.7%	37.4%	48.0%
あまりわからなかった	11.4%	8.4%	18.1%	4.6%	14.6%	7.0%
わからなかった	1.0%	0.4%	2.3%	0.9%	3.1%	0.6%
読まなかった	13.7%	14.5%	12.2%	37.2%	32.8%	26.3%
合計(回答数)	815	967	559	349	685	171

c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
ほとんどしなかった	86.3%	79.4%	71.3%	83.7%	21.9%	41.8%
30分ぐらい	10.8%	18.0%	21.7%	13.8%	39.3%	42.9%
1時間ぐらい	2.1%	2.2%	5.9%	1.7%	30.2%	14.7%
2時間ぐらい	0.5%	0.2%	0.5%	0.3%	6.4%	0.6%
3時間ぐらい	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	1.6%	0.0%
4時間以上	0.2%	0.1%	0.4%	0.6%	0.6%	0.0%
合計(回答数)	816	970	558	349	689	170

d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
よく利用した	3.8%	18.8%	7.0%	42.1%	20.6%	22.2%
たまに利用した	22.9%	30.8%	27.0%	14.9%	12.0%	14.6%
ほとんど利用しなかった	21.5%	14.8%	18.1%	14.0%	17.3%	17.5%
まったく利用しなかった	51.8%	35.7%	47.9%	28.9%	50.1%	45.6%
合計(回答数)	817	969	559	349	689	171

e. (上記の回答が①～③の場合)アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？(複数回答可)

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
授業記録	23.0%	27.2%	67.2%	8.9%	50.9%	49.6%
i カード	13.2%	29.8%	1.6%	45.4%	1.3%	0.8%
課題・レポート	51.1%	16.5%	7.1%	40.5%	21.1%	5.0%
学習記録	5.3%	6.2%	14.5%	2.5%	14.0%	38.8%
その他()	7.5%	20.3%	9.6%	2.8%	12.7%	5.8%
合計(回答数)	456	764	311	326	393	121

f. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
そう思う	40.5%	32.6%	31.5%	58.7%	44.2%	44.7%
すこしそう思う	28.9%	38.8%	41.0%	27.8%	35.1%	38.8%
あまりそう思わない	8.7%	14.0%	12.3%	4.0%	7.9%	8.8%
そう思わない	2.7%	6.0%	2.5%	2.0%	0.9%	2.9%
機会がなかった	19.2%	8.5%	12.7%	7.4%	12.0%	4.7%
合計(回答数)	817	963	559	349	686	170

g. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
そう思う	33.9%	16.1%	31.5%	46.4%	33.4%	29.2%
すこしそう思う	32.7%	30.6%	37.9%	38.7%	45.3%	37.4%
あまりそう思わない	6.7%	12.1%	14.5%	6.9%	12.8%	12.9%
そう思わない	1.1%	2.2%	3.6%	2.3%	2.0%	4.1%
機会がなかった	25.6%	39.1%	12.5%	5.7%	6.5%	16.4%
合計(回答数)	817	965	559	349	689	171

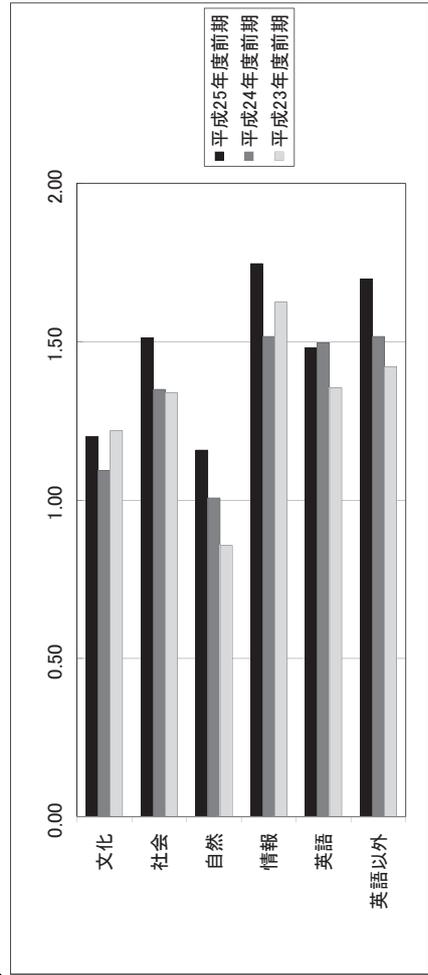
h. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
そう思う	29.1%	25.4%	22.8%	45.6%	31.3%	33.3%
すこしそう思う	44.8%	51.3%	49.1%	47.0%	50.2%	43.9%
あまりそう思わない	20.9%	19.5%	21.0%	6.6%	15.4%	17.5%
そう思わない	5.1%	3.8%	7.2%	0.9%	3.0%	5.3%
合計(回答数)	817	970	558	349	689	171

D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
a. 教員はこの授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか？	1.40	1.40	1.40	1.40	1.33	1.69
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？	1.42	1.42	1.42	1.42	1.32	1.68
c. 教員は、この授業の成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか？	1.06	1.33	1.23	1.45	1.39	1.62
d. この授業の内容、進捗は、おおよそシラバスに沿ったものでしたか？	1.12	1.44	1.35	1.58	1.24	1.63
e. 授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？	1.10	1.53	1.03	1.54	1.22	1.62
f. 板書・ビデオ・プロジェクター等で提出されたものは、わかりやすいものでしたか？	1.24	1.41	1.13	1.59	1.13	1.45
g. 教科書や参考書、配布資料等は、学習の助けになりましたか？	1.12	1.46	1.25	1.25	0.83	1.70
h. 教員は、毎回の授業で、その回の学ぶべきポイントを示していましたか？	0.78	1.26	0.98	1.63	0.94	1.71
i. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会がありましたか？	0.33	0.62	-0.09	1.51	1.29	1.50
j. 教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業に反映させていましたか？	0.56	1.20	0.61	1.20	0.89	1.63
k. この授業では、アイアシスタントが行う学習(学習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていましたか？	0.72	0.71	0.90	1.41	1.27	1.36
l. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	-0.29	-0.13	-0.36	0.99	-0.25	0.14
m. この授業及び授業時間外の学習中に、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	-0.80	0.16	-0.17	-0.23	-0.70	-0.68
n. 授業開始時間・終了時間も守られていましたか？	1.46	1.63	1.44	1.74	1.46	1.65
o. 授業はよく準備されていると思いますか？	1.46	1.68	1.49	1.72	1.40	1.69
p. 授業に対する教員の熱意を感じますか？	1.28	1.59	1.49	1.46	1.42	1.75
q. 授業中及び授業時間外の学習中に、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会がありましたか？	0.58	0.76	0.81	1.44		
r. 授業中及び授業時間以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？	0.95	1.16	1.12	1.23		
s. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけたことの大切さに気づく機会がありましたか？	0.55	0.84	0.59	1.06		
t. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	0.87	1.56	0.74	1.76	1.30	1.48
u. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？	0.70	1.06	0.60	1.38	0.96	1.40
平均	0.84	1.15	0.90	1.36	1.02	1.39

E 結果として、この授業を履修してよかったですか？



平成25年度前期

文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
1.20	1.51	1.16	1.75	1.48	1.70

平成24年度前期

文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
1.09	1.35	1.01	1.52	1.50	1.52

平成23年度前期

文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
1.22	1.34	0.86	1.62	1.36	1.42

平成25年度前期 全学共通教育授業アンケート(基礎ゼミナール)

学生の学習状況集計結果

大学教育総合センター

B この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

	全体	人社	教育	工	農
0回	84.8%	83.8%	77.6%	89.1%	86.8%
1回	11.4%	10.8%	15.1%	9.1%	11.4%
2回	3.4%	4.9%	7.3%	0.9%	1.8%
3回以上	0.4%	0.5%	0.0%	0.9%	0.0%
合計(回答数)	966	185	232	330	219

b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？

	全体	人社	教育	工	農
わかった	15.6%	29.6%	18.1%	7.8%	12.8%
だいたいわかった	42.9%	65.6%	39.7%	32.8%	42.5%
あまりわからなかった	11.9%	3.2%	11.6%	19.6%	7.8%
わからなかった	1.2%	0.0%	1.7%	1.8%	0.9%
読まなかった	28.4%	1.6%	28.9%	38.0%	36.1%
合計(回答数)	969	186	232	332	219

c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？

	全体	人社	教育	工	農
ほとんどしなかった	57.8%	45.7%	55.2%	57.5%	71.4%
30分ぐらい	19.1%	24.2%	21.6%	17.8%	14.1%
1時間ぐらい	14.9%	19.9%	12.5%	15.1%	13.2%
2時間ぐらい	5.7%	8.6%	5.6%	6.9%	1.4%
3時間ぐらい	1.3%	1.1%	1.3%	2.4%	0.0%
4時間以上	1.1%	0.5%	3.9%	0.3%	0.0%
合計(回答数)	970	186	232	332	220

d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？

	全体	人社	教育	工	農
よく利用した	11.1%	10.8%	2.2%	6.6%	27.7%
たまに利用した	20.5%	17.2%	11.6%	28.1%	21.4%
ほとんど利用しなかった	15.8%	14.5%	17.7%	16.0%	14.5%
まったく利用しなかった	52.5%	57.5%	68.5%	49.2%	36.4%
合計(回答数)	969	186	232	331	220

e. (上記の回答が①～③の場合)アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？(複数回答可)

	全体	人社	教育	工	農
授業記録	25.4%	17.1%	44.7%	21.5%	24.9%
i カード	9.5%	12.2%	11.8%	1.7%	14.7%
課題・レポート	44.6%	39.0%	13.2%	68.6%	37.3%
学習記録	4.5%	3.7%	10.5%	4.1%	2.8%
その他()	16.0%	28.0%	19.7%	4.1%	20.3%
合計(回答数)	507	82	76	172	177

f. 基礎ゼミナール用のテキスト『学びのはじめ』はこの授業におけるあなたの学習に役に立ちましたか？

	全体	人社	教育	工	農
とても役に立った	12.6%	16.2%	19.4%	11.8%	3.6%
役に立った	32.1%	44.9%	33.6%	29.7%	23.2%
少し役に立った	21.2%	15.1%	25.0%	24.8%	16.8%
役に立たなかった	2.9%	1.1%	3.0%	4.5%	1.8%
使わなかった	31.2%	22.7%	19.0%	29.1%	54.5%
合計(回答数)	967	1859	232	330	220

g. 授業の中で、図書館やミュージアムなど、学内の施設について見学する機会はありましたか？

	全体	人社	教育	工	農
あった	69.3%	54.8%	73.3%	62.2%	88.2%
なかった	25.1%	42.5%	22.0%	29.9%	6.4%
はっきり憶えていない	5.6%	2.7%	4.7%	7.9%	5.5%
合計(回答数)	969	186	232	331	220

h. 授業の中で、図書館の使い方(本の借り方、蔵書の検索方法など)を学ぶ機会はありましたか？

	全体	人社	教育	工	農
あった	52.1%	43.0%	56.7%	46.7%	63.2%
なかった	39.1%	50.0%	34.6%	44.9%	25.9%
はっきり憶えていない	8.8%	7.0%	8.7%	8.4%	10.9%
合計(回答数)	969	186	231	332	220

i. 授業の中で、大学での授業の受け方(講義の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方など)を学ぶ機会はありましたか？

	全体	人社	教育	工	農
あった	55.7%	78.5%	55.2%	57.2%	34.5%
なかった	26.1%	12.9%	29.3%	28.6%	30.0%
はっきり憶えていない	18.2%	8.6%	15.5%	14.2%	35.5%
合計(回答数)	970	186	232	332	220

j. 授業を受ける中で、高校までの学習と大学での学習の違いに気づかされる機会はありましたか？

	全体	人社	教育	工	農
あった	82.4%	94.6%	84.4%	79.2%	75.0%
なかった	5.7%	3.2%	7.8%	6.0%	5.0%
はっきり憶えていない	11.9%	2.2%	7.8%	14.8%	20.0%
合計(回答数)	968	186	231	331	220

k. 班活動を行う機会はありましたか？また、(班活動に限らず)何らかの学習活動の成果をみんなの前で発表する機会はありましたか？(複数回答可)

	全体	人社	教育	工	農
班活動を行う機会があった	48.3%	39.5%	48.7%	41.4%	65.9%
発表する機会があった	45.6%	53.5%	47.8%	49.5%	30.3%
両方ともなかった	4.0%	6.2%	2.4%	6.0%	1.0%
はっきり憶えていない	2.1%	0.8%	1.2%	3.1%	2.8%
合計(回答数)	1302	258	337	420	287

l. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？

	全体	人社	教育	工	農
そう思う	39.9%	43.0%	38.4%	35.2%	46.1%
すこしそう思う	28.8%	30.6%	23.7%	32.5%	26.9%
あまりそう思わない	5.5%	1.6%	4.7%	6.9%	7.3%
そう思う思わない	1.4%	0.5%	1.3%	2.4%	0.9%
機会がなかった	24.4%	24.2%	31.9%	22.9%	18.7%
合計(回答数)	969	186	232	332	219

m. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？

	全体	人社	教育	工	農
そう思う	33.3%	38.7%	34.1%	30.4%	32.3%
すこしそう思う	45.4%	50.0%	41.8%	43.1%	48.6%
あまりそう思わない	11.9%	7.5%	9.1%	13.6%	15.9%
そう思う思わない	1.6%	0.5%	1.3%	2.4%	1.8%
機会がなかった	7.8%	3.2%	13.8%	10.5%	1.4%
合計(回答数)	970	186	232	332	220

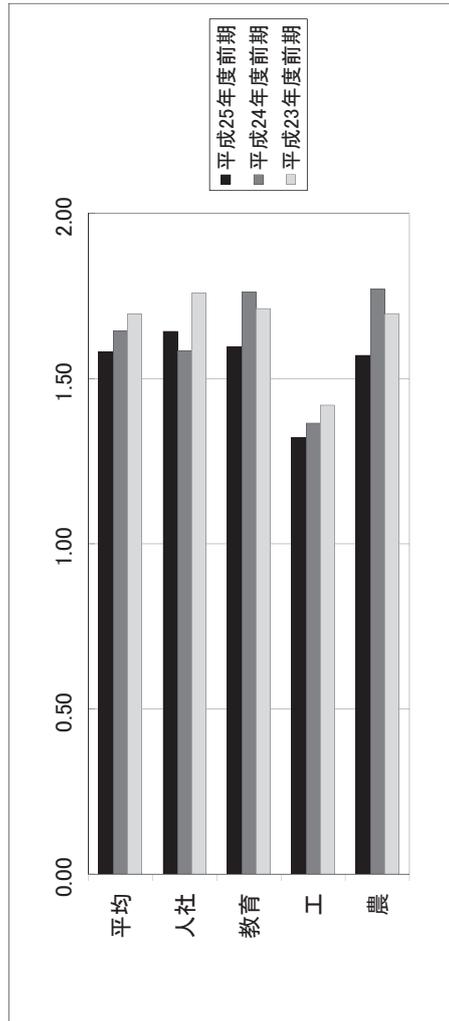
n. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？

	全体	人社	教育	工	農
そう思う	42.3%	50.0%	53.0%	36.4%	33.2%
すこしそう思う	44.5%	41.9%	36.6%	47.0%	51.4%
あまりそう思わない	10.9%	8.1%	7.3%	13.3%	13.6%
そう思う思わない	2.3%	0.0%	3.0%	3.3%	1.8%
合計(回答数)	970	186	232	332	220

C この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

	平均	人社	教育	工	農
a. この授業全体に対する目的や到達目標についての説明はありましたか？	1.25	1.47	1.17	1.08	1.06
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？	1.42	1.60	1.33	1.31	1.31
c. この授業の成績評価の方法や基準などについての説明はありましたか？	0.78	0.86	0.73	0.59	0.87
d. この授業の内容、進捗は、おおよそシラバスに沿ったものでしたか？	1.20	1.50	1.00	1.06	1.27
e. 授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？	1.51	1.59	1.51	1.26	1.49
f. 板書・ビデオ・プロジェクト等て提示されたものは、わかりやすいものでしたか？	1.35	1.27	1.45	1.17	1.42
g. 教科書や参考書、配付資料等は、学習の助けになりましたか？	1.17	1.13	1.30	0.85	1.04
h. 授業の中で、学生が参加して活動するよう機会がありましたか？	1.73	1.74	1.77	1.57	1.66
i. この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていきましたか？	1.33	1.58	1.20	1.03	1.37
j. この授業では、AIアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていきましたか？	-0.59	-0.38	-0.99	-0.24	0.05
k. 授業中及び授業時間外の学習中で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	0.24	0.21	0.21	0.18	0.53
l. 授業中及び授業時間外の学習中で、工夫しながら問題に取り組む機会がありましたか？	1.46	1.60	1.48	1.19	1.21
m. 授業中及び授業時間以外の学習中で、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？	1.32	1.31	1.41	1.12	1.16
n. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会がありましたか？	1.24	1.36	1.25	0.96	1.06
o. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	1.51	1.63	1.47	1.32	1.45
p. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？	1.11	1.18	1.10	0.93	1.10
平均	1.13	1.23	1.09	0.96	1.13

D 結果として、この授業を履修してよかったですか？



平成25年度前期

平均	人社	教育	工	農
1.58	1.64	1.60	1.32	1.57

平成24年度前期

平均	人社	教育	工	農
1.65	1.58	1.76	1.36	1.77

平成23年度前期

平均	人社	教育	工	農
1.70	1.76	1.71	1.42	1.70

平成25年度前期 全学共通教育授業アンケート(健康・スポーツ科目) 学生の学習状況集計結果

大学教育総合センター

B この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

楽しそうな種目だと思ったから	62.4%
経験のない種目だったから	5.6%
あまり動かなくてもすみそうな種目だったから	3.8%
他にやりたい種目がなかったから	11.1%
先輩などからすすめられたから	0.0%
友達が選択するから	7.3%
他の種目で人数制限を受けたから	4.2%
その他(具体的に:)	5.6%
合計(回収枚数)	287

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

0回	86.3%
1回	10.6%
2回	2.2%
3回以上	0.9%
合計	227

b. あなたが履修した種目は第一希望のものでしたか？

はい	94.2%
いいえ	5.8%
合計	224

c. あなたは、体を動かすことが好きな方だと思いますか？

そう思う	53.3%
少しそう思う	26.9%
あまりそう思わない	11.5%
そう思わない	8.4%
合計	227

d. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？
その内容はわかりましたか？

わかった	15.9%
だいたいわかった	26.9%
あまりわからなかった	8.8%
わからなかった	1.3%
読まなかった	47.1%
合計	227

e. この授業の学習において、あなたはどのぐらい
アイアシスタントを利用しましたか？

よく利用した	4.0%
たまに利用した	4.4%
ほとんど利用しなかった	21.1%
まったく利用しなかった	92.5%
合計	227

f. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて
予習・復習をしましたか？

ほとんどしなかった	92.5%
30分ぐらい	4.4%
1時間ぐらい	1.3%
2時間ぐらい	0.0%
3時間ぐらい	0.0%
4時間以上	1.8%
合計	226

g. 体を動かすことの大切さについて、授業中に説明があり
ましたか？

あった	28.5%
あったと思う	45.2%
なかったと思う	17.5%
なかった	8.8%
合計	228

h. この授業における自分自身の学習状況は、満足できる
ものだと思いますか？

そう思う	48.2%
すこしそう思う	43.4%
あまりそう思わない	4.4%
そう思わない	3.9%
合計	228

D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んでください。

a. 教員は、授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか？	1.36
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだったと思いますか？	1.45
c. 教員は、成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか？	1.21
d. 授業の内容、進行は、おおよそシラバスに沿ったものでしたか？	1.14
e. 安全に運動を行うための指導(準備運動、道具の使い方など)がありましたか？	1.66
f. 教員の技能に関する指導はわかりやすいものでしたか？	1.37
g. 教員は、授業時間外にやるべきことを、わかりやすく説明していましたか？	0.70
h. 教員は、毎回、学生が学ぶべきポイントを示していましたか？	1.10
i. 学生が授業に参加しやすくなるための働きかけはありましたか？	1.29
j. 教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業中に対応をしていましたか？	1.29
k. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	-0.64
l. 授業中及び授業時間外の学習で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	-0.59
m. 授業開始時間・終了時間は守られていましたか？	1.62
n. 授業はよく準備されていたと思いますか？	1.49
o. 授業に対する教員の熱意を感じましたか？	1.62
p. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	1.23
q. この授業で学んだ種目を、さらに続けたいと思いますか？	1.23
平均	1.09

平成25年度後期 全学共通教育授業アンケート 学生の学習状況集計結果

大学教育総合センター

B この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
指定(指導)されたから	1.9%	1.7%	3.0%	3.5%	28.1%	78.7%	30.8%
単位がとりやすそうだったから	21.8%	17.3%	15.6%	28.0%	10.0%	1.6%	4.9%
自分の専門と関係がなさそうだから	9.5%	8.1%	6.1%	4.6%	4.1%	0.1%	2.3%
先輩などからすすめられたから	8.3%	7.4%	9.4%	5.2%	7.8%	0.5%	5.9%
他にやりたい外国語がなかったから	8.6%	12.1%	11.9%	9.5%	3.9%	7.9%	16.4%
シラバスを読んで興味を持ったから	36.5%	37.5%	37.6%	35.8%	26.2%	2.5%	19.9%
友達が選択するから	7.4%	6.9%	7.8%	8.7%	5.7%	0.5%	2.7%
自分の専門に関係が深そうだから	3.1%	6.0%	6.4%	3.2%	9.0%	4.9%	9.6%
他の外国語で人数制限を受けたから	1.6%	1.5%	0.8%	0.3%	3.5%	0.2%	1.2%
その他(具体的に:)	1.3%	1.7%	1.3%	1.2%	1.7%	3.0%	6.3%
合計(集計枚数)	2313	1501	1485	346	1496	2442	1194

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
0回	60.3%	51.2%	55.9%	42.9%	64.3%	60.8%	51.8%
1回	20.5%	22.3%	21.2%	23.2%	19.2%	20.8%	21.7%
2回	10.7%	15.6%	11.8%	15.6%	9.9%	11.2%	13.7%
3回以上	8.6%	10.9%	11.1%	18.3%	6.6%	7.2%	12.8%
合計(回答数)	1564	1083	1038	224	1034	2178	927

b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
わかった	28.5%	28.4%	25.8%	33.2%	22.5%	19.5%	21.7%
だいたいわかった	54.4%	53.6%	56.7%	54.9%	52.6%	38.2%	42.4%
あまりわからなかった	6.2%	7.4%	8.5%	4.0%	10.4%	7.8%	6.7%
わからなかった	0.9%	0.7%	0.7%	0.9%	0.9%	1.7%	1.1%
読まなかった	10.0%	9.9%	8.3%	7.1%	13.6%	32.8%	28.0%
合計(回答数)	1593	1098	1046	226	1049	2213	938

c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
ほとんどしなかった	84.3%	79.5%	78.9%	91.1%	83.3%	28.9%	36.7%
30分ぐらい	13.5%	17.7%	15.6%	7.1%	14.7%	37.1%	43.3%
1時間ぐらい	1.6%	1.8%	3.7%	0.9%	1.6%	24.1%	16.3%
2時間ぐらい	0.2%	0.4%	1.0%	0.0%	0.4%	6.3%	3.1%
3時間ぐらい	0.2%	0.1%	0.2%	0.4%	0.0%	2.1%	0.1%
4時間以上	0.3%	0.5%	0.7%	0.4%	0.0%	1.5%	0.4%
合計(回答数)	1595	1100	1048	225	1050	2218	937

d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
よく利用した	11.4%	8.4%	2.5%	4.9%	6.9%	8.9%	4.0%
たまに利用した	9.9%	18.2%	11.7%	13.3%	22.3%	11.6%	9.3%
ほとんど利用しなかった	12.1%	14.3%	16.5%	21.7%	16.1%	11.8%	11.8%
まったく利用しなかった	66.7%	59.1%	69.3%	60.2%	54.7%	67.6%	74.9%
合計(回答数)	1593	1101	1048	226	1049	2216	940

e. (上記の回答が①～③の場合)アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？(複数回答可)

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
授業記録	35.0%	42.8%	58.9%	59.6%	42.9%	48.3%	56.1%
i カード	33.2%	26.6%	3.1%	4.5%	19.8%	7.5%	5.0%
課題・レポート	15.8%	13.1%	13.8%	6.7%	17.2%	19.6%	6.9%
学習記録	5.5%	10.0%	10.3%	13.5%	6.7%	9.6%	16.0%
その他()	10.6%	7.6%	13.8%	15.7%	13.4%	15.0%	16.0%
合計(回答数)	549	542	319	89	524	731	262

f. レスポンスカード(カード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
そう思う	41.9%	33.7%	39.9%	44.0%	52.4%	45.5%	37.2%
すこしそう思う	30.6%	36.1%	33.7%	39.1%	35.7%	37.5%	39.4%
あまりそう思わない	7.4%	8.1%	11.4%	10.2%	4.9%	6.6%	8.4%
そう思わない	2.2%	3.4%	3.9%	2.2%	1.3%	1.6%	1.3%
機会がなかった	17.8%	18.8%	11.2%	4.4%	5.7%	8.8%	13.7%
合計(回答数)	1593	1098	1046	225	1049	2214	935

g. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
そう思う	28.1%	28.7%	36.7%	25.3%	23.4%	37.1%	26.1%
すこしそう思う	27.6%	32.6%	37.6%	28.0%	30.2%	38.1%	34.9%
あまりそう思わない	7.3%	8.8%	11.5%	11.6%	8.8%	11.9%	10.2%
そう思わない	2.1%	2.8%	3.2%	2.7%	1.6%	2.2%	1.6%
機会がなかった	34.9%	27.0%	11.1%	32.4%	36.0%	10.7%	27.2%
合計(回答数)	1592	1100	1045	225	1050	2217	940

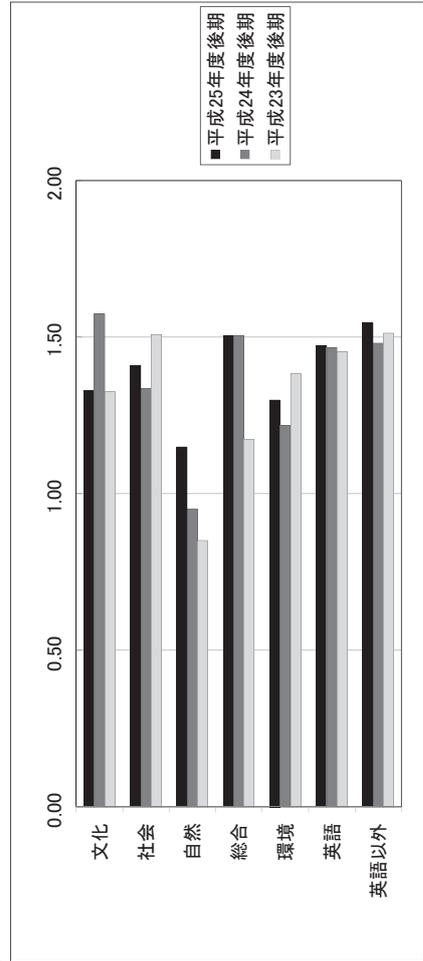
h. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
そう思う	35.6%	30.5%	27.4%	34.7%	28.5%	38.5%	34.8%
すこしそう思う	45.6%	49.0%	45.8%	50.2%	51.5%	45.2%	45.6%
あまりそう思わない	15.4%	16.9%	21.4%	12.9%	16.9%	13.3%	15.8%
そう思わない	3.4%	3.6%	5.4%	2.2%	3.1%	2.9%	3.8%
合計(回答数)	1594	1101	1045	225	1049	2219	939

D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまるものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
a. 教員はこの授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか？	1.27	1.35	1.21	1.22	1.13	1.41	1.42
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？	1.34	1.46	1.22	1.23	1.23	1.42	1.48
c. 教員は、この授業の成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか？	1.33	1.43	1.31	1.11	1.23	1.41	1.43
d. この授業の内容、進捗は、おおよそシラバスに沿ったものでしたか？	1.32	1.43	1.38	1.49	1.43	1.27	1.39
e. 授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？	1.33	1.37	0.97	1.13	1.18	1.37	1.43
f. 板書・ビデオ・プロジェクト等で提出されたものは、わかりやすいものでしたか？	1.18	1.24	1.00	0.75	0.66	1.26	1.29
g. 教科書や参考書、配布資料等は、学習の助けになりましたか？	1.38	1.39	1.15	0.89	1.02	1.30	1.62
h. 教員は、毎回の授業で、その回の学ぶべきポイントを示していましたか？	1.07	1.21	0.88	1.44	1.36	1.15	1.45
i. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会はありましたか？	0.16	0.26	0.03	1.63	1.36	1.58	1.57
j. 教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業に反映させていましたか？	0.62	0.67	0.77	-0.72	-0.36	1.15	1.36
k. この授業では、アイアシスタントが行う学習(学習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていましたか？	0.71	1.01	0.99	0.18	1.29	1.38	1.29
l. この授業及び授業時間外の学習中に、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	-0.89	-0.38	-0.98	0.71	0.58	-0.64	-0.88
m. この授業開始時間・終了時間も守られていますか？	-0.79	0.13	-0.14	1.37	1.17	-0.38	-0.64
n. 授業はよく準備されていると思いますか？	1.27	1.60	1.46	0.84	0.90	1.61	1.60
o. 授業に対する教員の熱意を感じますか？	1.48	1.65	1.50	1.40	1.30	1.52	1.54
p. 授業中及び授業時間外の学習中に、あなたが考える、工夫しながら問題に取り組み機会はありましたか？	1.50	1.58	1.42	1.04	0.94	1.57	1.62
q. 授業中及び授業時間以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？	0.61	0.87	0.82				
r. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけたの大切さに気づく機会はありましたか？	1.13	1.16	1.12				
s. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけたの大切さに気づく機会はありましたか？	0.65	0.98	0.70				
t. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	0.98	1.43	0.96			1.43	1.41
u. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いませんか？	0.75	1.03	0.61			1.10	1.19
平均	0.88	1.09	0.88	0.98	1.03	1.16	1.20

E 結果として、この授業を履修してよかったですと思いますか？



平成25年度後期 全学共通教育授業アンケート(初年次自由ゼミナール) 学生の学習状況集計結果

大学教育総合センター

B この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

	全体
0回	75.6%
1回	12.2%
2回	12.2%
3回以上	0.0%
合計(回答数)	41

b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？

	全体
わかった	46.3%
だいたいわかった	41.5%
あまりわからなかった	2.4%
わからなかった	2.4%
読まなかった	7.3%
合計(回答数)	41

c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？

	全体
ほとんどしなかった	26.8%
30分ぐらい	39.0%
1時間ぐらい	19.5%
2時間ぐらい	12.2%
3時間ぐらい	0.0%
4時間以上	2.4%
合計(回答数)	41

d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？

	全体
よく利用した	19.5%
たまに利用した	9.8%
ほとんど利用しなかった	9.8%
まったく利用しなかった	61.0%
合計(回答数)	41

e. (上記の回答が①～③の場合)アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？(複数回答可)

	全体
授業記録	22.7%
i カード	36.4%
課題・レポート	27.3%
学習記録	0.0%
その他()	13.6%
合計(回答数)	22

f. 基礎ゼミナール用のテキスト『学びのはじめ』はこの授業におけるあなたの学習に役に立ちましたか？

	全体
とても役に立った	41.5%
役に立った	34.1%
少し役に立った	9.8%
役に立たなかった	0.0%
使わなかった	14.6%
合計(回答数)	41

- g. 授業の中で、図書館やミュージアムなど、学内の施設について見学する機会はありましたか？

	全体
あった	0.0%
なかった	92.7%
はっきり憶えていない	7.3%
合計(回答数)	41

- h. 授業の中で、図書館の使い方(本の借り方、蔵書の検索方法など)を学ぶ機会はありましたか？

	全体
あった	2.4%
なかった	90.2%
はっきり憶えていない	7.3%
合計(回答数)	41

- i. 授業の中で、大学での授業の受け方(講義の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方など)を学ぶ機会はありましたか？

	全体
あった	65.9%
なかった	26.8%
はっきり憶えていない	7.3%
合計(回答数)	41

- j. 授業を受ける中で、高校までの学習と大学での学習の違いに気づかされる機会はありましたか？

	全体
あった	82.9%
なかった	12.2%
はっきり憶えていない	4.9%
合計(回答数)	41

- k. 班活動を行う機会はありましたか？また、(班活動に限らず)何らかの学習活動の成果をみんなの前で発表する機会はありましたか？(複数回答可)

	全体
班活動を行う機会があった	48.9%
発表する機会があった	48.9%
両方ともなかった	0.0%
はっきり憶えていない	2.1%
合計(回答数)	47

- l. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？

	全体
そう思う	56.1%
すこしそう思う	12.2%
あまりそう思わない	4.9%
そう思う思わない	2.4%
機会がなかった	24.4%
合計(回答数)	41

- m. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？

	全体
そう思う	46.3%
すこしそう思う	41.5%
あまりそう思わない	4.9%
そう思う思わない	0.0%
機会がなかった	7.3%
合計(回答数)	41

- n. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？

	全体
そう思う	63.4%
すこしそう思う	31.7%
あまりそう思わない	4.9%
そう思う思わない	0.0%
合計(回答数)	41

C この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

	平均
a. この授業全体に対する目的や到達目標についての説明はありましたか？	1.66
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？	1.77
c. この授業の成績評価の方法や基準などについての説明はありましたか？	1.28
d. この授業の内容、進行は、おおよそシラバスに沿ったものでしたか？	1.13
e. 授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？	1.71
f. 板書・ビデオ・プロジェクター等で提示されたものは、わかりやすいものでしたか？	1.34
g. 教科書や参考書、配付資料等は、学習の助けになりましたか？	1.46
h. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会がありましたか？	1.84
i. この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていましたか？	1.49
j. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	-0.46
k. 授業中及び授業時間外の学習中で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	-0.07
l. 授業中及び授業時間外の学習で、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会がありましたか？	1.62
m. 授業中及び授業時間以外の学習中で、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？	1.54
n. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会がありましたか？	1.45
o. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	1.58
p. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？	1.56
平均	1.31

平成25年度後期 全学共通教育授業アンケート(健康・スポーツ科目) 学生の学習状況集計結果

大学教育総合センター

B この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

楽しそうな種目だと思ったから	62.8%
経験のない種目だったから	10.3%
あまり動かなくてもすみそうな種目だったから	4.9%
他にやりたい種目がなかったから	6.4%
先輩などからすすめられたから	0.2%
友達が選択するから	9.1%
他の種目で人数制限を受けたから	3.4%
その他(具体的に:)	2.9%
合計(回収枚数)	955

C この授業に関して、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

0回	71.2%
1回	17.6%
2回	7.6%
3回以上	3.6%
合計	750

b. あなたが履修した種目は第一希望のものでしたか？

はい	93.1%
いいえ	6.9%
合計	721

c. あなたは、体を動かすことが好きな方だと思いますか？

そう思う	54.8%
少しそう思う	27.5%
あまりそう思わない	12.4%
そう思わない	5.3%
合計	750

d. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？
その内容はわかりましたか？

わかった	18.0%
だいたいわかった	26.9%
あまりわからなかった	2.9%
わからなかった	0.9%
読まなかった	51.3%
合計	751

e. この授業の学習において、あなたはどのぐらい
アイアシスタントを利用しましたか？

よく利用した	4.2%
たまに利用した	4.7%
ほとんど利用しなかった	8.2%
まったく利用しなかった	95.3%
合計	743

f. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて
予習・復習をしましたか？

ほとんどしなかった	95.3%
30分ぐらい	2.3%
1時間ぐらい	0.4%
2時間ぐらい	1.1%
3時間ぐらい	0.0%
4時間以上	0.9%
合計	740

g. 体を動かすことの大切さについて、授業中に説明があり
ましたか？

あった	46.9%
あったと思う	40.8%
なかったと思う	9.1%
なかった	3.2%
合計	750

h. この授業における自分自身の学習状況は、満足できる
ものだと思いますか？

そう思う	55.1%
すこしそう思う	38.1%
あまりそう思わない	4.8%
そう思わない	2.0%
合計	750

D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んでください。

a. 教員は、授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか？	1.48
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだったと思いますか？	1.52
c. 教員は、成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか？	1.27
d. 授業の内容、進行は、おおよそシラバスに沿ったものでしたか？	1.32
e. 安全に運動を行うための指導(準備運動、道具の使い方など)がありましたか？	1.68
f. 教員の技能に関する指導はわかりやすいものでしたか？	1.39
g. 教員は、授業時間外にやるべきことを、わかりやすく説明していましたか？	0.84
h. 教員は、毎回、学生が学ぶべきポイントを示していましたか？	1.29
i. 学生が授業に参加しやすくなるための働きかけはありましたか？	1.45
j. 教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業中に対応していましたか？	1.27
k. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	-0.88
l. 授業中及び授業時間外の学習で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	-0.86
m. 授業開始時間・終了時間は守られていましたか？	1.63
n. 授業はよく準備されていたと思いますか？	1.40
o. 授業に対する教員の熱意を感じましたか？	1.52
p. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	1.49
q. この授業で学んだ種目を、さらに続けたいと思いますか？	1.31
平均	1.13

岩手大学の授業を受けてみませんか？

平成25年度

「全学共通教育授業公開ご案内」

岩手大学では、下記の期間中、全学共通教育科目の全ての科目を一般に公開いたします。この授業公開は、教職員・保護者だけでなく、広く一般市民の方々に授業をご参観いただき、岩手大学の全学共通教育へのご理解を深めて頂くとともに、今後さらに授業を良くするためのご意見やご助言をいただく機会になればと、実施するものです。

お忙しいこととは存じますが、この機会にぜひ岩手大学へお越しいただき、全学共通教育の授業をご参観くださいますようお願い申し上げます。

記

期 間：【前期】 6月 3日（月）～ 6月 7日（金）
【後期】 11月11日（月）～ 11月15日（金）

対 象 者：高校1～3年生、その保護者、一般市民（制約はありません）

参観方法：期間中、全学共通教育科目の授業科目を自由にご参観頂けます。

事前登録は必要ありません。お好きな時間に授業をご参観下さい。

期間中は、学生センターA棟1階の受付にお立ち寄り下さい。

以上

■連絡先

大学教育総合センター（10時～17時受付）

TEL：019-621-6554 / FAX：019-621-6928 / e-mail：uec@iwate-u.ac.jp



交通案内（盛岡駅から）

- バス利用
（盛岡駅前バスターミナル11番のりば）
 - ・岩手県交通バス上田線
乗車—「松園バスターミナル行き」
下車—「岩手大学前」
 - ・岩手県交通バス桜台団地線
乗車—「桜台団地行き」
下車—「岩手大学前」
- タクシー利用
盛岡駅から約2km 約10分
- 徒歩
盛岡駅から約25分
- 自家用車
入り口にて「授業公開」にいらしたことを教えてください。

平成25年4月5日

保護者 各位

大学教育総合センター
センター長 高畑 義人

授業モニター登録のお願い

「授業公開のご案内」の通り、岩手大学では、下記の日程で、全学共通教育科目の全ての科目を一般に公開いたします。

【前期： 6月 3日(月) ～ 6月 7日(金)】

【後期： 11月11日(月) ～ 11月15日(金)】

例年、保護者の方々には、授業改善の観点から、大学教育総合センターへ忌憚のないご意見をお寄せ頂く「授業モニター」(ボランティア)を募集しております。

このモニターは大学が認定するもので、正規の登録証を発行するほか、お引き受け頂ける授業モニターの方々とは、昼食会なども予定しております。

< 授業モニターの業務 >

- * 時間のとれる可能な曜日・時間で授業をご覧頂く
- * その授業について、モニター用アンケートにお答え頂く

といった簡単なものです。それ以外の義務・負担などはありません。

モニターの方々も一般の方々と同じように授業をご参観して頂くこととなりますが、ご参観後に、モニターとして様々なご意見・ご感想をお聞かせ願うという点が一般の方々とは異なります。

皆さまのご意見・ご感想を今後の授業改善へ役立てたいと思いますので、ぜひ授業モニターへご登録頂きますよう、よろしくお願い致します。

【前期 授業モニター登録】

登録方法： 大学教育総合センター (10時～17時受付)
お電話 (019-621-6554) いただくか、
ご芳名、ご連絡先、在学生の所属学部をご記入頂き
FAX (019-621-6928)
e-mail (uec@iwate-u.ac.jp)

締め切り： 平成25年5月31日(金)までにご連絡下さい。

【後期 授業モニター登録】

締め切り： 平成24年11月8日(金)までにご連絡下さい。



平成25年度前期 全学共通教育授業公開実施報告

2013年6月10日

大学教育総合センター

■実施日程

平成25年6月3日（月）～6月7日（金）

■参加者数（のべ人数）

	月	火	水	木	金	合計
モニター	0	0	0	0	0	0
一般	3	1	3	1	2	10

※受付通過人数

- ・在校生の家族 4 名
- ・高校生 1 名
- ・大学関係者 1 名
- ・その他（在校生の家族の知人） 1 名
- ・その他（一般） 3 名

■授業公開を知ったきっかけ

- ・入学式で配布されたちらし 3 人
- ・岩手大学から送付された案内 2 人
- ・その他(学生から) 1 人
- ・その他(在校生の家族から) 1 人
- ・その他(知人の紹介) 2 人
- ・その他(友人) 1 人

■ご参観された授業についてのご感想等

◎教養科目（人間と社会） 月1・2

◎教養科目（人間と自然） 月3・4

◎教養科目（人間と社会） 月3・4

- ・スクリーンを使ったり、先生もマイクを使用されるなど、授業に工夫をされていて、学生もわかりやすい環境の中に授業が進められていると感じました。只、先生が質問された際に、学生の方に積極性がなかったり、寝ている子もいて、残念に思いました。わが子にも、もっと社会の動きに敏感になってもらいたいとも思いました。

◎教養科目（人間と文化） 月3・4

- ・ユーモアもまじえ、とてもわかりやすい講義でした。自分の職業にも役立つ内容でした。ありがとうございました。

◎専門科目（人文社会科学部） 火3・4

◎教養科目（人間と文化） 木9・10

・生のフランス語をこんなに聞ける機会のはじめてなのでよかったです。

◎教養科目（人間と文化） 木9・10

・学生の多さに驚いた。途中で終わり、残念である。可能であれば、続きと塗り絵を体験したい。

◎専門科目（人文社会科学部） 木5・6

・想像していたものとは、少々内容が違いましたが、興味深く参観させていただきました。

◎共通基礎科目（英語） 金1・2

・とてもわかりやすい授業でした。機会があれば何度でも参加したいですが、若い人達と授業するのは、ちょっとはずかしいかな。

◎共通基礎科目（英語） 金3・4

・授業で使う資料を私にもわたして下さったり等、気を使って頂きました。先生の熱意と学生の態度との温度差には少々残念に思いましたが、結果的には、楽しませて頂きました。授業の進め方には、工夫を感じ、とても興味深かったです。

■その他、ご意見、ご感想等

◎教室内がきれいに整備されていて、勉強しやすい環境だと思いました。見学者の方が、私1人だったので、少し緊張してしまいました。授業を観させていただき、ありがとうございました。

◎大学というところに大変興味がありました。子供が大学に行くことになり、どのような状況の中、授業を受けているのか知る機会があり、大学に来ることを決めました。自分自身、机に向かって過ごすのは大変ですが、とても充実した時間でした。子供にも4年間、充実した時間を送ってほしいと思いました。11月も時間がとれたら、来たいと思います。

◎できれば続けて受講したい。

◎今回の授業ではPCを使用しませんでした。PCその他、何らかの機器を使用する授業の場合、参観者はとまどうかと思えます。使用方法の説明等、何らかのサポートがあれば尚、安心して（ご年配の方等も）参観できるのではと思いました。

◎教室まで案内して頂きありがとうございました。

◎この授業公開が、あくまで大学関係者に（主に）向けられたものであるならばかまいませんが、もし一般市民のためである、ということであれば、もう少し宣伝、あるいは、詳しい情報などあればもっと気軽に来られるのでは、と思いました。

平成25年度後期 全学共通教育授業公開実施報告

2013年11月22日

大学教育総合センター

■実施日程

平成25年11月11日（月）～11月15日（金）

■参加者数（のべ人数）

	月	火	水	木	金	合計
モニター	0	0	0	0	0	0
一般	4	4	4	5	6	23

※受付通過人数

- ・在校生の家族 4 人
- ・その他（附属中学校の父兄） 4 人
- ・その他（放送大学生） 12 人
- ・その他（他大学通教生） 2 人
- ・その他（科目履修生） 1 人

■授業公開を知ったきっかけ

- ・岩手大学から送付された案内 3 人
- ・その他(附属中学校保護者宛てのお便り) 4 人
- ・その他(図書館のポスター) 6 人
- ・その他(駅のポスター) 2 人
- ・その他(友人のさそい) 4 人

■ご参観された授業についてのご感想等

◎ 教養科目（人間と文化） 月3・4

- ・わかりやすく、おもしろかったです。エゴグラムはやったことありますが、見方が変わりました。

◎ 教養科目（人間と社会） 月3・4

- ・平和と政治についてよかった。

◎ 専門科目（人文社会科学部） 月5・6

- ・最新の研究論文を基に、2つのテーマを学び、難しいけど楽しかったです。参考になりました。
- ・レスポンスの回答がおもしろかった。今期、放送大学で認知心理学を勉強しているので、とても参考になりました。最新の情報が知れた。

- ◎ 共通基礎科目（英語以外の外国語） 月5・6
 - ・ひとつの言語について講座が初級、中級など複数開設されていて、受講しやすいなあと感じました。少人数で授業が進むので、個（先生）と個（学生）の関わりが濃いように思います。先生がお話上手と見えて、語学の授業の割には、学生さんの声を聞く時間が、短かったように思います。レスポンスカードでやりとりするのは、理解を深める上で、効果的だと思いました。素晴らしい取組だと思います。
- ◎ 共通基礎科目（英語） 月7・8
 - ・戦争の映画と時代劇の映画鑑賞をしましたが、英語の内容はよくわかりませんでした。
- ◎ 教養科目（人間と社会） 月9・10
 - ・態度の形成と変容について、わかりやすく学べました。
- ◎ 専門科目（人文社会科学部） 火3・4
 - ・放送大学で認知心理学を学んでいる最中なので、とても勉強になりました。イメージにも興味があるので、様々なイメージ現象について、概要を聞くことができました。学生さんたちのレスポンスカードも高度な内容でおもしろかったです。
 - ・大学の学生さんが、どんな授業を受けているかわからなかったので、雰囲気を感じることができた。レスポンスカードのコメントから、それに対しての一点一点説明されていることが、とても参考になりました。直観像については、とても興味がありました。化学式とか、つみきの積みの数あてとか、3D的に見える（頭の中ですが）ので、とても興味ありました。
- ◎ 教養科目（人間と社会） 火3・4
 - ・ていねいな授業でした。生徒も真面目。
- ◎ 専門科目（人文社会科学部） 水1・2
 - ・DV問題についてわかりやすく解説していただきました。続きが聞きたい内容でした。
- ◎ 専門科目（人文社会科学部） 水3・4
 - ・深くはわかりませんでした。専門用語がよく解説された授業でした。
- ◎ 専門科目（人文社会科学部） 水3・4
 - ・難しい統計の内容もありましたが、図などでわかりやすく学べました。参考になりました。
- ◎ 専門科目（農学部） 水5・6
 - ・初めての大学講義は、私にとっては、非常に難しく、わからないことばかりでした。
 - ・思ったよりも、講義室が狭かった。後ろの方に学生さん達が集中して座っていらして、ちょっと入りづらかったです。難しい授業を一生懸命きいている子も、すっかりおやすみタイムの子もいて、なつかしい雰囲気でした。
- ◎ 専門科目（人文社会科学部） 水5・6
 - ・医療、福祉に関する社会学の問題など詳しく学べました。

◎教養科目（環境教育科目） 木3・4

「人の営みが作り出す森林の景観と機能」

- ・講義の冒頭にレスポスカードへのレスポンスを、文章に起こして全体でとらえるという方式は、振りかえりをするのに良いと思いました。山地酪農を行っている田野畑村の吉塚さんについての言及がありましたが、岩大付属中でも校外学習として訪れており、「働く」というテーマで行った学習ではありましたが）環境の面からとらえるともっと深い学習ができるので、中学生にも聞いてもらいたいなあと思いました。農学系の講義を受講するのは初めてでしたが、いろいろな用語の読みが音読み（草地：そうち など）である、というのが新鮮でした。いったん講義が始まると、情報の行き来がなく、講師から学生への話題提供のため（詳細なプリント集が用意されていることもあり）、受講意欲を失っている学生さんが若干見られ、残念に思いました。

◎教養科目（高年次課題科目） 木3・4

- ・すべて英語で行われていました。先生は分かりやすい英語で、そして難しい単語はわかりやすく解説して説明していました。内容もとても興味深いものでした。学生さんたちも、よくついて行っているなあと感じました。次の授業も観たい（受けたい）なと思いました。こういった授業がたくさんあると、岩大に居ながら、留学経験（というか、訓練？）が出来るのだろうかと思いました。

◎専門科目（人文社会科学部） 木3・4

- ・ディスカッションに参加させてもらいました。2つの論文について様々な研究方法や考察のしかたがあるとわかり、勉強になりました。

◎専門科目（人文社会科学部） 木5・6

- ・ほぼ満席だったので、一番前の席でスライドを見るのが大変でした。内容はわかりやすく、怪しい広告の検証がおもしろかったです。

◎専門科目（人文社会科学部） 金1・2

- ・デカルトの二元論や現象学などわかりやすく学べました。

◎共通基礎科目（英語以外の外国語） 金1・2

◎専門科目（人文社会科学部） 金3・4

- ・詳細な内容の資料をいただき、受講する上で、理解するのに大いに手助けとなりました。マルクスの疎外論を用いた市民社会批判についての、冒頭部分のみの受講ではありましたが、順を追ってお話いただき、とても興味深いものでした。次回以降を聴講できないのは残念ですが、久しぶりに専門的な大学の講義を受けることができ、とても刺激になり、学びへの気持ちがまた出てきたように感じました。

◎専門科目（人文社会科学部） 金3・4

- ・態度の変容についてわかりやすく学べました。専門用語も多かったですが、わかりやすかったです。

- ・入室するまでは、とても入りにくかったですが、勇気を出して、席に座って受けてみると、とても楽しかったです。

◎専門科目（人文社会科学部） 金7・8

- ・心理学に興味があったので受けました。興味深いお話を聞くことができ、受けて良かったと思いました。
- ・学習心理学について、基礎をわかりやすく学べました。

■その他、ご意見、ご感想等

- ◎講義の内容がわかるように、紹介プリントの講座名に説明をつけてほしいです。
- ◎授業公開（後期）とあるので、前期もあったのだと思うのですが、一般市民にも、もっと周知してほしいです。
- ◎語学の講義の場合は、できればテキストのコピーや、プリントなど講義で使用するものを、いただければ嬉しいです。
- ◎講義後、教育資料館に行き、盛岡高等農林学校の創立についてや、歴史について学ぶことが、できました。
- ◎子どもが学んでいる大学は、あまり来ることができなかつたのですが、今回は学内を回る事ができ、非常に恵まれた環境の中で学べることができて、感謝しております。
- ◎農業教育資料館に行きました。前からみてみたかったところなので、とても充実した時間でした。ぼらんの広場で、音楽が聞きたいです。是非、オケの演奏をやって下さい。
- ◎公開講座があることを、もっと多くの人に、知ってもらえたらいいなと思いました。
- ◎人社の心理学系の講義がおもしろかったです。また機会があれば受講したいです。

「読書レポート」の作成と提出について

平成25年12月25日
岩手大学大学教育総合センター

1. 「読書レポート」の目的

この「読書レポート」の作成は、図書を1つの情報資料として読み込み、そこから適切な情報を取り出して、簡潔でわかりやすい文章としてまとめることを通して、本を読むことで「自分の考えを深める」ことのできる力を養うことを目的としています。この力を養うためには、問題関心を深めていくことが重要です。問題関心が深まることによって情報が持っている意味や重要性が的確に捉えられるようになります。

2. 「読書レポート」の作成の仕方

- (1) 課題図書の中から1冊を選び、下記の手順に従って、レポートをまとめます。
- (2) 第1章には、その課題図書を選んだ理由を200字程度にまとめます。
- (3) 第2章には、本の各章ごとの要約文を作ります。以下の手順でまとめてみましょう。
(全体で2,000字程度になるようにまとめます)

- ①本の各章ごとに、キーワードを3つ以内で選びます。
- ②そのキーワードを基に、その章の内容を要約します。

【アドバイス1】選んだ課題図書によって「章」と明記されていないものもありますが、目次を見て、「最も大きなくくり」を「章」としてとらえてみてください。また、「小説」のように「大きなくくり」が明確でないものは、内容の区切りの良いところで「章」を区切ってください。

【アドバイス2】第2章は、選んだ本の「章」に相当する複数の「節」から構成されます。レポートの構成を意識して、見た目にもわかりやすく書いてください。

(例：ウェブ進化論)
第1章 「ウェブ進化論」を選んだ理由
.....文章.....
第2章
1. 序章 ウェブ社会
 キーワード：チープ革命、ネット社会、リアル社会
 文章.....
2. 第1章 「革命」であることの真の意味
 キーワード：オープンソース、三大潮流、シリコンバレー
 文章.....
.....
.....
第3章
.....文章.....
第4章
.....文章.....
第5章
.....文章.....

- (4) 第3章では、その本の内容全体から得られた知識や考え方を総括的にまとめます(400字程度)。ここはあくまでも「本の内容」に沿ってまとめてください。
- (5) 第4章では、著者の主張(本の中で繰り返し書かれている著者の考え方)に対する自分の考えをまとめます(400字程度)。ここは、「自分の考え」を書いてください。
- (6) 最後の章では、次に読んでみたい本の題名や分野を挙げ、その理由をまとめます(200字程度)。理由を書くときには、今回読んだ本との関係を示すのがポイントです。

3. 「読書レポート」作成上のアドバイス

- (1) レポートは、A4版のレポート用紙を使って作成します。原稿用紙でもかまいませんが、枚数が増えてしまいますので、「自分で判断して」選んでください。
- (2) レポートには、「選んだ図書名」「レポートのタイトル」「入学予定学部」「受験番号」「名前」を明記した表紙をつけてください。
- (3) レポートの最初には、「レポートのタイトル」「受験番号」「名前」を明記してください。本文は、章分けをし、小見出しを付け、適宜段落分けをして、丁寧な字で読みやすく作成してください。
- (4) 電子ファイルで作成する場合は、ワープロソフト（ワード、もしくは、一太郎）で作成してください。同じように、(2)の表紙をつけ、(3)の小見出し等をつけて読みやすいレポートを作成してください。
- (5) レポートの各項目について、文字数の目安が指定されています。それよりも極端に長く／短くならないように注意してまとめてください。目安として、2割以内と言われています（1000字の場合は800～1200字の範囲内）。
- (6) 上記レポートをまとめるにあたって、「批判的に本を読む」ことを意識してください。本に書かれていることは常に正しいとは限りません。具体的には、以下の手順で考えてみましょう。
 - ①書いてあることの中で、どれが情報の提示で、どこが著者の意見なのかを区別してみましょう。
 - ②提示されている情報（事実）が確かかどうか、確かめる方法を考えます。本やインターネット等を利用して実際に確かめてみましょう。
 - ③著者の考えが踏まえられた事実（根拠）と矛盾していないか、考えてみましょう。
- (7) 1冊の本について「読書レポート」を作成し、提出したら、他の本にも挑戦してみましょう。期限内に提出されたレポートは、何冊分でも受け取ります。
- (8) プレ・アイアシスタント（別紙参照）にアクセスすると、レポート作成のアドバイス等が参照できます。機会があれば、アクセスしてみましょう。

4. 提出期限と提出方法

以下の2つの方法より、都合のよい方を選択して提出してください。提出方法によって提出締め切り日が変わりますが、扱いが変わることはありません。

■方法1：プレ・アイアシスタント（別紙参照）を利用して提出

岩手大学が用意した入学前の生徒専用のe-Learningサイト（<http://pre-ia.iwate-u.ac.jp/>）にアクセスして、ワープロソフト（Word、一太郎等）を用いて作成したレポートを提出してください。この「プレ・アイアシスタント」には、岩手大学の教員によるレポート作成に関するアドバイスや図書の紹介などが随時掲載されていきます。ぜひ、積極的にアクセスし、読書レポートの作成に役立ててください。

提出期限：平成26年2月17日（月） 23：00

■方法2：郵送で提出

郵送で提出する場合には、レポートを下記の宛先まで送ってください。

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-34

岩手大学 大学教育総合センター

※「読書レポート在中」と封筒の表面に赤字で記入すること。

提出期限：平成26年2月14日（金）（消印有効）

入学前教育専用サイト プレ・アイアシスタントについて

岩手大学大学教育総合センター

岩手大学では、AO・推薦入試で合格した生徒専用のe-Learningサイト「プレ・アイアシスタント」を用意しました。このサイトからは、岩手大学の教員からの読書レポート作成上のアドバイス「課題図書一覧」や、高校生の間にぜひ読んでおいてもらいたい本の紹介「おすすめの本」などの情報が提供されます。英語や数学のe-Learning教材も提供されます。また、同じく推薦入試で合格した生徒同士で読んだ本を紹介する「図書紹介カード」もあります。さらに、岩手大学で開講されている科目のシラバス（授業計画）も閲覧することができます。

ぜひ、このプレ・アイアシスタントを積極的に活用して、入学式までの限られた期間を有益に過ごしてください。

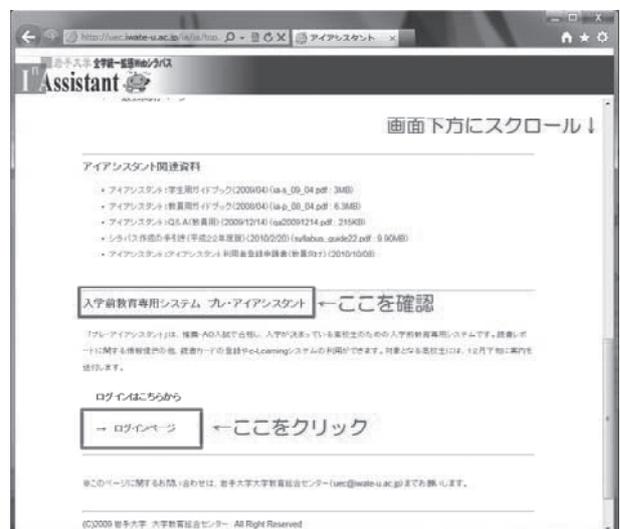
■ログイン方法

- (1) インターネットに接続されたパソコンのブラウザ（インターネット・エクスプローラーなど）を開いて、岩手大学のホームページ（http://www.iwate-u.ac.jp/）にアクセスします。画面左側に、「アイアシスタント」のロゴがあるので、そこをクリックします。



- (2) ロゴをクリックすると、「アイアシスタント」のページが表示されます。このページをスクロールした下の方に、入学前教育専用システム「プレ・アイアシスタント」への紹介部分があるので、その「ログインページ」をクリックします。

「アイアシスタント」へのリンクをクリックしてもログインできません。注意してください。



- (3) 右のようなログイン画面が表示されます。ログイン名、パスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックします。



※お使いのパソコンの設定等によって、上記とは違う画面表示になる場合があります。

■ログイン名・パスワードの発行ルール

ログイン名：受験番号（例：A0001）

パスワード：誕生日より以下のルールで発生させています。
※ログイン名、パスワードともに「半角英数字」です。

○人文社会科学部（推薦入試合格者）の場合

*1991年生まれの場合

→a991+誕生日の4桁表示

（例：1991年4月20日生まれ → a9910420）

*1992年生まれの場合

→a992+誕生日の4桁表示

（例：1992年2月1日生まれ → a9920201）

最初のアルファベット1文字は、以下の通りになります。

a：人文社会科学部 b：教育学部 c：工学部 d：農学部

ログイン時には大文字・小文字・全角・半角に注意しましょう！

- (3) ログイン後、わからないことがあったら、タイトルの横にある？マークをクリックしてみましょう。解説が表示されます。また、入学前教育の課題の内容等に関することについては、「質問カード」を使って質問することもできます。ただし、入学後の諸手続（学生寮、奨学金、各種手続きに必要な書類等）に関する問い合わせは、担当部署へお願いします。

入学前教育についてのお問い合わせは、こちらへ。

〒020-8550

岩手県盛岡市上田3-18-34

岩手大学 大学教育総合センター（受付窓口）

TEL:019-621-6554/FAX:019-621-6928

※受付時間：平日10:00～17:00（12/28～1/5は冬期休業期間）

入学前教育課題図書一覧

2013/12/26
大学教育総合センター

『音律と音階の科学』（講談社ブルーバックス） 小方 厚（著）

【内容紹介】

人は自然から美しいハーモニーを感じ、それを数学の言葉で表現した。弦の長さが簡単な整数比である2つの音は協和する、ということを見出したのは古代ギリシアのピタゴラスである。彼はこの原理に基づき、ドレミの音階を構成した。その後、近世までの音階の歴史において人類は長い間いろいろな問題に遭遇してきた。それは、当時の人々の音楽に対する耳の欲求の変化からくるものであったが、その問題の回避のために、さまざまな音階が考案されており、そこに数学が自然に関わってきている。本書はおもに、音階と数学との関わりについて歴史を踏まえて解説している。（人文社会科学部教員）

『若者と労働 ― 「入社」の仕組みから解きほぐす―』（中公新書ラクレ） 濱口桂一郎（著）

【内容紹介】

就職活動の荒波にもみくちゃにされ、大学を卒業してもなかなか就職できず、年を重ねるごとに仕事は見つからなくなる、運よく就職できても「ブラック」な状況で働かされる…。そんな雇用社会に翻弄される「若者」が、法的に、あるいは社会的にどのように位置づけられてきた（いる）のか、その根底にはどのような問題があるのか…。大学卒業後、多くの人が直面する「就職」との関わりを多角的に検討した書籍であり、将来の「シューカツ」に備えての教養という面でも有益といえる。（人文社会科学部教員）

『タテ社会の人間関係 ― 単一社会の理論』（講談社現代新書） 中根千枝（著）

【内容紹介】

「日本論」の不朽の名著。出版から半世紀近く、現代の日本は欧米化が進んだといわれるが、今読んでも全く古くは感じられない。それは「単一性」という社会の特徴が根本的なところではあまり変化していないからだろう。先輩・後輩関係、場による集団帰属意識（「ウチ」）、「ヨソ」との関わり方から政治家・学者らの非論理的・感情的発言まで、様々な問題が幅広く取り上げられており、現代日本社会に興味のある人には必読の教養書といえる。（人文社会科学部教員）

『言語・思考・現実』（講談社学術文庫） ベンジャミン・リー・ウォーフ（著）

【内容紹介】

アメリカ合衆国南部や中南米のアメリカ先住民（ネイティブ・アメリカンとか、アメリカ・インディアンとか、インディオという名称で呼ばれることもある）の言語の調査・研究にもとづき、現実の世界から言語が生み出されるのではなく、言語が世界の認識に影響を与えると説いた言語相対論と称される理論を核として、アメリカ先住民の言語によって認識される多様な世界観が展開されている。（人文社会科学部教員）

『「人間力」の育て方』（集英社新書） 堀田 力（著）

【内容紹介】

著者は東京地検特捜部の検事としてロッキード事件を担当し、現在は社会福祉財団の運営にも携わる。犯罪と福祉という両極端の社会を見据えて発見した「人間力」について語る。現代の教育行政の混迷、社会のひずみ、家族形態の変化が負のスパイラルとして子どもたちに影響を与えているとする著者は、自分で生きていく力（自助）と、他人を助け他人に助けられる力（共助）をキーワードに、これからの教育や子育てのあり方について語る。イギリスやフィンランドの教育に詳しい現場教師との対談も示唆に富む。（教育学部教員）

『「わかる」とはどういうことか ― 認識の脳科学』（ちくま新書） 山鳥 重（著）

【内容紹介】

この本は、脳の高次機能障害の臨床医である著者が、自分の臨床経験から人の認識のメカニズムについて書いたものである。著者は「はじめに」で、「何かについて考えることはごく自然にできますが、何かについて考えるとはどういうことかを考えることは自然にはできません。」と書いている。このことを踏まえ、これらのことをあきらかにするために、この本では、「どんな時に『わかった』と思うか」、「『わかる』ために何が必要か」等についてわかりやすく書いている。これから教える立場になる者として読んでおきたい一冊である。（教育学部教員）

『科学の方法』（岩波新書） 中谷宇吉郎（著）

【内容紹介】

著者は、分かりやすく平易な文章で自然科学の本質と方法を説明する。科学によって解ける問題と解けない問題、物質の科学と生命の科学、科学と数学、実験などについて分かりやすく説明し、科学の限界を知ってこそ次の新しい分野を開拓できると説く。普段科学から離れている人が、科学を理解するために役立つ本である。（教育学部教員）

『生物学的文明論』（新潮新書） 本川達雄（著）

【内容紹介】

豊かな海をはぐくむサンゴ礁にも、日夜潮だまりで砂を噛むナマコにも、あらゆる生きものには大切な意味がある。個々の生きものが持つ形の意味、サイズとエネルギーと時間の相関関係、そして医療の進歩により本来の生物学的寿命をはるかに超えて生きる「人間」がもたらす生態系への深刻な影響について、技術と利便さを追求する数学・物理学的発想ではなく、生物学的発想により論考する。（工学部教員）

『宇宙に外側はあるか』（光文社新書） 松原隆彦（著）

【内容紹介】

なぜ宇宙が存在するのか、この宇宙は奇妙な謎に満ち溢れている。しかし、現在、人類の宇宙を見る目は大きく開かれつつある。いま、宇宙の何がわかっていて、何がわかっていないのか。宇宙の全体像とは？宇宙の「外側」とは？宇宙に始まりがあるとすれば終わりはあるのか？そもそも我々が当たり前と考えている「時間」とは何か？ 現代宇宙論をベースに、高校生にも易しく分かるように解説している一冊である。（工学部教員）

『太平洋のレアアース泥が日本を救う』（PHP新書） 加藤泰浩（著）

【内容紹介】

ハイテク産業には欠かせないが中国が独占的に所有して問題となっているレアアース（希土類）一その巨大鉱床が太平洋の海底で発見された。なぜ「世紀の大発見」「21世紀の黄金」と世界で賞賛されたのか。レアアースの定義の説明、産業への用途、中国の巧妙な資源戦略、海底のレアアース泥発見の経緯と将来の開発について詳細に解説する。（工学部教員）

『科学者という仕事 — 独創性はどのように生まれるか』（中公新書） 酒井邦嘉（著）

【内容紹介】

大学に進学しても、研究を職業とする人はごく少数に限られた人だと思います。しかし本書は、研究のプロになりたいと思う人はもちろん、そうでなくても社会で充実した人生を送りたい人にとって、独創性がいかに重要かについて大学で学ぶための重要な提言を論理的に述べています。感情のみが支配する社会ではなく、論理性が今後は益々重要視されると思いますので、文系、理系を問わず必読の1冊と思います。（農学部教員）

『キリマンジャロの雪が消えていく — アフリカ環境報告』（岩波新書） 石 弘之（著）

【内容紹介】

はるか昔、人類の祖先はアフリカ大陸で生まれたという。そして現在、豊かな自然の多様性を誇っていたアフリカが、解決の決定打がない貧困や環境破壊に苦しみ続けている。爆発的な人口増加、世界経済に翻弄される農業生産、不安定な政治情勢や温暖化による環境変化もさらなる悪化に追い打ちをかける。長年国際環境問題に関わってきた著者は、アフリカ大陸が抱える問題は将来人類が向き合う課題でもあると語りかける。野生動物の保護や国際協力・援助のあり方についても考えさせられる。（農学部教員）

『科学は誰のものか — 社会の側から問い直す』（NHK出版生活人新書） 平川秀幸（著）

【内容紹介】

遺伝子組み換え、クローン、そしてiPS細胞。今や私たちは、食べ物から医療に至るまで、「生命」観を変える可能性を持つ画期的な科学技術を目の前にしている。科学とは何か？科学的思考とは何か？私たちの暮らしに深く関わる科学技術の問題にこれからどう冷静に向き合っていくのか？専門家の知識と一般市民の知性をつなぐ科学技術社会論の入門となる1冊である。（農学部教員）

※各書籍紹介末尾の（ ）には各図書を推薦した教員の専任担当学部等が書かれています。これらの情報も参考に、みなさんは、進学予定学部にかかわらず、自由に「読みたい」と思った本を選んでください。

入学前教育用 e-Learning 教材紹介

大学教育総合センター

岩手大学の入学前教育では、読書レポートの他に数学と英語のe-Learning教材を用意しました。これらの教材は、受験のためではなく、入学後の大学での学びに必要な内容で構成しました。環境が整えば、ぜひ、挑戦してみてください。もちろん、手持ちの参考書等で学習を進めていただいてもかまいません。大学に入学したら勉強が終わるわけではないので、入学後に備えて、学習を続けるように心がけてください。

これらのe-Learning教材へは、岩手大学の入学前教育専用サイト「プレ・アイアシスタント」の左側のメニュー「教科学習」の各項目からアクセスすることができます。ID、パスワードは、「プレ・アイアシスタント」と同じです。

■もう一度数学

◇特徴

高校数学で学ぶ単元から、大学各分野で要求される計算力を養うために作成された、完全自習用教材です。学生が「理解できる」「計算できる」を主眼において作られているため、定理や公式の証明が丁寧に説明されています。「問題集」もついていますので、自身の学習の成果を確認しながら進めることができます。手元にノートと鉛筆を用意して、実際に鉛筆を動かして問題を解きながらチャレンジしてみましょ。工学部入学予定生徒は必修です。必ず取り組んでください。（平成26年1月6日より使えるようになります。）

■これでどうだっ、英文法！

◇特徴

「覚えすぎない英文法」をテーマに、基本的な英文法を厳選し、易しい内容から難しい内容へと確実に学べるように作られた教材です。文法の解説に加えて、英文解釈、英文法、発音、ディクテーション等の練習ができるようになっているので、手元にノートと鉛筆を用意して、実際に鉛筆を動かし、発音して確認しながらチャレンジしてみましょ。工学部入学予定生徒はUnit4までが必修です。（平成26年1月6日より使えるようになります。）

※上記2つは金沢電子出版が提供する教材を使っています。

■English Preparatory Course

◇特徴

高校英語の範囲を押さえながら、受験のための英語ではなく、大学で学問を修めるために必要な英語の基礎力を鍛えます。利用可能期間については、後日、プレ・アイアシスタント上でお知らせします。

◇内容

- ・言語知識
 - ・語彙（形容詞、動詞、副詞、等）
 - ・文法（時制、動詞の変化、等）
- ・読解
 - ・速読問題（理解）
- ・聴解
 - ・リスニング問題（文法、語彙、等）

平成25年度 入学前教育 読書レポート提出状況一覧

2014/2/18
入学前教育実施小委員会

課題図書	人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部	AO	合計
人文社会科学部						
音律と音階の科学	4	5	7	2	0	18
若者と労働	5	2	3	1	0	11
タテ社会の人間関係	11	7	3	0	1	22
言語・思考・現実	5	0	0	0	0	5
教育学部						
「人間力」の育て方	9	33	10	1	2	55
「わかる」とはどういうことか	3	19	7	1	1	31
科学の方法	0	0	6	0	0	6
工学部						
生物学的文明論	0	3	1	3	0	7
宇宙に外側はあるか	1	4	34	4	0	43
太平洋のシアアース泥が日本を救う	0	0	14	0	0	14
農学部						
科学者という仕事	0	0	3	5	0	8
キリマンジャロの雪が消えていく	4	1	5	10	2	22
科学は誰のものか	1	1	0	3	0	5
合計（通）	43	75	93	30	6	247
対象者（人数）	43	73	94	29	6	245
提出者（人数）	43	72	93	29	6	243
提出率	100%	99%	99%	100%	100%	99%
レポート採点担当分（通）	46	46	64	35	-	-

※教育学部1名は指定以外の本のレポートを提出、工学部1名は入院のため提出できず（退院後に提出予定）。

※大学教育総合センターにて、「「わかる」とはどういうことか」11通、「「人間力」の育て方」35通、「音律と音階の科学」8通とその他を分担。

平成25年度卒業生・卒業時アンケート集計結果

		人文社会科学部		教育学部		工学部		農学部	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
A 性別	男性	74		96		292		93	
	女性	138		148		41		91	
	合計	212	96.4%	244	96.1%	333	77.6%	184	84.0%
B 入学年度	H18	1	0.5%	1	0.4%	2	0.6%	1	0.5%
	H19	1	0.5%	0	0.0%	5	1.5%	1	0.5%
	H20	1	0.5%	3	1.2%	10	3.0%	26	14.1%
	H21	13	6.1%	7	2.9%	18	5.4%	8	4.3%
	H22	180	84.9%	223	91.4%	276	82.9%	142	77.2%
	H23	3	1.4%			1	0.3%		
	H24	13	6.1%			8	2.4%		
	未記入	30	14.2%	10	4.1%	13	3.9%	6	3.3%
C 入学形態	推薦	40	18.9%	52	21.3%	63	18.9%	25	13.6%
	一般前期	89	42.0%	122	50.0%	203	61.0%	126	68.5%
	一般後期	33	15.6%	67	27.5%	49	14.7%	24	13.0%
	社会人(教育のみ)			2	0.8%				
	編入(一般)(教育以外)	7	3.3%			9	2.7%	6	3.3%
	編入(社会人)	1	0.5%			3	0.9%		
	その他(外国人他)	11	5.2%			2	0.6%		
	未記入			1	0.4%				
F 卒業後の進路	民間企業	116	54.7%	78	32.0%	109	32.7%	56	30.4%
	公務員	63	29.7%	25	10.2%	28	8.4%	54	29.3%
	教員	1	0.5%	73	29.9%	0	0.0%	0	0.0%
	自営業	1	0.5%	1	0.4%	1	0.3%	1	0.5%
	フリー専門職	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%
	大学院	11	5.2%	32	13.1%	165	49.5%	58	31.5%
	研究生	2	0.9%	0	0.0%	5	1.5%	0	0.0%
	専門学校	1	0.5%	0	0.0%	3	0.9%	0	0.0%
	その他	4	1.9%	11	4.5%	4	1.2%	6	3.3%
	未定	13	6.1%	23	9.4%	18	5.4%	8	4.3%
QA1:全学共通教育の必要取得単位数についてどう考えますか?	少なすぎる	10	4.7%	4	1.6%	19	5.7%	5	2.7%
	ちょうどいい	166	78.3%	223	91.4%	253	76.0%	139	75.5%
	多すぎる	36	17.0%	17	7.0%	60	18.0%	38	20.7%
QA2:受講した全学共通教育科目の内容をトータルにみたとき、どの程度満足していますか?	満足	45	21.2%	43	17.6%	21	6.3%	16	8.7%
	やや満足	119	56.1%	124	50.8%	127	38.1%	81	44.0%
	どちらとも言えない	31	14.6%	55	22.5%	114	34.2%	45	24.5%
	やや不満	17	8.0%	19	7.8%	57	17.1%	32	17.4%
	不満	0	0.0%	3	1.2%	14	4.2%	9	4.9%
QB1:「課程・学科」では入学時に期待していた通りの教育を受けられましたか?	そう思う	74	34.9%	88	36.1%	47	14.1%	56	30.4%
	少しそう思う	102	48.1%	112	45.9%	141	42.3%	64	34.8%
	どちらとも言えない	22	10.4%	31	12.7%	72	21.6%	45	24.5%
	あまりそう思わない	13	6.1%	11	4.5%	62	18.6%	14	7.6%
	そう思わない	0	0.0%	2	0.8%	10	3.0%	5	2.7%
QB2:他の「課程・学科」に進路を変更したいと思ったことはありましたか?	そう思う	18	8.5%	18	7.4%	30	9.0%	12	6.5%
	少しそう思う	39	18.4%	37	15.2%	58	17.4%	25	13.6%
	どちらとも言えない	14	6.6%	22	9.0%	32	9.6%	15	8.2%
	あまりそう思わない	39	18.4%	53	21.7%	53	15.9%	29	15.8%
	そう思わない	100	47.2%	114	46.7%	159	47.7%	103	56.0%

平成25年度卒業生・卒業時アンケート集計結果

		人文社会科学部		教育学部		工学部		農学部	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
QB3:「コース・学科」での教員の教育に対する姿勢について、どの程度満足していますか？	満足	113	53.3%	105	43.0%	44	13.2%	71	38.6%
	やや満足	86	40.6%	91	37.3%	132	39.6%	78	42.4%
	どちらとも言えない	9	4.2%	37	15.2%	114	34.2%	23	12.5%
	やや不満	3	1.4%	6	2.5%	33	9.9%	7	3.8%
	不満	0	0.0%	1	0.4%	8	2.4%	5	2.7%
QB4:「コース・学科」の授業の成績評価について、どの程度満足していますか？	満足	101	47.6%	112	45.9%	46	13.8%	61	33.2%
	やや満足	88	41.5%	102	41.8%	152	45.6%	87	47.3%
	どちらとも言えない	20	9.4%	24	9.8%	110	33.0%	32	17.4%
	やや不満	3	1.4%	4	1.6%	18	5.4%	4	2.2%
	不満	0	0.0%	0	0.0%	7	2.1%	0	0.0%
QB5:「コース・学科」の教員と学生の関係について、どのように思っていますか？	いろいろと接触することが多く、親密である	125	59.0%	152	62.3%	69	20.7%	111	60.3%
	接触はあるが親密でない	64	30.2%	72	29.5%	181	54.4%	66	35.9%
	接触はあまりない	17	8.0%	17	7.0%	77	23.1%	5	2.7%
	その他	4	1.9%	3	1.2%	6	1.8%	2	1.1%
	いろいろと接触することが多く、親密である	128	60.4%	193	79.1%	186	55.9%	149	81.0%
QB6:「コース・学科」の学生間の関係について、どのように思っていますか？	接触はあるが親密でない	66	31.1%	41	16.8%	115	34.5%	27	14.7%
	接触はあまりない	13	6.1%	7	2.9%	30	9.0%	5	2.7%
	その他	3	1.4%	3	1.2%	3	0.9%	1	0.5%
	十分な選択肢が用意されている	132	62.3%	146	59.8%	143	42.9%	101	54.9%
	やや少ない	75	35.4%	95	38.9%	171	51.4%	73	39.7%
QB7:「コース・学科」で開講されている授業科目のバリエーションについてどう思いますか？	大いに少ない	5	2.4%	3	1.2%	18	5.4%	10	5.4%
	満足	105	49.5%	105	43.0%	43	12.9%	63	34.2%
	やや満足	87	41.0%	110	45.1%	160	48.0%	86	46.7%
	どちらとも言えない	14	6.6%	25	10.2%	89	26.7%	26	14.1%
	やや不満	4	1.9%	4	1.6%	31	9.3%	8	4.3%
QB8:「コース・学科」ので受けた教育を全体としてみたとき、どの程度満足していますか？	不満	1	0.5%	0	0.0%	10	3.0%	1	0.5%
	強く関連している	36	17.0%	120	49.2%	147	44.1%	107	58.2%
	少し関連している	87	41.0%	56	23.0%	104	31.2%	43	23.4%
	関連はない	64	30.2%	45	18.4%	42	12.6%	16	8.7%
	どちらとも言えない	24	11.3%	13	5.3%	23	6.9%	16	8.7%
QC1:「課程・学科・コース」で学んだ内容はあなたの卒業後の進路にどの程度関連があると思いますか？	満足	36	17.0%	63	25.8%	46	13.8%	43	23.4%
	やや満足	82	38.7%	74	30.3%	101	30.3%	41	22.3%
	どちらとも言えない	74	34.9%	69	28.3%	116	34.8%	78	42.4%
	やや不満	17	8.0%	24	9.8%	38	11.4%	13	7.1%
	不満	2	0.9%	2	0.8%	15	4.5%	7	3.8%
QC2:「学部」の就職や進学に関する支援にはどの程度満足していますか？	入学前から	18	8.5%	55	22.5%	40	12.0%	15	8.2%
	1～2年次	17	8.0%	19	7.8%	38	11.4%	13	7.1%
	3年次	81	38.2%	84	34.4%	126	37.8%	83	45.1%
	4年次	74	34.9%	64	26.2%	101	30.3%	49	26.6%
	5年次(獣医のみ)							7	3.8%
	6年次(獣医のみ)							11	6.0%
	その他	13	6.1%	11	4.5%	12	3.6%	4	2.2%
	入学前から	4	1.9%	7	2.9%	7	2.1%	0	0.0%
QC3:希望する進路はいつ頃決めましたか？	1～2年次	6	2.8%	13	5.3%	10	3.0%	4	2.2%
	3年次	157	74.1%	140	57.4%	148	44.4%	101	54.9%
	4年次	31	14.6%	63	25.8%	144	43.2%	46	25.0%
	5年次(獣医のみ)							11	6.0%
	6年次(獣医のみ)							15	8.2%
	その他	5	2.4%	6	2.5%	9	2.7%	5	2.7%
	入学前から	4	1.9%	7	2.9%	7	2.1%	0	0.0%
	QC4:進路の準備はいつ頃から始めましたか？	1～2年次	6	2.8%	13	5.3%	10	3.0%	4
3年次		157	74.1%	140	57.4%	148	44.4%	101	54.9%
4年次		31	14.6%	63	25.8%	144	43.2%	46	25.0%
5年次(獣医のみ)								11	6.0%
6年次(獣医のみ)								15	8.2%
その他		5	2.4%	6	2.5%	9	2.7%	5	2.7%

		人文社会科学部		教育学部		工学部		農学部	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
QC5:決定した進路に対してどの程度満足していますか？	満足	84	39.6%	100	41.0%	113	33.9%	100	54.3%
	やや満足	65	30.7%	62	25.4%	94	28.2%	41	22.3%
	どちらとも言えない	38	17.9%	52	21.3%	79	23.7%	34	18.5%
	やや不満	9	4.2%	12	4.9%	17	5.1%	4	2.2%
	不満	6	2.8%	7	2.9%	13	3.9%	3	1.6%
QD1:どの程度学業を重視したと思いますか？	重視した	52	24.5%	66	27.0%	60	18.0%	56	30.4%
	少し重視した	101	47.6%	111	45.5%	135	40.5%	81	44.0%
	あまり重視しなかった	41	19.3%	53	21.7%	103	30.9%	35	19.0%
	重視しなかった	9	4.2%	5	2.0%	19	5.7%	10	5.4%
QD2:どの程度サークルを重視したと思いますか？	重視した	77	36.3%	93	38.1%	76	22.8%	45	24.5%
	少し重視した	46	21.7%	47	19.3%	72	21.6%	53	28.8%
	あまり重視しなかった	29	13.7%	28	11.5%	72	21.6%	27	14.7%
	重視しなかった	21	9.9%	27	11.1%	33	9.9%	18	9.8%
	サークルに入らなかった	30	14.2%	40	16.4%	64	19.2%	39	21.2%
QD3:大学事務のサービスについて、どの程度満足していますか？	満足	21	9.9%	38	15.6%	20	6.0%	19	10.3%
	やや満足	86	40.6%	91	37.3%	98	29.4%	38	20.7%
	どちらとも言えない	53	25.0%	55	22.5%	123	36.9%	58	31.5%
	やや不満	29	13.7%	41	16.8%	58	17.4%	47	25.5%
	不満	14	6.6%	11	4.5%	19	5.7%	20	10.9%
QD4:教室、研究室の施設など、学習環境について、どの程度満足していますか？	満足	38	17.9%	72	29.5%	41	12.3%	48	26.1%
	やや満足	84	39.6%	87	35.7%	139	41.7%	68	37.0%
	どちらとも言えない	40	18.9%	41	16.8%	69	20.7%	28	15.2%
	やや不満	34	16.0%	28	11.5%	51	15.3%	30	16.3%
	不満	7	3.3%	7	2.9%	16	4.8%	8	4.3%
QD5:図書館について、どの程度満足していますか？	満足	64	30.2%	88	36.1%	69	20.7%	54	29.3%
	やや満足	98	46.2%	93	38.1%	117	35.1%	76	41.3%
	どちらとも言えない	21	9.9%	37	15.2%	96	28.8%	35	19.0%
	やや不満	16	7.5%	14	5.7%	27	8.1%	12	6.5%
	不満	4	1.9%	3	1.2%	8	2.4%	5	2.7%
QD6:学食、生協について、どの程度満足していますか？	満足	49	23.1%	74	30.3%	44	13.2%	28	15.2%
	やや満足	90	42.5%	115	47.1%	149	44.7%	81	44.0%
	どちらとも言えない	40	18.9%	31	12.7%	68	20.4%	37	20.1%
	やや不満	21	9.9%	12	4.9%	45	13.5%	30	16.3%
	不満	3	1.4%	3	1.2%	10	3.0%	6	3.3%
QD7:大学生生活全般についてどう感じていましたか？	とても充実していた	82	38.7%	128	52.5%	58	17.4%	69	37.5%
	充実していた	97	45.8%	92	37.7%	176	52.9%	82	44.6%
	どちらとも言えない	14	6.6%	11	4.5%	55	16.5%	27	14.7%
	あまり充実していなかった	7	3.3%	2	0.8%	19	5.7%	3	1.6%
	充実していなかった	2	0.9%	1	0.4%	8	2.4%	0	0.0%
QH1:「学部」の教育に厳しさを感じましたか。	感じた	11	5.2%						
	少し感じた	47	22.2%						
	どちらとも言えない	50	23.6%						
	あまり感じなかった	84	39.6%						
QH2:この「学部」で幅広く学べたと思いますか。	感じる	10	4.7%						
	そう思う	94	44.3%						
	少しそう思う	83	39.2%						
	どちらとも言えない	16	7.5%						
	あまりそう思わない	9	4.2%						
	そう思わない	1	0.5%						

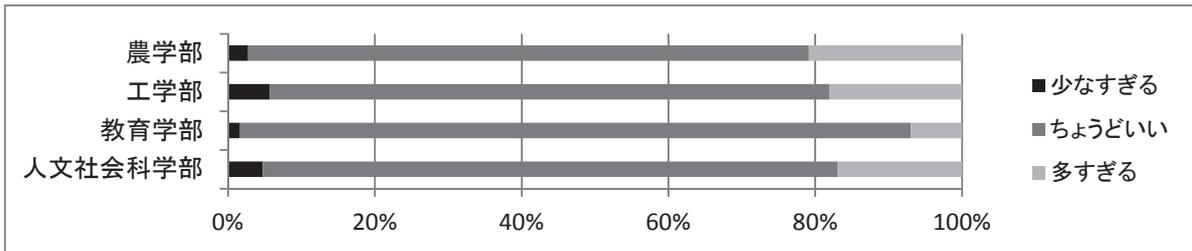
平成25年度卒業生・卒業時アンケート集計結果

		人文社会科学部		教育学部		工学部		農学部	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
QH3:この「学部」で専門的な勉強・研究ができたと思いますか。	そう思う	78	36.8%						
	少しそう思う	98	46.2%						
	どちらとも言えない	11	5.2%						
	あまりそう思わない	13	6.1%						
	そう思わない	2	0.9%						
QH4:副専攻制度には総合的な視野を育むという意味で効果があると思いますか。	効果あり	56	26.4%						
	少し効果あり	87	41.0%						
	どちらとも言えない	37	17.5%						
	あまり効果はない	20	9.4%						
	効果なし	2	0.9%						
QH5:この「学部」で学び、総合的視野を身につけられたと思いますか。	そう思う	60	28.3%						
	少しそう思う	118	55.7%						
	どちらとも言えない	17	8.0%						
	あまりそう思わない	8	3.8%						
	そう思わない	0	0.0%						
QH6:この「学部」で学び、自分の専門分野を学問全体の中で相対的に位置づけることができるようになったと思いますか。	そう思う	38	17.9%						
	少しそう思う	103	48.6%						
	どちらとも言えない	45	21.2%						
	あまりそう思わない	13	6.1%						
	そう思わない	2	0.9%						
QH7:人文社会科学部は今後も「総合的な教育・研究を行う学部」であって欲しいと思いますか。	そう思う	106	50.0%						
	少しそう思う	66	31.1%						
	どちらとも言えない	20	9.4%						
	あまりそう思わない	10	4.7%						
	そう思わない	1	0.5%						
QH8:この「学部」で学んで良かったと思いますか。	そう思う	139	65.6%						
	少しそう思う	49	23.1%						
	どちらとも言えない	12	5.7%						
	あまりそう思わない	2	0.9%						
	そう思わない	1	0.5%						

平成25年度卒業生・卒業時アンケート集計結果(一部抜粋)

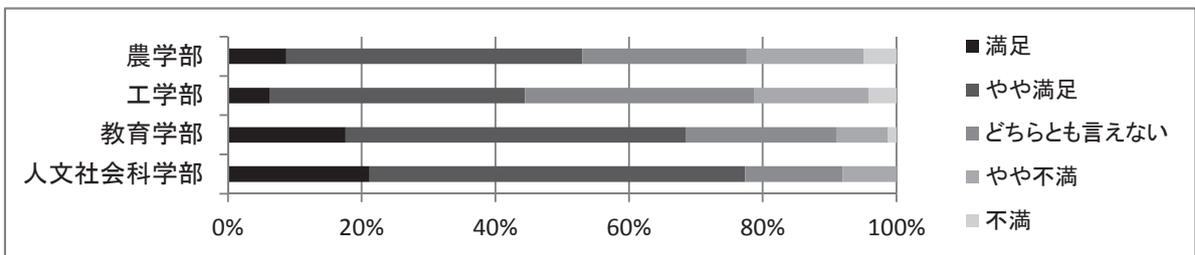
QA1:全学共通教育の必要取得単位数についてどう考えますか？

	人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部
少なすぎる	10	4	19	5
ちょうどいい	166	223	253	139
多すぎる	36	17	60	38



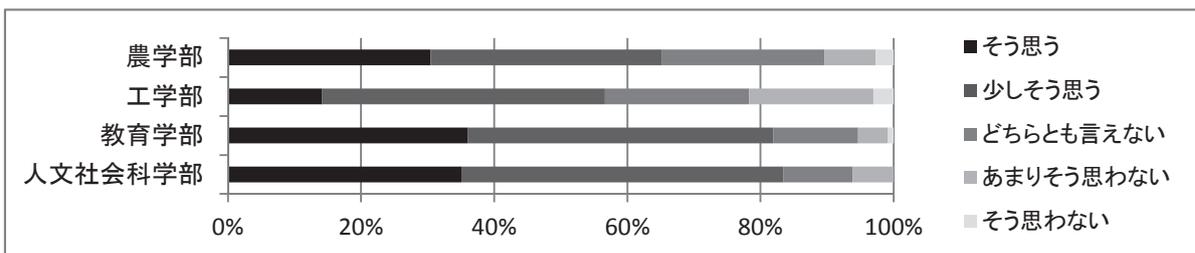
QA2:受講した全学共通教育科目の内容をトータルにみたとき、どの程度満足していますか？

	人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部
満足	45	43	21	16
やや満足	119	124	127	81
どちらとも言えない	31	55	114	45
やや不満	17	19	57	32
不満	0	3	14	9



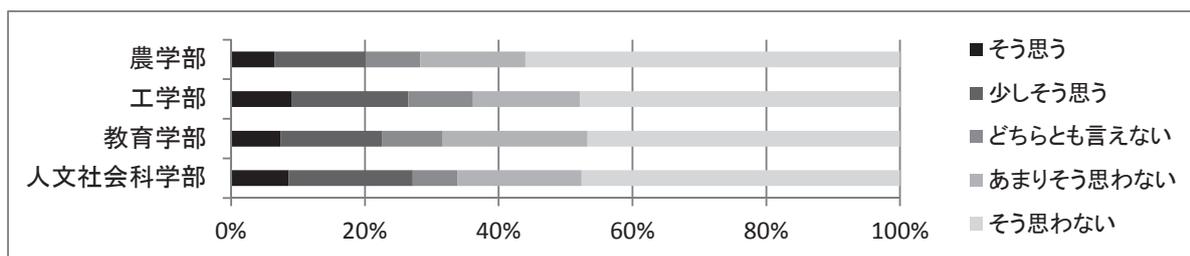
QB1:「課程・学科」では入学時に期待していた通りの教育を受けられましたか？

	人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部
そう思う	74	88	47	56
少しそう思う	102	112	141	64
どちらとも言えない	22	31	72	45
あまりそう思わない	13	11	62	14
そう思わない	0	2	10	5



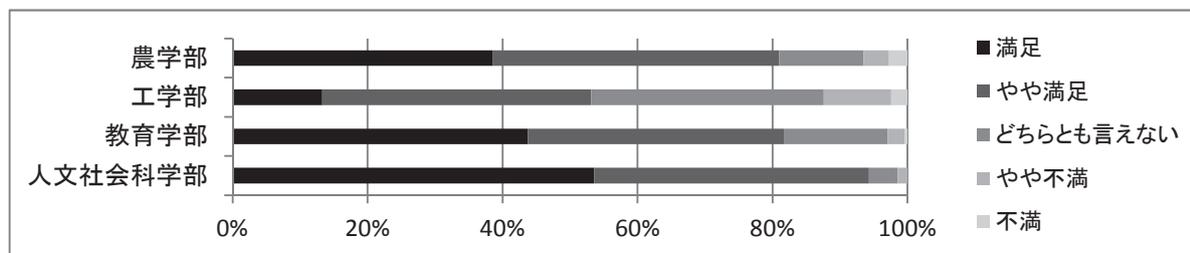
QB2:他の「課程・学科」に進路を変更したいと思ったことはありましたか？

	人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部
そう思う	18	18	30	12
少しそう思う	39	37	58	25
どちらとも言えない	14	22	32	15
あまりそう思わない	39	53	53	29
そう思わない	100	114	159	103



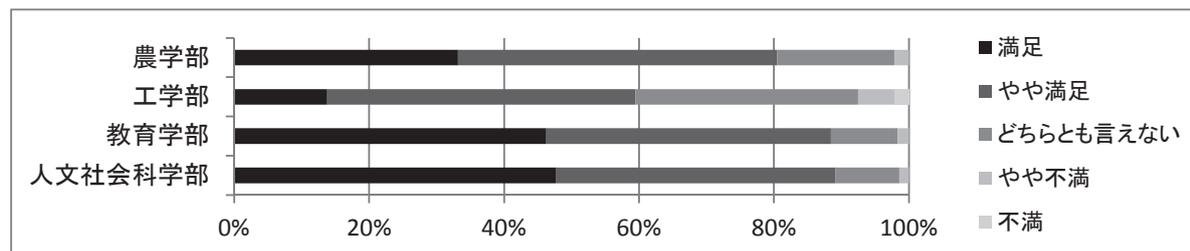
QB3:「コース・学科」での教員の教育に対する姿勢について、どの程度満足していますか？

	人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部
満足	113	105	44	71
やや満足	86	91	132	78
どちらとも言えない	9	37	114	23
やや不満	3	6	33	7
不満	0	1	8	5



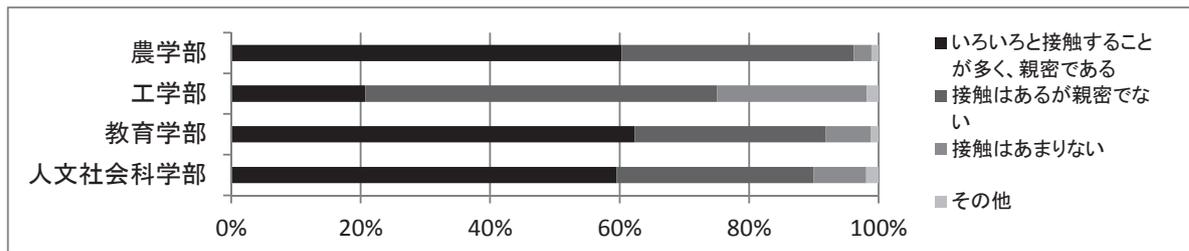
QB4:「コース・学科」の授業の成績評価について、どの程度満足していますか？

	人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部
満足	101	112	46	61
やや満足	88	102	152	87
どちらとも言えない	20	24	110	32
やや不満	3	4	18	4
不満	0	0	7	0



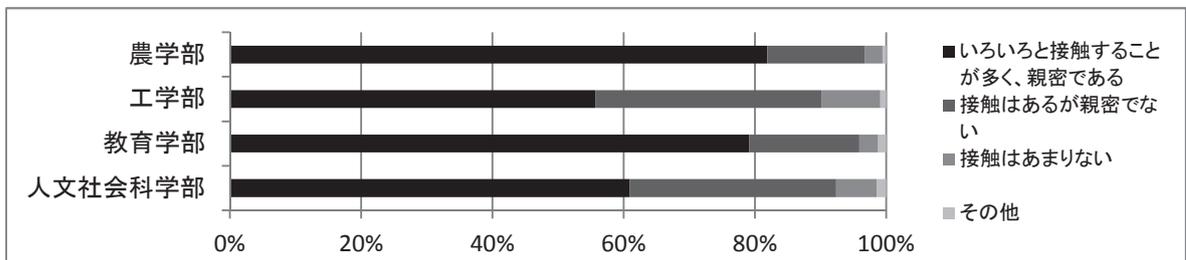
QB5:「コース・学科」の教員と学生の関係について、どのように思っていますか？

	人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部
いろいろと接触することが多く、親密である	125	152	69	111
接触はあるが親密でない	64	72	181	66
接触はあまりない	17	17	77	5
その他	4	3	6	2



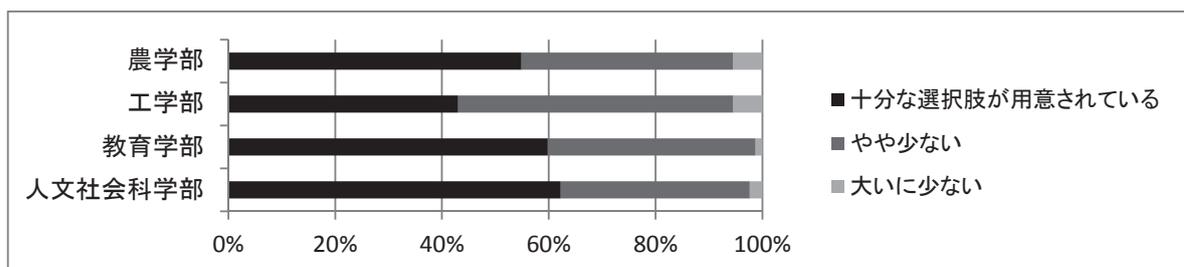
QB6:「コース・学科」の学生間の関係について、どのように思っていますか？

	人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部
いろいろと接触することが多く、親密である	128	193	186	149
接触はあるが親密でない	66	41	115	27
接触はあまりない	13	7	30	5
その他	3	3	3	1



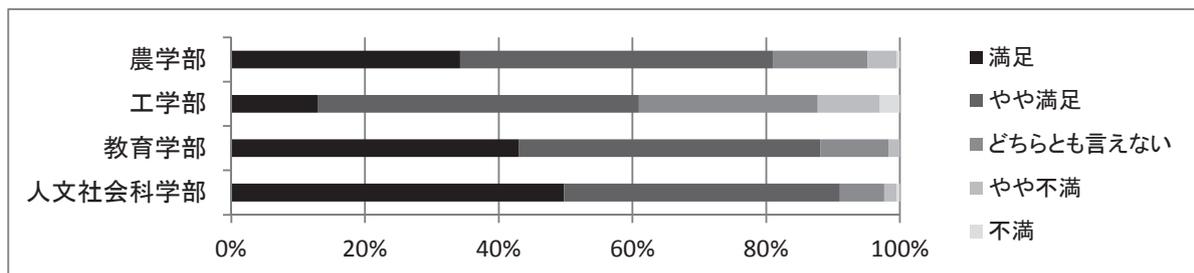
QB7:「コース・学科」で開講されている授業科目のバリエーションについてどう思いますか？

	人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部
十分な選択肢が用意されている	132	146	143	101
やや少ない	75	95	171	73
大いに少ない	5	3	18	10



QB8:「コース・学科」ので受けた教育を全体として見たとき、どの程度満足していますか？

	人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部
満足	105	105	43	63
やや満足	87	110	160	86
どちらとも言えない	14	25	89	26
やや不満	4	4	31	8
不満	1	0	10	1



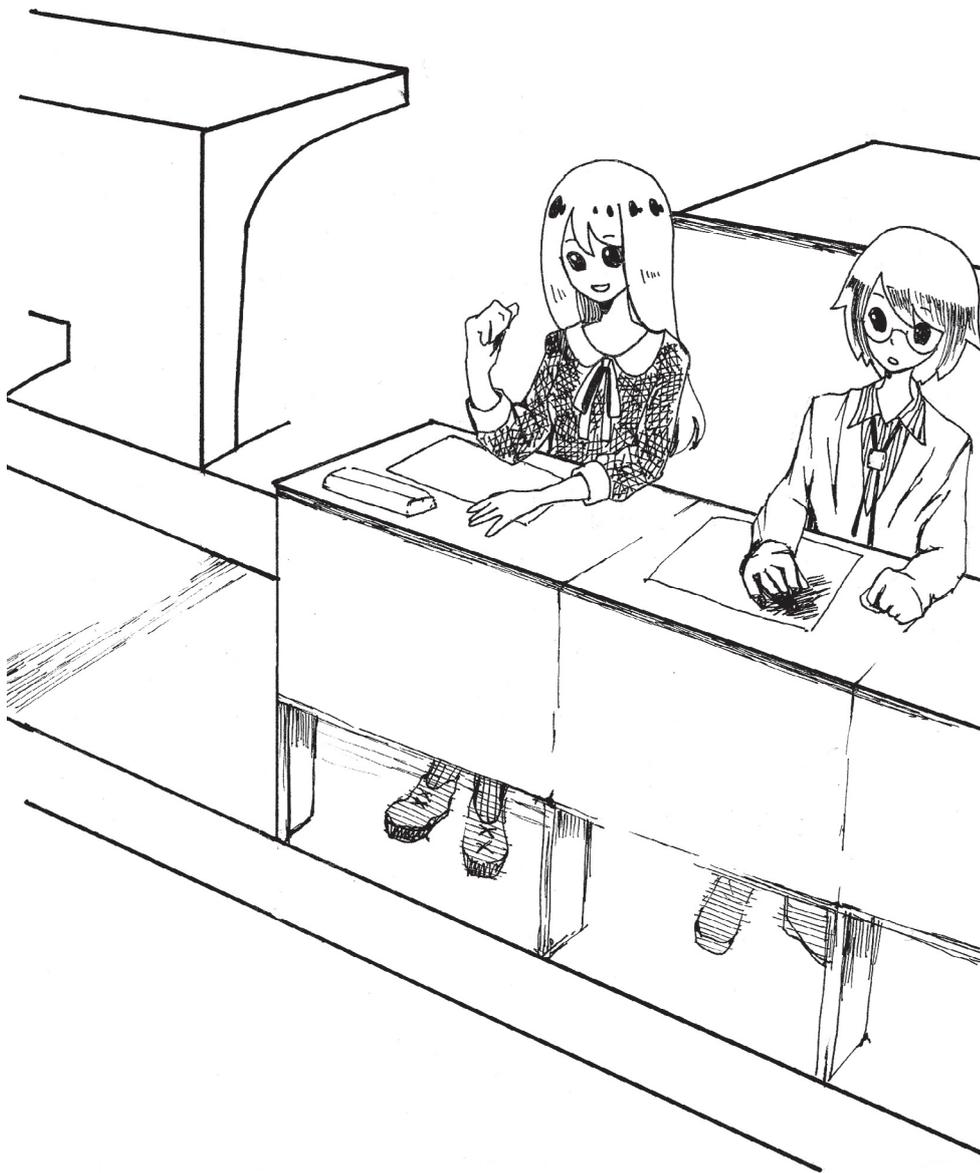
平成25年度修了生・修了時アンケート集計結果

		人文社会科学 研究科		教育学研究 科		工学研究 科		農学研 究科	
A 性別	男性	3		13		118		28	
	女性	8		12		10		14	
	合計	11	92%	25	83%	128	74%	42	81%
B 入学年度	H20	0	0%	0	0%	5	4%	0	0%
	H21	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	H22	0	0%	0	0%	4	3%	0	0%
	H23	0	0%	5	20%	7	5%	6	14%
	H24	9	82%	19	76%	104	81%	36	86%
	未記入	2	18%	1	4%	8	6%	0	0%
C 入学形態	推薦					25	20%	0	0%
	一般	9	82%	17	68%	95	74%	42	100%
	社会人	0	0%			0	0%	0	0%
	その他（外国人など）	1	9%	7	28%	2	2%	0	0%
F 卒業後の進路	民間企業	2	18%	3	12%	111	87%	29	69%
	公務員	2	18%	1	4%	4	3%	3	7%
	教員	2	18%	15	60%	0	0%	0	0%
	自営業	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	フリー専門職	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	大学院	0	0%	1	4%	5	4%	5	12%
	研究生	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	専門学校	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	その他	4	36%	1	4%	3	2%	2	5%
	未定	1	9%	4	16%	4	3%	3	7%
QB1:「専攻」では入学時に期待していた通りの教育を受けられましたか？	そう思う	9	82%	20	80%	64	50%	24	57%
	少しそう思う	2	18%	5	20%	50	39%	12	29%
	どちらとも言えない	0	0%	0	0%	9	7%	3	7%
	あまりそう思わない	0	0%	0	0%	4	3%	3	7%
	そう思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
QB2:「専攻」の教員の研究指導についてどの程度満足していますか・	満足	11	100%	21	84%	73	57%	30	71%
	やや満足	0	0%	4	16%	43	34%	7	17%
	どちらとも言えない	0	0%	0	0%	9	7%	2	5%
	やや不満	0	0%	0	0%	2	2%	3	7%
	不満	0	0%	0	0%	2	2%	0	0%
QB3:「専攻」の授業の成績評価について、どの程度満足していますか？	満足	11	100%	20	80%	61	48%	30	71%
	やや満足	0	0%	4	16%	50	39%	6	14%
	どちらとも言えない	0	0%	1	4%	16	13%	3	7%
	やや不満	0	0%	0	0%	0	0%	2	5%
	不満	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%
QB4:「専攻」の教員と学生との関係について、どのように思っていますか？	いろいろと接触することが多く、親密である	9	82%	23	92%	76	59%	26	62%
	接触はあるが親密でない	1	9%	2	8%	44	34%	11	26%
	接触はあまりない	1	9%	0	0%	7	5%	4	10%
	その他	0	0%	0	0%	1	1%	1	2%
QB5:「専攻」の学生間の関係について、どのように思っていますか？	いろいろと接触することが多く、親密である	11	100%	21	84%	74	58%	23	55%
	接触はあるが親密でない	0	0%	2	8%	33	26%	10	24%
	接触はあまりない	0	0%	1	4%	20	16%	7	17%
	その他	0	0%	1	4%	1	1%	1	2%

平成25年度修了生・修了時アンケート集計結果

		人文 社会科学 研究科		教育学 研究科		工学 研究科		農学 研究科	
QB6:「専攻」で開講されている授業科目のバリエーションについてどう思いますか？	十分な選択肢が用意されている	7	64%	20	80%	74	58%	23	55%
	やや少ない	4	36%	5	20%	47	37%	16	38%
	大いに少ない	0	0%	0	0%	7	5%	3	7%
QB7:「専攻」で受けた教育を全体としてみたとき、どの程度満足していますか？	満足	6	55%	18	72%	48	38%	18	43%
	やや満足	4	36%	6	24%	57	45%	20	48%
	どちらとも言えない	0	0%	0	0%	14	11%	4	10%
	やや不満	0	0%	0	0%	6	5%	0	0%
	不満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
QC1:「専攻」で学んだ内容はあなたの卒業後の進路にどの程度関連があると思いますか？	強く関連している	6	55%	20	80%	47	37%	19	45%
	少し関連している	3	27%	3	12%	54	42%	16	38%
	関連はない	0	0%	0	0%	17	13%	5	12%
	どちらとも言えない	2	18%	2	8%	9	7%	2	5%
QC2:「大学・研究科」の就職や進学に関する支援にはどの程度満足していますか？	満足	8	73%	7	28%	39	30%	10	24%
	やや満足	1	9%	10	40%	47	37%	11	26%
	どちらとも言えない	2	18%	7	28%	26	20%	17	40%
	やや不満	0	0%	1	4%	12	9%	2	5%
	不満	0	0%	0	0%	2	2%	2	5%
QC3:希望する進路はいつ頃決めましたか？	修士課程入学前から	5	45%	8	32%	22	17%	6	14%
	修士課程1年次	1	9%	6	24%	54	42%	20	48%
	修士課程2年次	5	45%	5	20%	48	38%	15	36%
	その他	0	0%	6	24%	3	2%	0	0%
QC4:進路の準備はいつ頃から始めましたか？	修士課程入学前から	3	27%	4	16%	12	9%	6	14%
	修士課程1年次	2	18%	6	24%	98	77%	31	74%
	修士課程2年次	5	45%	9	36%	13	10%	3	7%
	その他	1	9%	6	24%	3	2%	1	2%
QC5:決定した進路に対してどの程度満足していますか？	満足	8	73%	9	36%	72	56%	28	67%
	やや満足	1	9%	7	28%	33	26%	9	21%
	どちらとも言えない	2	18%	9	36%	17	13%	3	7%
	やや不満	0	0%	0	0%	2	2%	1	2%
	不満	0	0%	0	0%	2	2%	0	0%
QD1:どの程度学業を重視したと思いますか？	重視した	9	82%	16	64%	61	48%	22	52%
	少し重視した	2	18%	3	12%	46	36%	16	38%
	あまり重視しなかった	0	0%	1	4%	14	11%	4	10%
	重視しなかった	0	0%	1	4%	2	2%	0	0%
QD2:どの程度サークルを重視したと思いますか？	重視した	0	0%	5	20%	11	9%	1	2%
	少し重視した	1	9%	3	12%	17	13%	1	2%
	あまり重視しなかった	1	9%	3	12%	25	20%	9	21%
	重視しなかった	0	0%	1	4%	20	16%	4	10%
	サークルに入らなかった	9	82%	10	40%	50	39%	27	64%
QD3:大学事務のサービスについて、どの程度満足していますか？	満足	3	27%	8	32%	22	17%	7	17%
	やや満足	3	27%	5	20%	32	25%	15	36%
	どちらとも言えない	4	36%	5	20%	49	38%	13	31%
	やや不満	1	9%	2	8%	8	6%	4	10%
	不満	0	0%	0	0%	11	9%	3	7%
QD4:教室、研究室の施設など、学習環境について、どの程度満足していますか？	満足	5	45%	11	44%	34	27%	12	29%
	やや満足	4	36%	6	24%	52	41%	16	38%
	どちらとも言えない	1	9%	0	0%	15	12%	5	12%
	やや不満	0	0%	3	12%	14	11%	8	19%
	不満	1	9%	1	4%	8	6%	1	2%

		人文社会科学 研究科	教育学 研究科	工学 研究科	農学 研究科
QD5：図書館について、どの程度満足していますか？	満足	4 36%	12 48%	33 26%	13 31%
	やや満足	4 36%	6 24%	46 36%	15 36%
	どちらとも言えない	1 9%	2 8%	32 25%	10 24%
	やや不満	1 9%	1 4%	6 5%	3 7%
	不満	1 9%	0 0%	6 5%	1 2%
QD6：学食、生協について、どの程度満足していますか？	満足	4 36%	8 32%	36 28%	6 14%
	やや満足	3 27%	8 32%	53 41%	18 43%
	どちらとも言えない	3 27%	3 12%	10 8%	8 19%
	やや不満	1 9%	2 8%	18 14%	6 14%
	不満	0 0%	0 0%	5 4%	4 10%
QD7：大学生生活全般についてどう感じていましたか？	とても充実していた	7 64%	14 56%	49 38%	18 43%
	充実していた	4 36%	7 28%	57 45%	22 52%
	どちらとも言えない	0 0%	0 0%	14 11%	2 5%
	あまり充実していなかった	0 0%	0 0%	3 2%	0 0%
	充実していなかった	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
QH 1：「研究科」の教育には厳しさを感じましたか	感じた	5 45%			
	少し感じた	3 27%			
	どちらとも言えない	4 36%			
	あまり感じなかった	0 0%			
	感じなかった	0 0%			
QH 2：「研究科」で幅広く学べたと思いますか	そう思う	6 55%			
	少しそう思う	3 27%			
	どちらとも言えない	2 18%			
	あまりそう思わない	0 0%			
	そう思わない	0 0%			
QH 3：「研究科」で専門的な勉強・研究ができたと思いますか	そう思う	8 73%			
	少しそう思う	3 27%			
	どちらとも言えない	0 0%			
	あまりそう思わない	0 0%			
	そう思わない	0 0%			
QH 4：「研究科」で学び、総合的視野を身に付けられたと思いますか	そう思う	6 55%			
	少しそう思う	4 36%			
	どちらとも言えない	0 0%			
	あまりそう思わない	0 0%			
	そう思わない	0 0%			
QH 5：「研究科」で学び、自分の専門分野を学問全体の中で相対的に位置づけることができるようになったと思いますか	そう思う	4 36%			
	少しそう思う	5 45%			
	どちらとも言えない	2 18%			
	あまりそう思わない	0 0%			
	そう思わない	0 0%			
QH 6：人文社会科学研究科は今後も「総合的な教育・研究を行う研究科」であって欲しいと思いますか	そう思う	8 73%			
	少しそう思う	3 27%			
	どちらとも言えない	0 0%			
	あまりそう思わない	0 0%			
	そう思わない	0 0%			
QH 7：「研究科」で学んで良かったと思いますか	そう思う	11 100%			
	少しそう思う	0 0%			
	どちらとも言えない	0 0%			
	あまりそう思わない	0 0%			
	そう思わない	0 0%			





專門教育等連携部門

専門教育等連携部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	松川倫明	工学部
専任教員		
兼務教員 (各学部教務委員会選出教員)	後藤尚人	人文社会科学部
	阿久津洋巳	教育学部
	嶋田和明	工学部
	國崎貴嗣	農学部
学務課長	浅沼良庸	学務部

活動報告

部門長 松川 倫明

2013年度は初年次理系教育の質の保証という観点から以下の事項を中心に活動を行った。

1. 専門基礎教育の充実に向けた取り組み

今年度は、専門基礎教育の充実に向けて以下の取り組みを実施した。

(1) 専門基礎科目（専門科目）担当者による懇談会・意見交換会の実施

平成20年度から開催している「専門基礎科目に関する懇談会」を平成25年度も開催し、科目担当者・代表者、各学部教務関係委員等との間で、学生の修学状況・今後の対応などについて意見交換を行った。実施状況は以下のとおりである。

- ・物理学・化学 日時：平成25年11月22日（金）16：30～18：15（参加者16名）
- ・数学 日時：平成25年12月 6日（金）16：30～18：15（参加者 8名）

(2) 専門基礎科目の習熟度別クラス編成に関する調査

専門基礎科目の習熟度別クラス編成に関する調査を、平成24年度に引き続き工学部全学科を対象に実施した。調査結果の一部を下記に示した。

調査期間：前期開講分7月下旬，後期開講分1月下旬～2月上旬

対象科目：微分積分学Ⅰ，物理学（または物理学Ⅰ），化学（または化学Ⅰ）

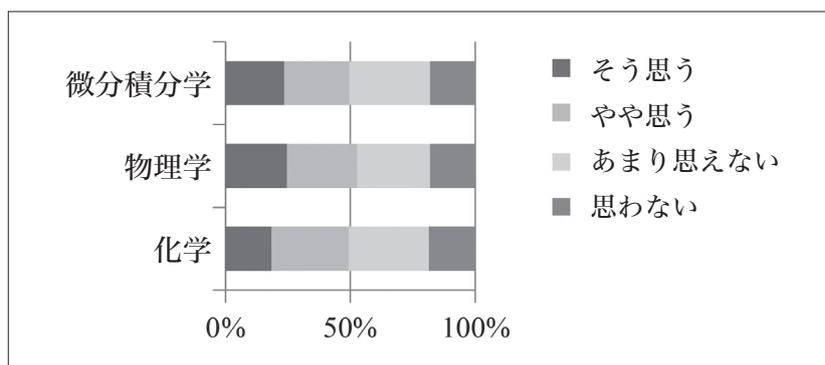


図 専門基礎科目の習熟度別クラス編成に関するアンケート集計結果

「あなたが受講している専門基礎科目でも習熟度別のクラス編成を行った方が良いと思いますか？」

(選択肢：①そう思う ②やや思う ③あまり思わない ④そう思わない)

(3) 特色ある大学の取り組みに関する調査研究および理系初年次教育の質保証に関する講演会の開催

先行している大学の取り組み担当者による理系初年次教育の質保証に関する講演会を企画し、情報収集及び意見交換を行った。平成26年度も継続して行い、専門基礎教育の充実を図る予定

である。

①調査研究

- ・平成25年9月19日：金沢工業大学・数理工教育研究センター センター長の青木克比古先生と専門基礎教育の取り組みについて意見交換を行った。
- ・平成25年9月20日：福井大学工学部 学士力GPの取り組み責任者の本田知己先生，専門基礎教育担当の古閑義之先生と専門基礎教育の取り組みについて意見交換を行った。

②講演会開催

- ・平成25年10月11日（金）：午後3：00～4：30（参加者20名）

演題：福井大学工学部の学士力教育GPの取り組みについて

－全体報告とポートフォリオ（学修記録）－

講師：福井大学工学研究科准教授 本田知己（専門：機械工学・トライボロジー）

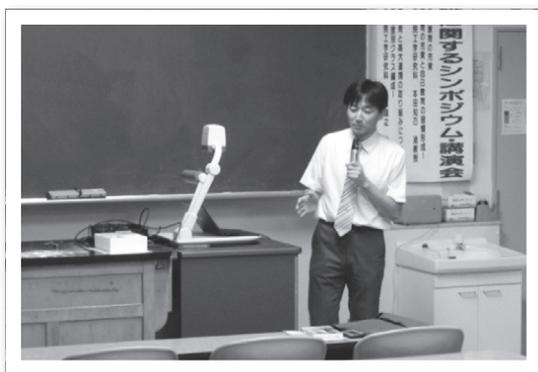
演題：福井大学工学部の専門基礎教育と高大連携の取り組みについて

－微分積分・線形代数の習熟度別クラス編成－

講師：福井大学工学研究科准教授 古閑義之（専門：数学・表現論）

- ・講演概要：

平成21年度～23年度に採択された教育GP事業である「学士力涵養の礎となる初年次教育の充実」（学士力GP）の概要について取り組み責任者の本田先生より紹介がなされた。平成15年度に学部内教育支援プログラムWGを発足させ、このWGの教育戦略の基に6つのGP事業の獲得に至ったことは注目に値する。学士力GP事業は、①専門基礎教育の充実②数理教育の高大連携の推進③ジェネリック・スキル教育の体系化④ポートフォリオによる自己教育の習慣形成の4つの柱から成り立っており、③と④のテーマについての講演が中心であった。次の講演において、学士力GP事業の①と②に対応する専門基礎教育の達成度別クラス編成の取り組みと数学科目を中心とした高大連携の取り組みについて古閑先生から紹介がなされた。達成度別クラスは、補習授業においても実施されており、きめ細かな教育的配慮がなされている。特色ある高大連携の取り組みとして、高校の先生が大学の講義を参観するという高大授業参観の実施があげられる。福井大学の就職率は、4年連続全国1位を達成しており、丁寧なキャリア教育の実施は当然ながら、教育GP事業の継続的な採択と相関があると思われる。



理系初年次教育の質保証に関する講演会（左：本田先生，右：古閑先生）

(4) 数学プレースメントテストの実施

工学部全学科および農学部共生環境課程の新入生を対象に、数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B、数学Ⅲの履修状況及び学力を把握する目的で、試験時間1時間（問題数27問）の筆記試験を実施する。実施した試験結果を工学部・農学部教務委員及び専門基礎・数学担当教員に報告し、補強教育の対象者の抽出や数学関連授業科目の履修指導に活用する。

・実施日時：平成26年4月4日（金）15時30～17時（Pre-TOEFL試験終了後に実施）

(5) 専門基礎科目の授業アンケートの実施の検討

専門基礎科目の授業アンケートの実施に向けた検討を行い、実施する場合工学部の教務委員会等と連携を図るものとした。また、初年次理数系授業科目の成績評価と卒業時の成績との関係の調査を来年度実施する。

2. 重複授業科目の連携について

学部間で重複している授業科目において、当該授業担当教員が他学部と連携することにより、当該授業を受講する学生への教育効果を損なわないと判断できる場合に、教育資源の有効利用という観点から、他学部の授業を受講することを促進する。具体的には、少人数クラス（10名未満）、必修科目またはそれに相当する基幹科目でない選択科目を対象に、授業担当教員が他学部の開講科目と連携可能と判断した場合に、学部間の連絡調整を専門教育連携部門で行う。

具体例として、教育学部開講の電磁気学と工学部マテリアル工学科開講の電磁気学Ⅰの重複科目を後者の授業を受講することにより、当該科目の単位認定を行うものである。今年度は調整の結果、教育学部開講の心理統計学と農学部開講の生物統計学の間で連携を行うことになった。

3. 基礎ゼミナールの充実に向けた検討

(1) 4学部で実施されている基礎ゼミナールの総括を行い、授業アンケートの実施結果を参考に、転換教育の目的に合った基礎ゼミナールの実施及び充実に向けた検討を行った。特に、授業アンケートの評価の低い授業について、当該学部選出の委員が調査を行い改善すべき点を検討した。また、授業アンケートを実施していない授業の担当教員から、その理由を文書で報告していただいた。

(2) 被災地学修（COC事業関連）実施による、転換教育科目、基礎ゼミナールの検討

基礎ゼミナールの中で、被災地学修を実施することによる、「教育目的」及び「修得すべき能力」の見直しについて、来年度必要に応じ検討することにした。

専門基礎科目に関する懇談会(物理学・化学)メモ

日時：平成25年11月22日(金) 16:30～18:15

場所：学生センターB棟多目的室

【出席者】

専門教育等連携部門長：松川倫明

人文社会科学部：河田裕樹，北爪英一，花見仁史，石垣剛

工学部：嶋田和明，大河原正文，成田晋也，横田政晶

農学部：伊藤芳明，松嶋卯月

大学教育総合センター：高畑義人，松林城弘，江本理恵

学務部：浅沼良庸，山崎義夫

(計16名)

議題に先立ち，専門教育等連携部門長から，懇談会開催の趣旨及び本日の議題について説明があり，議題に沿って以下のとおり意見交換を行った。

議題1 専門基礎科目の開講状況，クラスサイズ，再履修クラス，TAの活用について

- ・農学部「基礎物理学実験」は，受講人数が6名であるが，教員1名で担当しているのか。
- ・専任教員1名で担当している。その他にTAを配置している。農学部の改組により基礎物理学実験は自由選択となり，改組前は数十人が受講していたが，現在は1回目のガイダンス時には20～30名程度参加するが，最終的に履修するのは数名の状況にある。
- ・今年度，専門教育等連携部門では，授業内容に相違がなく主に少人数で開講されている授業科目について，学部間で連携が図れるか検討しているところである。
- ・学部間での連携について，工学部・農学部から物理学を開講してほしいとの要望で担当しているものであり，専門基礎科目の学部間での連携については，人文社会科学部担当者ではなく，それぞれの学部教務委員会レベルで検討すべきものである。
- ・専門基礎科目の授業を担当するのはよいが，専門基礎科目の責任主体は各学部であり，それについて，各学部教務委員会等学部レベルで認識していただきたい。例えば，実験科目についてはTAを配置していただかなければならないが，以前は，非常勤講師の枠で，選抜された学生が2年間配置されていた。TA制度の導入により，委員が行っているTAの選抜は3月になるかと思うが，特に委員が交代となった時，選抜等の引継ぎがうまくいっていないようである。毎年，TAの選抜は行うものであるから，委員間の引継ぎをきちんと行い，4月の実験スタートに支障がないようにしていただきたい。
- ・物理学の実験は，農学部でも開講しており，TAは工学部から推薦いただいている。
- ・物理学の実験のTAは前期2コマ4人分，後期1コマ2人分である。TAは経験者が多いが，以前，留学生や他大学から大学院に入学した学生が配置され，学生が大変そうであったことがあり，ある程度，経験している学生を選抜してほしい。
- ・TAの選抜については，教務委員個人としてはなく，教務委員会として対応するよう申し送りしてほしい。
- ・昨年度も意見があったが，TAの業務は，採点業務等があり負担が多いのではないか。
- ・農学部の化学実験のTAについては，教務委員から何名必要であるか照会がある。学部

と担当者との連携は図れている。TAは実験経験者を選んでくる。1, 2回, TAの業務内容を説明し, レポートを見てくれるように指導している。

- ・今年を担当していないが昨年度, 工学部を担当した。昨年は, ドクターの学生がTAとして配置され, だいぶ頼りになった。マスターの学生も予め打合せをやれば頼りになる。また, 以前TAの経験がある学生が配置されるとありがたい。初めて担当する学生は, 実験をいっしょに行うなどの指導が必要である。初めての学生でも最近レポートも見てもらい助かっている。
- ・最近, 修士1年生は, 後期になると就職活動があり, TAを務めることができないがどうしようかとの相談があり, 他の学生に変わってもらいようお願いしたことがある。今後, 就職活動の状況により, 今の体制で行うことが出来るか不安である。ここ数年このような状況がある。TAを使うときは, 就職活動に対する理解が必要である。

議題2 工学部授業アンケート調査結果について

- ・人文社会科学部教員が担当している専門基礎科目については, 予想通り, 結果は高くない。基礎科目は総じて評価が低い。最も大きな要因は, 学部としての数理リテラシーの目標が学生に伝わっていないことではないか。なぜ基礎科目を学ぶのか学部としてのメッセージをだせばよいが, なかなか難しいと思う。
- ・一般にアンケート結果は, 文系より理系が, 理系の中でも, 応用科目より基礎科目が低くなる傾向にある。数理リテラシーは無味乾燥だと学生は意識があり, 自分の専門に近い科目に興味を持つ。
- ・以前は, 高校を卒業して理系の学部に入學すれば, これくらいの知識, スキルを「標準」として持つておくべきかを, 教員・学生とも分かっていたが, 現在は, それが期待できない。学生に対して, これくらいの数理リテラシーを持っている必要があると到達目標が見えるようにしたほうが良いのではないか。
- ・物理では, 学力を高める取り組みとして, 大学教育総合センターからの予算支援を受け, 図表などを入れ, 項目毎の要点が押さえられるように副教材を作成している。
- ・能力別クラス編成を行う前に, 数理リテラシーのコンセンサスが大学で得られないと, 学生は基礎科目を学ぶイメージが出来ないのではないか。
- ・人文社会科学部が担当している化学では, 昨年の懇談会でも話したが, 専門基礎科目は全て同じ教科書を使っている。専門基礎科目は, 学部で専門基礎としてここまで覚える必要ならいいのか, 学生に対し周知することにより, 学生が授業に臨む態度が変わってくるのではないか。学生は, 専門基礎科目は, 専門に関係ないのでやりたくないと思っているが, 理系にとっての基礎部分であるから, 必要である。以前から言われているが, 専門基礎科目は「理系としての基礎」なのか「工学・農学の専門としての基礎」なのかを, しっかりと定義する必要がある。人文社会科学部の教員は「理系としての基礎」として授業を行ってきた。専門基礎科目について, 何度も議論していたとき, 専門基礎科目の責任部局は工学部・農学部であるから, 「工学の専門基礎」, 「農学の専門基礎」として教えるべきだ, との意見があったが, 人文社会科学部の教員は一環として「理系としての基礎」という考えで担当してきた。
- ・農学部で「農学のための・・・」を立ち上げたとき, 「理系としての基礎」なのか「農学の基礎」なのか, を議論した。
- ・工学部は, 学科によっては, 専門基礎科目への思い入れがあるのではないか。
- ・工学部応用化学・生命工学科の化学では, 「理系の専門基礎」として, 実施している。

- ・入試で考えると、工学部は、基本的に数学と理科1科目、センター試験を含めるとそれぞれ2科目で入学するので、高校では、それなりに学習してきているはずなのに、なぜ、今のような議論になっていくのか、それを改めるにはどのようにしていけばいいのか考えていかなければならない。
- ・2科目で入試を実施している限り、入試志願倍率が2倍の状況であれば、フィルターに掛からないということである。
- ・10年以上学生を見ているが、現在は、高校段階までにおいて、自分で学び・考えるということがあまり教育されていなくなってきたのではないかと思っている。大学では、自ら学ぶ・考えるということの両方を教えなければならないという苦しさがある。学生に教える際、自分で考えましようと言いつつ、知識の詰め込みを行わなければならない、学生も大変であると思う。正直、高専から編入学した学生との学力差をみると、大学1、2年目はなんなのかという議論は確かにある。
- ・5月に実施した「大学教育改革を考える講演会」で、文部科学省大学改革推進室長の講演のなかで、20年前は偏差値が50位までの生徒が大学に入学していたが、現在では43位の生徒でも大学に入学してくると述べていた。本学においても、同程度の学力レベルの生徒が入学しているのではないか。これを現実ととらえ、直視し、大学側も現実の応じた教育法方法を考えなければならないのではないか。
- ・本懇談会とは直接は関わりがないかと思うが、前理事の時から続いているが、業者から「出版会」を設置してはどうかと提案されている。出版会を立ち上げて、出版する本がなければ立ち行かなくなる。例えば、教科書であれば需要が見込まれると思えば、教科書を作ってみてはどうか、との意見もあり、また、今日の懇談会でも物理学の専門基礎では副教材を作成し、化学では同じ教科書を使っているとのこともあり、本学の教員で本学授業用の教科書を作成してみてもどうか、ご意見を伺いたい。
- ・教科書を作成するとなると、複数人で担当しても大変である。業者は5年で売り切るとして、採算が合うのは5,000部が必要であるといっている。現状通り、個別に作成したプリント等での対応がよいのではないか。
- ・現在では、参考書も良いものが販売されている。
- ・大学で教科書を書いていただければ、学生教育のためになるほか、著書として先生方の業績にもなるのではないか。小冊子では、業績にならない。
- ・工学部で実験等を教えるとき感じていることは、現在はいい教科書が沢山あり、わざわざ自分たちで作成しなくとも市販の教科書を使用して十分に教育ができる。他大学と同じ教科書を使うことによって、他大学との教育バランスがとれる。また、特に実験、演習では、年により担当者も内容も異なる場合があり、内容等にある程度自由度が必要であり、例えば5年間同じ内容に固定されることとなると難しさもあると面もある。それらがネックとなり、出版に踏み切れない。

議題3 工学部習熟度別クラス編成に関する調査結果について

- ・専門教育等連携部門長から、アンケート結果について、昨年度と異なる点として、物理学について、習熟度別クラス編成について肯定的な学生が増えているとの説明があった。時間の関係から、後ほど資料をご覧いただきたい旨が述べられた。

議題4 理系初年次教育の質保証に関するシンポジウム・講演会の報告について

- ・福井大学工学部では、約500名の入学者に、数学プレースメントテストを実施し、成績が下位4割について補習授業(数学ステップアップ)を受講させ学力の強化を図った。

ている。習熟度別クラスは後期も行っている。前期の習熟度別クラスで「不可」の学生を後期に、補習授業（数学ステップアップ）を受講させている。前期の微分積分学の「不可」の学生も同様に補習授業（数学ステップアップ）を受講させると、成績の逆転現象が起こる。福井大学では、大学設置基準の大綱化により、教育学部に所属していた数学の教員を工学部物理工学科に移籍させ、基礎教育体制の一元化され、責任体制があいまいな状況が解消された。本学では、平成28年度改組に向け専門基礎科目の教育体制が現状でよいのか、組織検討委員会などで検討をいただきたい。現在の状況では、専門基礎科目を維持できないのではないかと問題がある。この講演会で考えさせられた。

- ・福井大学工学部での高大連携の取り組みとして特徴的なのは、高校の教員と大学の教員がお互いの授業を参観、また、教育体制等についての意見交換がなされていることである。
- ・本学の授業公開の実施について、高校、一般の方に積極的にアナウンスをして、お互いを知ること、高校側が生徒を安心して進学させることにつなげることが、今後必要となってくるのではないかと。現在の授業公開の周知は、不徹底である。
- ・今年度後期の全学共通教育授業公開の参加者は23名であった。今後、授業公開は高校生をターゲットとして実施してもいいのではないかと考えている。現在、高校生は授業公開の対象としてのカテゴリーは低い位置にある。入試部門と連携しなければならないが、高校生を対象としてもよいと考えている。現在、他大学での入試広報では、平日に大学の通常の授業を学生と一緒に受けさせているところは人気が出ている。
- ・農学部では、金曜日に父母を対象とした教育懇談会を実施しているが、その関連で授業公開を行い、参観いただいている。本学は入試広報として、大学見学を受け入れ、入試課及び各学部教員が構内を案内しているが、通常の授業を見せることもできるのではないかと考えている。
- ・通常の大学の授業を見学させるのであれば、見学できる授業を提示して、高校生10人位をグループ分けし、見学させるのはどうか。他県では教育委員会を巻き込んで行っている事例もある。
- ・ウィンター・セッションのアンケート結果によると、本学のプログラムを受講した約15%の生徒が本学に進学しているようである。

議題5 数学プレースメントテストの実施について

- ・専門教育等連携部門では、昨年度まで行っていた専門基礎科目のアンケートでは、学力の判定にならないので、学力が分かるよう、福井大学工学部の問題を利用し、数学プレースメントテストを実施する。本学工学部に入学する学生と福井大学工学部に入学する学生の学力は同じくらいであり、問題の難易度も適当である。また、いろいろな取り組みを行う場合、有効活用できると思う。作題者からも了解が得られている。工学部を除く学部受験を呼びかけているところである。
- ・工学部では、プレースメントテストの具体的な活用方法は検討していない。ただ、異なる制度で入学してきた学生の数学の成績を確認することができるであろう。数学の学力が低い学生を抽出できるので、入門科目の受講を勧めることができる。また、学生自身が数学の学力をある程度、客観的に判定できるのではないかと考えている。すぐに、習熟度別クラス編成を行うことは考えていない。
- ・専門教育等連携部門としては、プレースメントテストを実施するが、結果の活用については、各学部委ねるものである。

- ・工学部で実施するのであれば、推薦入試以外で入学した学生を対象としたものでよいので、プレースメントテストの結果と、センター試験の国語の結果との相関をみていただきたい。相関があれば、学力は数学ではなく、国語でみればよいということができるのではないかな。

議題7 専門基礎科目担当教員の退職に伴う教員補充について

- ・今年度末で、専門基礎科目を担当している人文社会科学部の3名（数学1名、化学2名）が退職するが、後任の補充計画はあるのか。
- ・化学について現在1名公募している。来年度前期から、今年度退職する2名が担当していた科目を全て担当できるか心配している。1名採用しても、なお1名不足しているので、担当できない科目はある。現体制で今年度と同じ科目数を担当するのは無理である。平成22年、23年に数学で欠員が生じた際、非常勤講師の費用について大学教育総合センターで負担いただいたことがあり、来年度、専門基礎科目の化学担当の非常勤講師についても数学の時と同様の対応をお願いしたい。公募は、「教授又は准教授」の職位で、応募締め切りを12月17日（火）として行っている。
- ・教員が不足することによる授業担当については、各学部と連絡調整しているのか。
- ・工学部では何も聞いていない。人文社会科学部において、採用者を決定しても、相手方に割愛等を行うなどの手続きが必要であり、採用まで少なくとも1ヶ月位は見なければならぬので、平成26年4月の採用は極めて難しいと思う。来年度の前期に関しては、非常勤講師に担当いただくなどの対処をしなければならないのではないかな。
- ・この件については、懇談会で議論すべきものではない。定年退職により欠員が生じることは、何年も前から明らかであり、退職する教員が担当する科目については、退職後に担当する教員がいないことは明かである。昨年の懇談会で伝えているはずであるが、退職する教員の情報が学部についていないという事は、おかしいことである。教務委員会レベルでちゃんと議論していただきたかった。担当科目は違うが、専門基礎科目を担当している部局として、懇談会に退職する情報が出ていないことにされていることが、そもそも問題であるのではないかな。
- ・工学部、農学部には、数学、物理学及び化学の調整担当教員がそれぞれおり、人文社会科学部の担当教員と調整しているはずであるが。
- ・昨年度の段階で担当者が不足することは、伝えているはずであり、委員会で議論されていなかったことがそもそも問題ではないかな。人文社会科学部で困るのは、教員に欠員が生じた場合、教員補充を行おうとしても学部改組が絡まないと補充を行うことができない。数年前、物理学で生じた事例は、急な退職により欠員が生じたが、大学教育総合センターの協力により、組織検討委員会で教員補充が認められたが、採用まで2年掛かった。退職する教員の担当科目は退職する数年前から、準備していなければならないのではないかな。
- ・これは、専門基礎科目は工学部が責任部局だというのが、担当部局と二重構造になっており、全学マターとして考えなければならないのではないかな。
- ・定年退職するという情報は、2年前には伝えているはずである。まったく動いていないということは、人文社会科学部の努力ということではなく、専門基礎科目の担当をどうするかをそれぞれの学部で考えないとならないのではないかな。
- ・昨年度の専門教育等連携部門会議では、26年3月に定年退職することは認識していた。
- ・教員補充については、それぞれの学部でしかチャンネルがない。
- ・数学の教員が退職した際は、専門教育等連携部門から教員補充の要望を出した。チャン

ネルはあるのではないか。

- 化学担当の欠員補充は1名であり，補充されない1名分の担当についての対応が必要である。
- 非常勤講師で対応したいが。
- 専門教育等連携部門で非常勤講師手当の確保をしたい。
- 工学部から，人文社会科学部に対し，このような人を採用してくださいと言うことは筋違いであり，人文社会科学部で決めることである。水面下の情報としては，欠員になることは知っているし，公募していることも知っているが，教務委員会がどう動くかというものではないが，前期の講義に支障がでることはあきらかであり，どう対処するかはこのような場を使って協議していく必要がある。
- 何コマ分の担当者が不足するのか分かっているので，教務委員の先生と個別に話しをしている。
- これは，懇談会マターではなく，専門教育等連携部門で行うものである。不足する科目について，採用を予定する非常勤講師の名前を出していただきたい。部門会議を1月に開催する予定があるので，オブザーバーとして出席いただき，資料を出していただきたい。
- 本学は，首都圏，大都市圏にある大学ではないので，予算があれば非常勤講師を採用できるものではなく，講師の確保は大変である。どこに責任があるということではなく，退職教員の担当科目は，数年前から分かることであるから，非常勤講師の確保については，最低限考慮しておかなければならない。大学の組織としては問題である。毎年その時にならなければ動かないので，組織として時間軸をみている人がいないといけない。

専門基礎科目に関する懇談会(数学)メモ

日時：平成25年12月6日(金) 16:30～18:15

場所：学生センターA棟会議室

【出席者】

専門教育等連携部門長：松川倫明

人文社会科学部：尾臺喜孝，川崎秀二，奈良光紀

工学部：嶋田和明，小野寺英輝

農学部：濱上邦彦

学務部：山崎義夫

(計8名)

議題に先立ち、専門教育等連携部門長から、懇談会開催の趣旨について説明があり、議題に沿って以下のとおり意見交換を行った。

議題1 専門基礎科目の開講状況，クラスサイズ，再履修クラス，TAの活用について

- ・TAは、工学部の授業については昨年度から配置となった。TAが配置されるクラスと、配置されないクラスがあった。今年度からは、授業担当教員の希望によりTAを配置していただき良かった。TAには、採点について機械的にできるところを任せている。教員の負担を減らすということであれば、レポートやテストの採点を行ってもらえればと思うが、なかなか難しいと考えている。
- ・TAには、配付資料の印刷、授業で使用するパソコンの準備のほか、授業の後半に演習を行っており、今年度前期は試験的に教員と一緒に受講生を回りながら、質問を受けてもらった。質問に対しての回答は、TAも行うが難しい問題については教員が回答した。TAに質問しやすい学生もいるようであり、試みとしてよかった。
- ・TAの業務の一部に、ラーニング・サポートの業務も含まれているということか。有効的であれば、良いことだと思うが。
- ・TAは簡単な質問であれば、答えられている。答えられない質問は、TAが頻繁に教員に聞きに来ていて、有効的ではなかったかと思う。
- ・配置が可能であれば、TAは複数配置がよい。
- ・TAを有効に活用し、教育効果も上がっているのではないかと思った。

議題2 工学部授業アンケート調査結果について

- ・授業アンケートの結果をどう授業改善と結びつけているか伺いたい。
- ・授業アンケートは2年に1度実施しているが、労力の問題か。
- ・結果集計、報告書作成に多くの時間が必要で、また、負担を軽減するということもあり、2年に1度の実施となっている。ただし、2年に1度の実施でも傾向は掴める。
- ・一般的に授業アンケート結果は、文系より理系が、理系の中でも、応用科目より基礎科目が低くなる傾向にある。

議題3 工学部習熟度別クラス編成に関する調査結果について

- ・専門教育等連携部門長から、時間の関係から、後ほど資料をご覧いただきたい旨が述べられた。

議題4 理系初年次教育の質保証に関するシンポジウム・講演会の報告について

(報告)

- ・福井大学では、教育学部に所属していた専門基礎科目の担当教員が改組により、工学部物理工学科に配置換えとなり、責任体制が明確となった。数学プレースメントテストを実施し、習熟度別クラス編成を行っている。
- ・福井大学工学部では、前期は数学プレースメントテストで成績の下位4割の学生に、補習授業(数学ステップアップ)を受けさせている。後期には、前期の補習授業が「不可」学生に補習授業(数学ステップアップ)及び前期の微分積分学が「不可」の学生にも、補習授業(微分積分ステップアップ演習)を受けさせている。教育効果として、補習授業を受けた学生の成績が、ステップアップを受けない成績中位者の成績を上回るという逆転現象が起こった。
- ・福井大学工学部での高大連携の取り組みとして特徴的なのは、高校の教員と大学の教員がお互いの授業を参観、また、教育体制等についての意見交換がなされていることである。

(意見交換)

- ・本学の数学では同じ教科書を使用しているのか。
- ・微分積分学では、同じ教科書を使用している。これは、工学部からの要望を受けたものである。線形代数学は同じ教科書は使用していない。
- ・同一教員が担当している科目の試験問題は統一の問題か。
- ・試験を同時にできる場合は、統一の問題で実施している。教員が違う場合は、統一の問題では実施していない。
- ・統一の問題で実施する場合は、時間割上の関係もあり、難しいのではないか。
- ・期末試験を同じ時間で行えれば可能であると思う。今学期3クラス担当しているが、3クラスが合う試験時間を設定するのは困難である。全てのクラスを合わせるのであれば工学部で設定していただかないと難しい。
- ・統一の問題で試験を行うと、成績評価の厳格化にも繋がるのではないか。
- ・工学部電気電子・情報システム工学科の数学について、現在2クラス開講し学籍番号でクラス分けをしているが、数学プレースメントテストの結果でクラス分けを行ってみてはどうか。
- ・習熟度でのクラス分けは、学力を均一にするのか、上位クラスの学生の学力をより高めることなのか、目的次第ではないか。
- ・個人的には、専門基礎科目の責任部局は人文社会科学部にあると思っている。人文社会科学部の教員が主導権をもって、工学部のカリキュラムに連動するのであれば、習熟度別クラス編成などの取り組みを行っても良いのではないか。
- ・習熟度別クラス編成を行った結果、学力の二極分化が起こる可能性があり、それを当該学科がよしとするのか議論する必要がある。当該学科の了承がなければ、導入はできないと考える。また数学プレースメントテストの結果を習熟度別クラス編成に使用することについて、学部内、学生に了解されていなければ、テストの結果を使用すべきではないのではないか。
- ・期末試験を統一の問題で行い成績評価基準も同じであれば、習熟度別クラス編成を行っても良いのではないか。ただし、2クラスの習熟度別クラス編成を行ったとしても、教育効果が上がることはない可能性もあるが、学力の二極分化にはならないのではな

いかと考えている。

- ・人文社会科学部としては、習熟度別クラス編成を行うのであれば、まず工学部内で了承が得られていなければできないものであると考える。
- ・人文社会科学部に工学部から学科毎に担当、時間割等の確認があったが、工学部とは数学の調整担当教員と調整している。対応については、学部として統一して欲しい。
- ・工学部では、専門基礎科目の調整担当教員が、それぞれ対応しているはずであるが。

議題5 数学プレースメントテストの実施について

- ・福井大学の作題者から了解を得て、入学して来る学生の数学の学力を把握し、専門基礎科目や補強教育に利用することとして、数学プレースメントテストを実施する。対象は工学部と農学部共生環境課程の新入生のほか、他の学部、学科等にも受験を呼びかけている。
- ・農学部では、教務委員会で確認したが、共生環境課程のほか実施希望はなかった。
(共生環境課程は、課程会議で了承を得る予定)
- ・人文社会科学部では、教授会で紹介があった。テスト内容が微分積分学を中心としているのであれば参加してもどうなのかと思う。環境科学課程全体としてではなく希望者のみの受験であればと思っている。環境科学課程の入学者数は限られており、数学プレースメントテストを行ったとしても、クラス分けを行う必要性はないかと思う。
- ・数学プレースメントテストの実施について、入学者に対しての周知はどう行うのか。
- ・推薦入試合格者に対しては、入学前教育の通知の際に、一般入試合格者については、入学手続きのしおりに記載し、周知する予定である。
- ・周知の際は、実施する目的、試験内容も記載する必要がある。

議題6 金沢工業大学及び福井大学の専門基礎科目の取り組みに関する訪問調査の報告について

- ・資料に基づき、以下のとおり報告があった。
- ・2013大学ランキング、教育分野第二位
- ・学生募集は一般入試6割、推薦・AO入試4割
- ・専門基礎教育は、数理工教育研究センターが担当。教員構成は、専門から移動してきた教員と、高校を退職した校長経験者である。
- ・専門基礎では、多様な評価基準による総合評価

議題7 専門基礎科目担当教員の退職に伴う教員補充について

- ・人文社会科学部では、退職する数学の教員1名の補充予定はあるか伺いたい。
- ・少なくとも、1年は無理ではないかと考えている。他の担当についても欠員があり見通しはたたない。
- ・担当者が不足する分についての非常勤講師の採用計画はあるが、経費については平成22、23年度と同様に、大学教育総合センターから要求いただければと考えている。
- ・専門教育等連携部門会議で検討したいので、1月に部門会議を開催予定であり、陪席いただき、説明いただきたい。
- ・工学部では他の数学の非常勤講師の確保はどう進んでいるか。
- ・数学の担当者が対応している。マテリアル工学科については、曜日の移動のみお願いしている。担当できない方の後任については、候補者を紹介いただいている。現在は目途がたっている。

- 学科毎に交渉するものはないのでは。
- これについては、人文社会科学部数学担当者と工学部の数学調整担当教員との打合せで決めているものである。
- 農学部は、人文社会科学部数学担当者との調整は済んでいる。来年度は教員が不足するので、今年度は、基礎数学入門、微分積分学入門及び線形代数学入門の3コマを担当いただいていたが、来年度は基礎数学入門については、農学部教員のみで担当し、翌々年度については、改めて話しあうこととしている。基礎数学入門は2クラス同一校時に開講し、人文社会科学部教員と農学部教員が1クラスずつ担当している。来年度は、1クラスとして農学部教員が担当するものである。

2013年度専門基礎科目・習熟度別クラス編成に関する意識調査の集計結果

科目名:微分積分学Ⅰ

質問項目1: 全学共通教育の英語では、初級・中級・上級の習熟度別のクラス編成を行っています。
あなたが受講している専門基礎科目でも習熟度別クラス編成を行った方が良いと思いますか。

質問項目2: あなたが受講している専門基礎科目の習熟度別のクラス編成に対して、センター試験の成績を利用して実施することについて適当であると思いますか。
(ただし、推薦入試の入学者はセンター試験の成績を口頭試問や調査書等の成績と読み替えてください。)

学科 項目1	応化生命		マテリアル		電気情報A		電気情報B		機 械		社会環境		再履修		学 部	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
そう思う	17	23	11	28	13	28	8	16	8	16	17	26	9	30	83	23.5
やや思う	22	30	11	28	12	26	10	20	16	33	15	23	6	20	92	26.1
あまり思わない	22	30	7	18	13	28	18	37	18	37	25	38	11	37	114	32.3
そう思わない	12	16	11	28	8	17	13	27	7	14	9	14	4	13	64	18.1
回答総数	73	100	40	100	46	100	49	100	49	100	66	100	30	100	353	100.0

学科 項目2	応化生命		マテリアル		電気情報A		電気情報B		機 械		社会環境		再履修		学 部	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
そう思う	14	19	9	23	14	30	5	10	4	8	10	15	6	20	62	17.6
やや思う	19	26	7	18	11	24	16	33	18	37	23	35	11	37	105	29.7
あまり思わない	26	36	12	30	9	20	17	35	17	35	17	26	12	40	110	31.2
そう思わない	14	19	12	30	12	26	11	22	10	20	16	24	1	3	76	21.5
回答総数	73	100	40	100	46	100	49	100	49	100	66	100	30	100	353	100.0

科目名:物理学

質問項目1: 全学共通教育の英語では、初級・中級・上級の習熟度別のクラス編成を行っています。
あなたが受講している専門基礎科目でも習熟度別クラス編成を行った方が良いと思いますか。

質問項目2: あなたが受講している専門基礎科目の習熟度別のクラス編成に対して、センター試験の成績を利用して実施することについて適当であると思いますか。
(ただし、推薦入試の入学者はセンター試験の成績を口頭試問や調査書等の成績と読み替えてください。)

学科 項目1	応化生命		マテリアル		電気情報A		電気情報B		機 械		社会環境		学 部	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
そう思う	22	29	12	25	8	18	10	23	16	21	19	30	87	25
やや思う	30	39	15	31	8	18	4	9	28	37	14	22	99	28
あまり思わない	15	19	10	21	18	41	16	36	20	26	24	38	103	29
そう思わない	10	13	11	23	10	23	14	32	12	16	7	11	64	18
回答総数	77	100	48	100	44	100	44	100	76	100	64	100	353	100

学科 項目2	応化生命		マテリアル		電気情報A		電気情報B		機 械		社会環境		学 部	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
そう思う	11	14	6	13	8	18	9	20	9	12	10	16	53	15
やや思う	24	31	13	27	12	27	13	30	22	29	22	34	106	30
あまり思わない	16	21	15	31	15	34	13	30	30	39	18	28	107	30
そう思わない	26	34	14	29	9	20	9	20	15	20	14	22	87	25
回答総数	77	100	48	100	44	100	44	100	76	100	64	100	353	100

科目名:化学

質問項目1: 全学共通教育の英語では、初級・中級・上級の習熟度別のクラス編成を行っています。あなたが受講している専門基礎科目でも習熟度別クラス編成を行った方が良いと思いますか。

質問項目2: あなたが受講している専門基礎科目の習熟度別のクラス編成に対して、センター試験の成績を利用して実施することについて適当であると思いますか。
(ただし、推薦入試の入学者はセンター試験の成績を口頭試問や調査書等の成績と読み替えてください。)

項目1	応化生命		マテリアル		電気情報A		電気情報B		機 械		社会環境		学 部	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
そう思う	14	17	14	19	8	15	14	25	14	17	13	18	77	18
やや思う	28	33	22	31	17	32	11	19	24	30	28	39	130	31
あまり思わない	26	31	19	26	15	28	22	39	32	40	20	28	134	32
そう思わない	16	19	17	24	13	25	10	18	11	14	11	15	78	19
回答総数	84	100	72	100	53	100	57	100	81	100	72	100	419	100

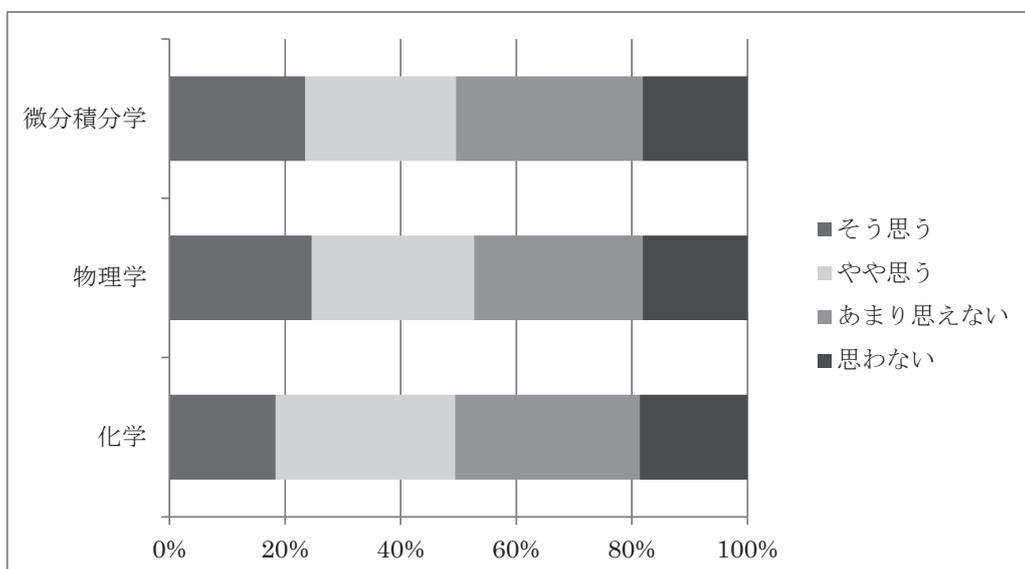
項目2	応化生命		マテリアル		電気情報A		電気情報B		機 械		社会環境		学 部	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
そう思う	15	18	12	17	12	23	10	18	10	12	9	13	68	16
やや思う	23	27	15	21	17	32	19	33	28	35	33	46	135	32
あまり思わない	28	33	20	28	11	21	16	28	29	36	13	18	117	28
そう思わない	18	21	25	35	13	25	12	21	14	17	16	23	98	23
回答総数	84	100	72	100	53	100	57	100	81	100	71	100	418	100

習熟度別クラス編成に肯定的な割合

微分積分学 ①マテリアル56%②応化生命53%③再履修50%

物理学 ①応化生命68%②機械58%③マテリアル56%

化学 ①社会環境57%②応化生命・マテリアル50%



自由記載欄のまとめ

「微分積分学Ⅰ」

応用化学・生命工学科

①を選択した学生

- ・得意と苦手があるので習熟度別クラス編成をした方がいい。
- ・未履修の教科やすごく苦手な教科は正直、授業についていけない。習熟度別にクラス分けした方が絶対によいと思う。
- ・できる人ができない人に合わせる必要はないと思う。よって賛成
- ・二次も参考にすべき
- ・とてつもなく数学が苦手なので、分けてくれた方が精神的に楽です。

②を選択した学生

- ・成績別のクラス分けは良いと思う
- ・良いと思う
- ・やった方がいいと思う
- ・入門数学を後期も続けてほしい

③を選択した学生

- ・分ける必要はあまりないと思う。
- ・推薦入試で入った人でもセンター試験の成績はある程度加味すべきだと思う。

④を選択した学生

- ・センター試験の成績を使うのは適当でないと思う。
- ・このままで良いと思います。

マテリアル工学科

①を選択した学生

- ・今回自分が受けた授業はレベルが低すぎるものであったので、もう少しレベルの高い授業を受けたいと思ったので、習熟度別クラスを採用した方が良いと思う。
- ・教員の中には、教書をノートにまる写しさせるような勉強法を押しつける人もいるので、大学側で進行の仕方を確認する意味も込めて、習熟度別に分けて、よりできる人とあまりできない人であった学習をさせるべきだと思う。また、テストの結果を公開しないのが大学の原則だと勘違いしている人もいるようなので、一度根本的なところからの見直しも必要だと思う。
- ・工学入門素晴らしい

②を選択した学生

③を選択した学生

④を選択した学生

- ・今のままでいいと思う

- ・センターによる判別はあまり正確ではないと思う
- ・特にありません

自由記載のみ回答 一人

- ・別にするのは自由で良いと思うが、それでこの授業を教えているような質のものすごい低い先生をあてなければならなくなるようならば止めたほうが良いと思う。
- ・悪い点 字が汚い、よく間違う、嘘を教える、授業が進まない、無駄が多い、説明が分かりづらい（説明しない方が自力で理解しやすい）

電気電子・情報システム工学科 A

①を選択した学生

- ・2次試験の結果に合わせて編成すべきだと思います。
- ・ムズカシすぎます。僕には無理です。
- ・個人に合った進度になるが、上と下の差が広がりやすくなると思う。

②を選択した学生

- ・よいとおもう。
- ・習熟度に応じてクラスを分けた方が良いと思う。

③を選択した学生

- ・習熟度別に分けるのは賛成だが、課題量や難易度に差をつけてしまうという形にはなるべくしないようにすべき。
- ・少人数制が良いです。
- ・クラス編成してもしなくても大して変わらないと思う。

④を選択した学生

- ・簡単なことやっても難しいことやっても1単位は1単位。それはおかしいと思う
- ・一般的にセンター試験の廃止について討論されているように、たった一度の試験で個人のすべての習熟度を測ることは難のある事だと思います。したがって小テストや中間テストなどによる結果を、時間をある程度かけて出した方が本人も納得のできるようなクラス編成になると思います。
- ・英語は上級がめんどうくさいからわざと間違いまくって初級に行く人とかいるし、テストはしないで希望でクラス分けをすればいいと思う。工学入門は受講することを強制されたとしても友達と分担して出席する人とかいるし、意味ないと思う。だから、これも希望にするべき。大学の数学で単位落とす人なんかは自己責任ってことで。

電気電子・情報システム工学科 B

①を選択した学生

- ・習熟度別に講義をした方が分かりやすいと思う
- ・学力に対するハンディキャップをなくすべき！！

- ・そもそも入門科目を設けてくれたのが大変ありがたい。そのうえクラスで分けるとなれば対応する教科の単位は落とさないとされる。基礎力がつくためぜひやってほしい

②を選択した学生

③を選択した学生

- ・独学してきた人も受けさせられることがある。必要な人だけでよい
- ・センター試験でクラス編成をするならば具体的に何割以下、何点以上と示してほしい
- ・クラス編成はしなくていいと思う
- ・センター試験の点数が低い人がうけるという制度はよいと思います。大学での授業についていくために必要だと思います。

④を選択した学生

- ・頭良い人だけをひいきするな
- ・下位クラスの方が単位がとりやすいという状況になるなら必要ない

機械システム工学科

①を選択した学生

②を選択した学生

- ・センター試験はあくまで基礎力をはかるテストなので、習熟度別クラス編成には使わない方がいいと思う。

③を選択した学生

- ・ある能力に特出した人材を作り出そうという意見には賛成できるが、習熟度別クラス編成をそれに利用しようという意見にはあまり賛同できない。

④を選択した学生

- ・別にいいと思う
- ・入ってからやった分で学力が決まると思うので、入学前はあまり関係ないと思う。

社会環境工学科

①を選択した学生

- ・推薦入試の人は入門を受けた方がよいと思った
- ・大学院入試を考えている人向けの授業をするべき
- ・院進学を考えているか、いないか
- ・口頭試問は参考にならないと思います
- ・同じ学力同士の人で学習した方が良い面がありそうだから

②を選択した学生

③を選択した学生

- ・クラス分けをするとレベルの高低によって単位取得の難易度に差が生じる→楽する→本末転倒 また、センターの数学程度では数学力は測れません

④を選択した学生

再履修

①を選択した学生

- ・ 実に面白い
- ・ 中間テストでカンニングしている人がいて、いただけないと思った
- ・ 基礎を理解していない人が、さらに上の講義を聞いても分からないと思うので、習熟度別にした方がいいと思う

②を選択した学生

③を選択した学生

- ・ 適当であると考え

④を選択した学生

- ・ むずかしいテキストを使って皆一緒に勉強させて分かるかどうか自分の責任であるから

「物理学」

応用化学・生命工学科

①を選択した学生

- ・ センター試験の結果はあてにならないと思います。マークで記入している以上偶然点が取れる取れないという不確定要素があります。この要素は除くべきだと思います。だからクラス編入は入学前の簡単なテストを实践するのがいいと思います
- ・ 英語と同じくテストをして習熟度別クラスにしたほうがいい
- ・ 少人数で行ったほうが、理解が増すため。現在の先生は分かりづらいため（説明が早い）
- ・ センター試験は実力をちゃんと反映できたものではない。大学に入ってから改めてもう一度テストとアンケートを行うべき。事実、私はセンターでは点が取れたため入門数学は行かなくてもいいとされたので、いかなかったことを後悔してる
- ・ テストして分ければいいじゃん。バカなの？死ぬの？
- ・ 一年目のテストの成績で次の年からクラス分けする
- ・ 物理を未履修だった人にとって、大学でいきなり物理学を学ぶのは難しい
- ・ 二次試験の結果もある程度参考にすべきだと考える
- ・ 十分に習熟している人がしていない人向けの説明に時間を取られるのは好ましくないため、クラス分けはあるべきだと思う
- ・ 勉強できない人は基礎から分かりやすく教えなきゃダメ。こんなのってないよ。おかし
- いよ

②を選択した学生

- ・ センターの結果は参考にならないと思う
- ・ 良いと思う

- ・工学入門科目は自分に必要だと考えるものを自由に選択できるようにしたほうがありがたい
- ・自分のレベルに合う授業を受けられるのはいいが、その指標が重要になると思う
- ・個々のレベルに合った授業もいいと思った
- ・応用化学・生命工学科には高校で物理を未履修で入学している学生がいる。そのため、入門物理学は必修のうえ、物理学のみ習熟度別にすべきだと思う
- ・工学入門は生物もやってほしい
- ・未履修であったり苦手な科目をいきなり応用から取り組むのは難しいと思う

③を選択した学生

- ・専門基礎で差ができるのはあまりいいとは思えない
- ・研究室に入るときに成績順だとフェアじゃなくなるのでそこを解消できるならクラス編成したほうがいいと思う
- ・センター試験だけでは本当に不得意か得意かはわからないと思う
- ・基本的に統一でいいと思う
- ・推薦入試で入学した人の入門科目受講について、センター試験の得点をある程度加味すべきだと思う
- ・特に行わなくていいと思う
- ・生物を高校の時履修しなかったので入門生物をやりたかったです

④を選択した学生

- ・入門があれば専門教科でのクラス分けは必要ないと思う。「得意な人の集まり」「そうでない人の集まり」といった意識の格差を生むようなことは避けるべき。受験時の点数で学べる内容に限界を設けるのはいただけない。履修している人がしていない人を助けながら同じ内容を学習できる環境になればいいと思う
- ・クラス編成したところで何も変わらない
- ・習熟度別にする必要性がわかりません
- ・高校の時の物理をやらなくても、大学での物理を提供された教材を用いて勉強すれば何も問題はないと思うので、クラス編成はいらないと思いました

マテリアル工学科

①を選択した学生

- ・センターだけでは測れないと思う
- ・習熟度別にクラス編成を行ったほうがいいと思う
- ・専門基礎科目は習熟度別クラスになることを願っています
- ・さっぱり分からずついていけない

②を選択した学生

- ・私は工学入門物理を履修している。高校の復習ができるという点、専門基礎科目の物理につながるという点では確かにいいと思った。しかしセンター試験の結果だけで判断されるのは遺憾である。センター試験の結果は各年の難易度によって異なる上、受験当時の実力が反映されるだけである。私自身、センター試験後は必死になって物理の勉強をした。当大学の筆記試験では使用しなかったものの、内容の理解は一通り出来ていたと思う。そのため、工学入門は優しすぎてつまらないと感じた。何も、工学入門やクラス編成を否定してるわけではない。ただ、センター試験だけでは正確な実力は測れない、ということを強調しておく。

③を選択した学生

- ・男女比がひどいことになるのでこれ以上クラスを分ける必要はないと思う
- ・二次の点数も考慮して欲しい
- ・誰が出来る人かわかるのはいいことだと思う

機械システム工学科

①を選択した学生

- ・センター試験が廃止？されるという話を聞いたことがありますが、それが本当ならセンターの成績を利用して実施はできなくなるのではないのでしょうか

②を選択した学生

- ・どちらでもいいと思う
- ・推薦生は物理Ⅱ・化学Ⅱを履修せず入学してくることが多い。廃止すべきだ

③を選択した学生

- ・入学してやっただけ実力になるから、入学前は関係ない
- ・現状維持
- ・特出したレベルの学生をつくりたいという意見は分かるが、成績の良い者だけを区別することで作れるとは私は考えていない
- ・もし仮に導入するとしてもセンター試験は希望者過多の際足切り要因とし、基本的には学生の希望を叶える形での導入が望ましい

④を選択した学生

- ・クラス編成をする必要はないと思う。今までの学力よりこれからの本人の努力次第だと思う。習熟度別にすると進度に大きな差が出てしまうと思う
- ・英語の上級クラスが突出して課題や宿題が多く、本業である理系科目の勉強を妨げる勢いがある。上級クラスに不利に働いているクラス編成はいいものとは思えない。どのクラスも負担が平等になるようにして欲しい

社会環境工学科

①を選択した学生

- ・上記の初めの問いが、履修済みか未履修しかないのがおかしい。履修はしたが最後までやっていないので、どちらとも言えない。人によって得意、不得意があると思うので必要であると思う。
- ・大学院や編入などを考えている人は高いレベルでやるべき
- ・個人の実力とかけ離れたレベルの勉強（高くても低くても）はあまり意味がないと思う
- ・物理未履修者が履修者と同じ授業を受けるのは厳しい
- ・推薦の口頭試問は判断材料にならないと思います。
- ・微積に関しては前期の前半の授業を受ける必要がなかったので、クラス分けてほしい
- ・同じレベルの人同士の方がやりやすい部分があると思う。

②を選択した学生

- ・口頭試問を使わないでほしい
- ・まあ良いと思う

③を選択した学生

④を選択した学生

「化学」

応用化学・生命工学科

①を選択した学生

- ・二次試験も参考にすべき
- ・学生のレベルに合わせて指導するのはいいことだと思う
- ・推薦で入学したからといってすべての入門を受けさせるのはおかしい
- ・習熟度が違うのに同じ内容を学習するのはおかしい
- ・クラスを分ければ習熟度が高い人がどんどん先に進めていいと思う

②を選択した学生

- ・工学入門数学はみんな受けるべき
- ・後期も行うべき
- ・推薦組が全員入門を受けるのはおかしいと思う
- ・いいと思う
- ・研究室を選ぶときに何かしらの配慮があつて平等に選べるならやってもいい
- ・センターだけで判断するのはおかしい
- ・得意不得意があるのでやったほうがいい

③を選択した学生

- ・センターでは実力は測れないし、クラス分けする必要性を感じない
- ・必要ない
- ・推薦の人でもセンターの成績は加味されるべきだ
- ・このままでいい

④を選択した学生

- ・センター試験の成績を用いるのはよくない

マテリアル工学科

①を選択した学生

- ・近いレベルの人達と一緒に講義を受けることは意識と効率の上昇につながると思う。できれば一クラスの人数はもっと少ないほうが嬉しい
- ・教室が狭いから分けて欲しい
- ・入学後に新たにテストを行ってからクラス編成するべき
- ・先生をもっとまともな先生にして欲しい。人社ではなく工学部の先生のほうがもっと幅広く工学関係の物理や化学について楽しさを広められるのではないかな
- ・人社の先生ではなく工学部の先生に授業して欲しい
- ・涼しい教室にして欲しい

②を選択した学生

- ・英語と同じでいいと思う
- ・苦手な人に合わせた授業では先に進みたい人に支障が出る。センター試験の成績はあくまでその当時の成績であり、センター後に必死になって学習した人もいる。センター試験の結果だけで判断するのは極めて限定的ではないかと思う。だがクラス分けをするのにも場所や教員がさらに必要になり、また各クラスでも達成すべき目標は同じでなくてはならないため、下のクラスの負担は大きいのではないかと思う。
- ・二次の点数も考慮して欲しい
- ・「入門～」という形で受講数を増やすよりは習熟度別にクラス編成をしたほうがいい
- ・習熟度で分けるから自分にあった進度で授業を受けることができていると思うのですが、成績をつけるときクラスごとにその中で順位をつけると少し不公平な感じになると思います。なので、クラス編成するなら専門基礎科目は成績の基準は一定にして欲しいです。例えばテストで決めるなら内容を同じにするとか。学年上がった時に研究室選びにひびくのでそこらへんを考慮してお願いします。

③を選択した学生

- ・専門基礎科目はクラス分けする必要はないと思う。男女比がさらに大変なことになってしまいます
- ・英語初級の中でも難易度に差があったように感じます
- ・専門基礎科目は学科別に行うので習熟度別で編成すると同じ学科内でさが生まれてしまうのでやらないほうがいいと思う
- ・このままでいいと思う

- ・専門基礎科目を習熟度別クラスに編成すると、英語などに比べて専門基礎科目はそれを習うことで将来につなげるのであって、それを習熟度別に分けると上下の差が大きくなり、上の方がゆうりになってしまうため、あまりよくないと思う。
- ・習熟度別にするのはどちらでもよいが、先生の改善の方を望む。人によっては差が大きい。
- ・工学入門数学はとても役に立った
- ・Pre-TOEFL でまぐれ当たりした優等生扱いされるのは辛い

④を選択した学生

- ・センター試験の結果だけでなく二次試験の結果も考慮して入門の受講者を抽出してほしい
- ・みんな一緒がいい
- ・友達ができなかつたり男女比が異常だつたりするから
- ・得意な人と苦手な人が教えあうことでより理解が深まると思うのでクラス分けは適当ではないと思います
- ・そのクラス編成は学生に対して心理的な問題が出るかもしれない。だから難しいテストを使ってもみんな一緒に勉強して、もし成績が悪くてもそれは自分の責任。学力関係ない。
- ・専門科目は他の授業よりもおろそかにしてはいけない授業だと思います。その授業の習熟度によってクラス分けすることは、例えば「下級」に入れられて自身を喪失してしまう人が現れることにつながるのではないのでしょうか。

機械システム工学科

①を選択した学生

- ・そんなに良くないと思う
- ・大学入試の点数でやってほしい

②を選択した学生

- ・センター試験の結果でクラス編成することについては、試験で自分の実力が発揮できず、本当は能力があるのにレベルの低いクラスに振り分けられる人が出てくると思う
- ・学力に大きな差があるならクラスを分けるのは適切だと思う
- ・化学の時、教室の中が、人が多くて辛いです

③を選択した学生

- ・もし導入するなら。成績は参考程度にとどめ、学生の希望が反映されるような編成であればいいと思う(成績によって選択肢が少なくなるような)
- ・英語のように分けるとそれぞれの進路が変化してしまうし、習熟度がそれで変化してしまうと思う
- ・特に必要ない

- ・今のままでいい
- ・実際入学してどれくらい勉強するかで差が出るだけだと思うので、入学前どうこうというのは違うと思う

④を選択した学生

- ・そもそも推薦入試を廃止すべき
- ・より高い習熟度のクラスにはそれなりのメリットを用意すべき。英語のように上級クラスばかり課題や宿題が多くなっては意味がない。いくら宿題をこなしても評価が高くなるわけでもないのはおかしい。初級では映画を見たりお菓子をもらったりと子供じみたふざけた講義内容であるのに対して、上級では常にネイティブの先生方との会話を必要とするものである。それだけで十分だ。未熟な初級・中級者に宿題を課すべき。上級クラスの英語の宿題は英文法などについては身につけているのが当たり前であり、シビアな内容についての論述となっている。このままでは上級者の負担増で下級者が楽をするだけである。

その他

- ・後期もやるべき

社会環境工学科

①を選択した学生

- ・推薦もセンターでみるべき
- ・学校によっては数Ⅲ・Cや化学Ⅱ、物理Ⅱの科目が途中の場合もありえるからやったほうがいい
- ・レベルの合わない勉強はできないからしないのと一緒だと思う
- ・大学院向けのクラスもほしい
- ・本人に希望クラスを選ばせればいい
- ・物理・化学片方を重点的にやっている人もいるのでやったほうがいい
- ・習熟度別の方が自分の実力に合わせて学習できると思う
- ・教授も受講者も同じくらいの理解度の人たちの方がいいと思う

②を選択した学生

- ・分けたほうがいい
- ・レベルに差があるのでいいと思う
- ・化学はすべき
- ・あまりにも授業についていけない場合、それは時間の浪費につながるので、身の丈、学びの丈に合った授業があってもいいのではないか
- ・時間割を合わせるのが難しそう
- ・口頭試問は成績の基準にならないと思う
- ・入門はいいと思う

③を選択した学生

- ・英語総合のようにクラスを分けるのはいいと思う。専門科目だと分からにことも基礎科目より増えると思うから
- ・センター試験ではダメ。入門をもっと有効活用すべき
- ・理系科目は学科によって詳しくやらなければならないところが違うので別に習熟度別にやらなくていいと思う
- ・現状維持
- ・学校によって違いはあると思うが、やっていることはあまり変わらない

④を選択した学生

- ・センターが全てではない
- ・あまり意味ない
- ・分けなくていい
- ・授業で地獄を見ればいい

電気電子・情報システム工学科 物理学A

①を選択した学生

- ・学力が足りないものには勉強させるべき
- ・もっと厳しくてもいい

②を選択した学生

③を選択した学生

- ・センターだけでなく二次試験の成績も見ろべき
- ・明確に「センター試験、〇〇点以下は～」と公表すべき。よくわからないまま授業を受けるのはかなり厳しい。
- ・新しく習う教科なのに、それとは関係ない（まったくとは言わないけど）教科の成績を参考にするのはどうかと思う。どうせやるなら科目の最初の導入は一緒にやって、小テストなどで理解度を見てその後編成していくほうがその専門科目に対する習熟度をより正しく見られると思う。ただ、物理とか化学みたいな高校から引き続きやる教科はセンター試験の成績利用でも大丈夫だと思う。高校で履修していなくても、センター試験や一般入試を受けて入学したものにはそちらの成績で工学入門などの受講生を決めていただきたい。

④を選択した学生

- ・しなくていい。
- ・高校と大学とでは学ぶ内容がほとんど異なるから、高校基準の採点でクラス分けしても無駄に近いと思う。

電気電子・情報システム工学科 物理学B

①を選択した学生

- ・やはり個人個人の能力には差異がある。
- ・クラス編成はしたほうが良いと思う。
- ・助かった。
- ・全ての教科で行うべき
- ・必要になっていると思う

②を選択した学生

- ・必要だと思うが不満も大きいと思う

③を選択した学生

④を選択した学生

- ・入試で分けるのは良いと思う。

電気電子・情報システム工学科 化学A

①を選択した学生

- ・とても助かっています。
- ・良いと思う。
- ・理科学目については行った方が良い。今すぐにでも。
- ・習熟度別という考え方は生徒として有り難いが実力とは異なり上級になってしまう場合もあるのでは。
- ・数学の教師を人社などの教授にせず、工学部の教師にすべきである。

②を選択した学生

- ・良い考えだと思います。
- ・物理Ⅱと化学Ⅱの両方を履修していても、受験時に片方しか使わないので、どちらかを忘れていた場合があるのでは？
- ・やった方がいいんじゃないかとは思いますが、できない人にいきなり難しいものを教えようとしてもきびしいと思うので
- ・推薦で入ってセンターを手抜いているのはどうかと思うので、どうにかしてほしいです。・分けた方が学ぶ側も教える側も楽だと思う。
- ・自分の場合、高校時代数学や物理、化学は深い内容まで学習していたが、情報の授業が学校のカリキュラム上なかったため、そういったところも多少配慮があれば良いと思った
- ・工学入門系は自己申請で良いと思われる。

③を選択した学生

- ・たとえ高校で専門基礎を習っていたとしても大学でまた教えなおし、次につながられる方が良いと思う
- ・入試でクラス編成するのは良いと思うが、別の試験だとわざと低い点数にして楽する人が出てくるから良いと思わない。

- ・クラス編成をしてもあまり意味はないと思う
- ・外国語などの専門外の教科は理解度に差が出るが、専門はあまり差が出ないと思う
- ・自分は現在困ったりしていないのであまり必要性を感じない

④を選択した学生

- ・これから頑張ろうというやる気を損ねる可能性がある。
- ・いらなと思います

電気電子・情報システム工学科 化学B

①を選択した学生

- ・今後も続けてください。すごくためになりました
- ・それぞれの能力別にクラス編成を行った方が生徒のモチベーションも上がると思います
- ・現状で満足している

②を選択した学生

- ・初級と上級の『こなすべき仕事量』があまりにも違うため考慮してほしい。初級の秀が必ずしも上級の可より優れているとは限らない。
- ・高校によって進度が違うため、必要だと思うが、結局講義の課程で理解するため、必要ないです

③を選択した学生

- ・クラス分けはしてもよいと思うが、英語のように3つに分ける必要はないと思う
- ・単位取得の難しさが違いすぎないように検討してほしい
- ・クラス編成をするなら、具体的な点数を明確にして公表すべき。理由も分からず習熟度だけでクラス分けされても困惑するだけ。
- ・センター試験の成績だけで習熟度別クラス編成を決めるのは反対です

④を選択した学生

- ・英語はテストで手を抜く人も多いので、センター英語の点数で分けた方がよいと思う。
- ・基礎科目を分ける必要はない
- ・しなくてもよい。できなければ、できるようにすればいいだけ
- ・クラス分けをしたって意欲の無いひとは勉強しないと思う。また、そういった人はそういった人向けにレベルを下げれば上の人と差が出るため不平等だと思う。

平成25年度基礎ゼミナール総括

学部	人文社会科学学部	教育学部	工学部	農学部
実施単位	学部(課程単位ではない)	課程・コース	学科	課程・学科
担当体制(教員1人当たり)	3~4年に1回	輪番、固定、その併用	学科担任	課程・学科担任
クラス数・サイズ	19クラス:6名~15名	22クラス:4名~15名	5学科・40名~133名	5課程・学科32名~62名
学科、課程・コース・サブコース別データ	各課程の教員数に比例して、担当者を各課程に配分	学校教育コース(14名)、各サブ事情反映、毎年/隔年/隔年/生一度(etc.)、生涯(2名、隔年)、芸文(書道:1名、毎年、美術:全員オムニバス、音楽:5年に1回)	担当教員総数:応化生命(14名) マテ(2年1回、9名)、電気電子・情報(電気電子:18名、情報:14名)、機械(17名)、社会環境(23名)	農学生命担任10年1回、全教員毎年分担任、応用生化学担任11年1回、全教員毎年分担任、共生環境担任8年1回、全教員毎年分担任、動物科学担任8年1回、共同獣医担任25年1回)
実施内容	【少人数によるゼミナール形式】 *基礎ゼミナールに先立ち、新入生全員による合宿で、大学生活、大学講義など大学での「学び」について研修の実施 ①「04」レポートの取り方 ②「12」文献調査 ③「07」日本語表現指導 ④「11」レジュメ・資料作成 ⑤「02」アニュアルワーク ⑥「01」実験 ⑦「01」実験レポート作成 ⑧「13」レポート作成 ⑨「09」発表テーマの立て方 ⑩「13」プレゼンテーション・口頭発表 ⑪「05」ディベート ⑫「22」ディスカッション ⑬「06」その他(論点整理、自己他者理解、ピアレビュー、シンキングツール、グループワーク、課題論集作成、大学での学びなど)	①講義&ゼミナール ②文献調査&文献講読 ③ディスカッション ④レポート作成 ⑤口頭発表	①レジュメ、プレゼン(5) ②研究室紹介・研究室見学(4) ③合宿研修(3) ④課題図書講読(3) ⑤講演会・交流会(3) ⑥図書館等学内施設見学と情報検索実習(3) ⑦英語ICT実習(1) ⑧文章の書き方指導(1) ⑨工場見学(1)	①レポート、プレゼン(5) ②合宿研修(5) ③学内施設見学(4) ④講義・実習(3) ⑤研究室紹介(2)
評価できる点	①少人数編成により、受講生、教員とのコミュニケーションがとり易い。 ②受講生が希望するクラスに配属されている。 ③多様なアカデミックスキルが教授されている。	①少人数編成により、受講生、教員とのコミュニケーションがとり易い。 ②各担当教員が15回の授業の全てを担当する。 ③開講テーマの多様さ ④プレゼンテーション技能の習得	①合宿研修 ②プレゼンテーション ③語学教育の必要性のアラウンス、国際研修への参加の呼びかけ等 ④研究室見学 ⑤専門内容に基づいた課題研究 ⑥少人数教育 ⑦研究室紹介の比重 ⑧教員の負担がやや多い(電気電子コースと情報コース) ⑨課題量が多すぎる(応化生命、学生からの指摘) ⑩特に応化生命において学生からの全体的評価が低い	①アカデミックスキルの演習、合宿研修、学内施設見学、環境DVD視聴など多様な内容で実施している。 ②課程の実状を踏まえた内容であり、学生からの満足度は高い。
改善すべき点	①今後は、被災地研修をどのように授業に組み込むかが課題 ②教員の負担が大きい。 ③効果の検証が必要 ④学習内容にばらつきが大きい。	①講義前周知徹底 ②教員の負担が大きい。 ③効果の検証が必要 ④学習内容にばらつきが大きい。	①研究室紹介の比重 ②教員の負担がやや多い(電気電子コースと情報コース) ③課題量が多すぎる(応化生命、学生からの指摘) ④特に応化生命において学生からの全体的評価が低い	①多くの課程で、全学共通教育へのイントロダクションに関する内容が盛り込まれていない。 ②他学部や他課程との比較に基づく継続的改善の仕組みが確立されていない。
授業評価・H25前期 最高値2 成積評価比率 評価の比率の高い順 GPA値	平均値_最高値_最低値(5段階に換算) 秀:優:良 ①秀111(2)優90③良18 3.35	平均値_最高値_最低値(5段階に換算) 1.60,2.00,-0.82(4.60,5.00,2.18)	平均値_最高値_最低値(5段階に換算) 1.32,1.70,0.51(4.32,4.70,3.51)	平均値_最高値_最低値(5段階に換算) 1.57,1.78,1.33(4.57,4.78,4.33)
		①優146②秀91③良21 3.27	①優292②秀78③良41 2.98	①優176②秀41③良10 3.13

岩手大学と放送大学との教育協力型単位互換指定科目：平成25年度分

(2013. 4. 1版)

科目分類 科目名 (岩手大学)	科目分類 科目名 (放送大学)	メディア	受講者数	学期	受講曜日 時間	活動目的及び理由等	補助教員等
共通基礎：外国語	共通基礎：外国語	TV/R	60	前・後期	自由視聴	時間割上の制約の解消（平成19年度以降入学生への配慮）	なし
教養：人間と自然 「生命のしくみ」	共通：一般；自然系 「人体の構造と機能（12）」	TV	10	前期	水9・10	生命科学分野科目の充実	岩手大学 TA
教養：高年次課題 「高年次課題科目特別講義Ⅱ （問題解決の進め方）」	基礎科目 「問題解決の進め方（12）」	TV	10	後期	木3・4	ESD関連科目の充実	岩手大学 江本 理恵
専門：人社：国際文化 「文化記号論Ⅱ」	大学院科目：文化情報学プログラ ム 「21世紀メディア論（11）」	TV	10	後期	火3・4	人文社会科学部での文化論関連 科目の充実	岩手大学 後藤 尚人



學生支援部門

学生支援部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	栗林 徹	教育学部
兼務教員 (各学部学生委員会選出教員)	松岡 勝実	人文社会科学部
	ホール ジェームズ	教育学部
	吉原 信人	工学部
	吉川 信幸	農学部
学部選出教員	松林 城弘	人文社会科学部
	菊地 悟	教育学部
	海田 輝之	工学部
	宇塚 雄次	農学部
学生支援課長	今野 和男	学務部

東日本大震災被災学生への経済支援を実施

東日本大震災で被災した学生の皆さんの修学支援として、検定料の免除、入学料・授業料の減免、寄宿料の免除、岩手大学独自の奨学金の給付などの経済支援を行いました。

入学料免除者は60名、授業料免除者は272名、寄宿料免除者は10名となりました。

ボランティア促進イベントの開催

継続的なボランティア活動を支援するために、ボランティア促進イベントを次のとおり開催しました。合わせて、復興支援ボランティア活動の単位認定について説明を行いました。

イベントでは、講話と合わせてボランティア活動を行っている各サークル等の活動状況が報告され、各団体の情報が共有される良い機会となりました。

日時：平成25年5月14日（火）14:30～16:00

場所：学生センターA棟2階 会議室

内容：

- 1 講話「岩手大学における学生ボランティア活動のこれまで・今・これから」

講師：岩手大学教育学部教授 名古屋 恒彦

- 2 岩手大学内ボランティア団体の活動紹介

ANEW, もりもり☆岩手, ボランティアサークルひよこ, 赤十字奉仕団

駐輪指導の実施

構内環境整備と交通ルールの周知を図るために、平成25年度も春と秋の2回駐輪指導を行いました。学生支援部門の委員と学生支援課職員の他、学部の学生委員、財務委員にも協力いただき、学生議会運営委員会委員と協働で指導を行い、マナーの向上に努めました。また、今回は初めて自転車登録を行い、盗難防止や駐輪指導に効果が上がることを期待しています。

第56回盛岡・つなぎ間ロードレース大会の実施

第56回盛岡・つなぎ間ロードレース大会（太田橋脇～ホテル紫苑までの約12km）を、5月25日（土）に開催しました。団体の部では教育学部が、サークル対抗の部では陸上競技部が優勝し、それぞれ連覇を果たしました。

参加者：学生188名、教職員10名



Let'sびぎんプロジェクトの実施

Let'sびぎんプロジェクトは、学生が共同で行う独創的なプロジェクトを支援するもので、1件あたり50万円を上限に経費を支援しています。

平成25年度は、審査の結果、8件を採択し支援を行いました。

発達障がい学生の修学支援に関する学習会の実施

教職員を対象に「発達障がいの正しい理解と対応について」を学ぶ機会として、外部の講師を招き、同じ内容で3回学習会を行いました。

学習会には、いわて高等教育コンソーシアムを構成する大学からも多くの参加があり、ますます障がいを持つ学生への修学支援の必要性が高まっていることを実感しました。

学習テーマ：発達障がいの理解と対応

1回目 平成25年 7月31日（水）

2回目 平成25年 8月 2日（金）

3回目 平成25年 8月 7日（水）

講師：坂下史絵 氏

（岩手産業保健推進センター 臨床心理士）

場所：学生センターB棟1階 多目的室



保健管理センター教員と担任教員との連絡会

学生指導に関する担任教員の留意点や授業に出てこない学生への対応、特別な支援を必要とする学生への対応等について、保健管理センター教員と担任教員とで情報交換を行いました。

日時：平成25年9月13日（金）13:00～15:00

場所：学生センターA棟G29講義室

学生指導担当教職員研修会・課外活動サークルリーダーシップセミナーの実施

平成25年12月21日（土）に学生センターA棟を会場として、学生及び教職員がそれぞれのプログラムに参加し実施しました。

また、プログラム終了後には教職員と学生とが一堂に会して交流会を開催しました。

参加者：教職員23名 学生73名 合計96名

○課外活動サークルリーダーシップセミナーの内容：

①ディスカッション

「これからのサークル活動に向けて ～リーダーシップとサークルの運営～」

学友会中央委員会

②講演1（教職員と一緒に受講）

「サークル活動における会計処理」

岩手大学監事 堤 研一 氏

③講演2

「サークルにおけるリーダーシップとマネジメント」

人文社会科学部 浅沼 道成 氏



○学生指導担当教職員研修会の内容：

②講演1（学生と一緒に受講）

④講演3

「Learning Commons —学修を支える共通空間としての役割—」

学修支援室コーディネーター 佐藤 瀏 氏

学長と学生との懇談会の開催

○第1回：平成25年12月21日（土）

サークルリーダーシップセミナーでの交流会で、サークル代表者と活発な意見交換を行いました。

○第2回：平成26年 3月 3日（月）

各学部卒業年次及び各研究科修了年次の代表学生22名の参加を得て、テーマを「岩手大学を選択した理由、岩手大学に入学して良かったこと、改善して欲しいこと」として開催しました。

上田地域活動推進会和学生との懇談会

平成26年1月15日（水）に、昨年度に引き続き上田地域活動推進会の皆さまと学生代表（学生4団体、環境マネジメント、学生寮、等）とが意見交換を行いました。

推進会からは、ゴミ出しルールの厳守や清掃・除雪などのボランティア協力の要望が出されました。また、Let'sびぎんプロジェクトで発行した広報誌「うえだっしょ」への期待が述べられました。双方にとって有意義な懇談会となりました。



寮生と学生指導担当教職員との懇談会

平成26年2月20日（木）に北謳・紅梅寮，2月27日（木）に自啓・同袍寮の代表者と学生指導担当教職員とが寮運営の在り方等について意見交換を行い，双方の思いが共有できた有意義な機会となりました。

また，快適な寮生活の実現に向けて大学側と寮生側とも目指すところは同じであり，懇談会の継続的開催の必要性を確認しました。

学生表彰の実施

学生または学生団体（学生が任意に組織したサークル等のグループを含む）が研究活動，課外活動，社会活動等において，特に顕著な業績を挙げた場合にその学生及び学生団体を学長が表彰しております。

平成25年度の学生表彰は3月19日（水）に行われ，学長賞は個人10名，団体1団体，奨励賞は個人29名，団体2団体に授与しました。



平成25年度 岩手大学学生表彰者名簿

○学長賞(個人)

番号	氏名	所属等	推薦者	表彰理由
1	小原 正樹	平成21年度入学 工学研究科博士後期課程 電気電子・情報システム工学専攻	工学部 電気電子・情報システム工学科 准教授 吉森 久	①国際会議「光情報伝達分野における新システム:The International Conference on Photonics Solutions:ICPS2013」 最優秀論文賞:The best paper award
2	太内田 一真	平成25年度入学 工学研究科博士前期課程 電気電子・情報システム工学専攻	工学部 電気電子・情報システム工学科 准教授 本間 尚樹	①国際会議「Asian Pacific Microwave Conference (APMC2013) Best Student Paper Award
3	江口 沙綾	平成24年度入学 農学研究科 農学生命専攻	農学部 農学生命課程 教授 築城 幹典	①システム農学会2013年度春季大会一般研究発表会 優秀発表賞(北村賞)
4	尾上 美咲	平成25年度入学 農学研究科 農学生命専攻	農学部 農学生命課程 助教 加藤 一幾	①International Symposium on "Diversifying Biological Resources" ~Toward Food Security and Sustainable Society~ Bronze Poster Award受賞
5	高野 侑恵	平成25年度入学 農学研究科 応用生物化学専攻	農学部 応用生物化学課程 教授 木村 賢一	①第五回食品薬学シンポジウム 優秀発表賞受賞
6	金 金	平成23年度入学 連合農学研究科博士課程 生物生産科学専攻	農学部 動物科学課程 教授 橋爪 力	①2014年度日本畜産学会奨励賞
7	田村 友紀	平成22年度入学 教育学部 生涯教育課程	陸上競技部監督 教育学部 教授 上演 龍也	①第6回東アジア大会陸上競技 女子4×100mリレー(日本代表) 第2位 ②第97回日本陸上競技選手権大会 女子200m 第3位 ③天皇賜盃第82回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子200m 第2位
8	高橋 英輝	平成23年度入学 教育学部 学校教育課程	陸上競技部監督 教育学部 教授 上演 龍也	①2013長崎陸協競歩大会 男子10000m競歩 第1位(日本記録樹立:39分06秒87) ②ユニバーシアード大会 男子20km競歩 日本代表選出 ③天皇賜盃第82回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子10000m競歩 第2位
9	櫻井 貴広	平成25年度入学 教育学部 生涯教育課程	陸上競技部監督 教育学部 教授 上演 龍也	①第29回日本ジュニア陸上競技選手権大会 男子400m 第5位
10	佐貫 成啓	平成25年度入学 教育学部 生涯教育課程	陸上競技部監督 教育学部 教授 上演 龍也	①第29回日本ジュニア陸上競技選手権大会 男子100m 第2位

○学長賞(団体)

番号	団体名	推薦者	表彰理由
1	岩手大学環境マネジメント学生委員会	環境マネジメント推進室 室長 小川 智	①第5回エコ大学ランキング 第2位

○奨励賞(個人)

番号	氏名	所属等	推薦者	表彰理由
1	渡辺 久	平成24年度入学 工学研究科博士前期課程 フロンティア材料機能工学専攻	工学部 応用化学・生命工学科 准教授 宇井 幸一	①平成25年度化学系学協会東北大会及び日本化学会東北支部 70周年記念国際会議 優秀ポスター賞
2	村田 健太郎	平成23年度入学 工学研究科博士前期課程 電気電子・情報システム工学専攻	工学部 電気電子・情報システム工学科 准教授 本間 尚樹	①電気関係学会東北支部大会 IEEE Student Session The Best Paper Prize
3	高橋 雄太	平成24年度入学 工学研究科博士前期課程 電気電子・情報システム工学専攻	工学部 電気電子・情報システム工学科 准教授 本間 尚樹	①電子情報通信学会アンテナ伝播研究会 学生奨励賞
4	大西 康平	平成25年度入学 工学研究科博士前期課程 機械システム工学専攻	工学部 機械システム工学科 教授 山口 昌樹 助教 佐々木 誠	①第28回リハ工学カンファレンス 最優秀演題 ②心身ストレスに関する学術研究集会2013 優秀発表賞
5	山下 彩友子	平成20年度入学 農学部 獣医学課程	農学部 共同獣医学科 教授 宇塚 雄次	①日本小動物獣医学会東北地区大会 連合会長賞 受賞

平成25年度岩手大学学生表彰者名簿(個人・団体)

番号	氏名	所属等	推薦者	表彰理由
6	田中 隼 洸	平成22年度入学 教育学部 生涯教育課程	バスケットボール部顧問 教育学部 教授 栗林 徹	①第14回 東北大学バスケットボールリーグ 敢闘賞、ベスト5賞、得点王、アシスト王
7	石橋 諒	平成23年度入学 教育学部 生涯教育課程	バスケットボール部顧問 教育学部 教授 栗林 徹	①第14回 東北大学バスケットボールリーグ リバウンド王
8	野中 穂	平成22年度入学 農学部 共生環境課程	馬術部顧問 農学部 教授 佐藤 れえ子	①第49回北日本学生女子選手権大会 優勝 ②第49回北日本学生馬術大会「学生章典馬術競技」優勝
9	阿部 佳代子	平成25年度入学 農学部 動物科学課程	馬術部顧問 農学部 教授 佐藤 れえ子	①第53回北日本学生馬術定期新人戦 団体優勝
10	宮地 洋平	平成25年度入学 農学部 共同獣医学科	馬術部顧問 農学部 教授 佐藤 れえ子	
11	向井田 斉	平成25年度入学 農学部 共同獣医学科	馬術部顧問 農学部 教授 佐藤 れえ子	
12	佐々木 聡凛	平成24年度入学 工学部 機械システム工学科	競技舞蹈部顧問 工学部 助教 若林 篤光	①第85回全東北学生競技ダンス選手権大会新人戦 タンゴ種目 第1位
13	四戸 藍	平成24年度入学 人文社会科学部 国際文化課程	競技舞蹈部顧問 工学部 助教 若林 篤光	
14	柏 翔梧	平成24年度入学 工学部 社会環境工学科	競技舞蹈部顧問 工学部 助教 若林 篤光	①第85回全東北学生競技ダンス選手権大会新人戦 チャチャ種目 第1位
15	嵯峨 麻美	平成24年度入学 教育学部 学校教育課程	競技舞蹈部顧問 工学部 助教 若林 篤光	
16	豊川 翔平	平成22年度入学 人文社会科学部 国際文化課程	アメリカンフットボール部顧問 研究交流部 地域連携主幹 早川 浩之	①第38回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(LB:ラインバッカー)
17	高村 光二	平成22年度入学 教育学部 学校教育課程	アメリカンフットボール部顧問 研究交流部 地域連携主幹 早川 浩之	①第38回東北学生アメリカンフットボールリーグ 最優秀オフェンスライン(OL)
18	森田 洋平	平成22年度入学 教育学部 学校教育課程	アメリカンフットボール部顧問 研究交流部 地域連携主幹 早川 浩之	①第38回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(WR:ワイドレシーバー)
19	吉間 睦紀	平成22年度入学 工学部 機械システム工学科	アメリカンフットボール部顧問 研究交流部 地域連携主幹 早川 浩之	①第38回東北学生アメリカンフットボールリーグ 最優秀オフェンスバック(RB:ランニングバック)
20	水鳥 元嵩	平成22年度入学 工学部 機械システム工学科	アメリカンフットボール部顧問 研究交流部 地域連携主幹 早川 浩之	①第38回東北学生アメリカンフットボールリーグ 敢闘賞
21	江口 拓麻	平成24年度入学 教育学部 生涯教育課程	アメリカンフットボール部顧問 研究交流部 地域連携主幹 早川 浩之	①第38回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(R:リターナー)
22	一條 利一郎	平成23年度入学 人文社会科学部 法学・経済課程	少林寺拳法部顧問 教育学部 教授 新妻 二男	①2013少林寺拳法世界大会 in Osaka, Japan国内予選(全国大会) 一般男子級拳士の部 優良賞(第5位)
23	瀧澤 隼人	平成23年度入学 工学部 機械システム工学科	少林寺拳法部顧問 教育学部 教授 新妻 二男	①2013少林寺拳法世界大会 in Osaka, Japan国内予選(全国大会) 一般男子級拳士の部 優良賞(第5位)
24	宮崎 真由美	平成22年度入学 教育学部 学校教育課程	少林寺拳法部顧問 教育学部 教授 新妻 二男	①第46回少林寺拳法東北学生大会 女子有段単独演武の部 第1位
25	岸 衛輔	平成23年度入学 工学部 機械システム工学科	少林寺拳法部顧問 教育学部 教授 新妻 二男	①第46回少林寺拳法東北学生大会 男子初段の部 第1位
26	中村 啓哉	平成23年度入学 農学部 動物科学課程	少林寺拳法部顧問 教育学部 教授 新妻 二男	①第46回少林寺拳法東北学生大会 男子初段の部 第1位
27	石井 勇也	平成25年度入学 工学部 電気電子・情報システム工学科	少林寺拳法部顧問 教育学部 教授 新妻 二男	①第43回少林寺拳法東北学生新人大会 男子白、緑帯の部 第1位
28	木村 洋輔	平成25年度入学 教育学部 学校教育課程	少林寺拳法部顧問 教育学部 教授 新妻 二男	①第43回少林寺拳法東北学生新人大会 男子白、緑帯の部 第1位
29	館崎 恵理子	平成23年度入学 農学部 獣医学課程	居合道研究会顧問 農学部 助教 佐々木 淳	①第8回全国各流居合道さくらんぼ大会 段別対抗個人試合 初段の部 優勝

○奨励賞(団体)

番号	団体名	推薦者	表彰理由
1	サッカー部	サッカー部顧問 教育学部 教授 鎌田 安久	①平成25年度第38回東北地区大学サッカーリーグ 第2位 ②平成25年度第64回東北地区大学体育大会(サッカーの部)優勝 ③第63回岩手県サッカー選手権 準優勝
2	吹奏楽部	吹奏楽部顧問 人文社会科学部 教授 宮本 ともみ	①全日本吹奏楽コンクール第56回東北大会 金賞(2位)



キャリア支援部門

キャリア支援部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	安 田 準	農学部
兼務教員 (各学部就職委員会選出教員)	内 田 浩	人文社会科学部
	大河原 清	教育学部
	高 木 浩 一	工学部
	古 賀 潔	農学部
キャリア支援課長	佐 藤 祐 一	学務部

活動報告

部門長 安田 準

I キャリア支援部門会議

第1回 日時：平成25年4月22日（月）13：30～

会場：学生センターB棟多目的室

議題

- (1) 副議長の選出について
- (2) 平成25年度事業計画（案）について
- (3) 平成25年度就職関連行事予定について
- (4) その他

報告

- (1) 平成24年度卒業・修了者の就職状況
- (2) 新規ガイダンスへの協力依頼
- (3) 平成25年度第1回岩手県雇用促進産学官連携協議会の開催について
- (4) 「進路を考えるガイダンス」実施結果
- (5) その他

第2回 日時：平成25年7月4日（木）13：30～

会場：学生センターA棟会議室

議題

- (1) 学内企業合同説明会（夏期合説）の開催について
- (2) 企業向け大学パンフレットの作成について
- (3) 推薦書（人物調書）の取り扱いについて
- (4) その他

報告

- (1) 平成24年度卒業生の就職状況（確定版）について
- (2) 平成25年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について（申合せ）
- (3) 千葉県教員採用試験について
- (4) 平成25年度『全国就職指導ガイダンス』について
- (5) インターンシップについて
- (6) 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業に関する本学の取り組みについて
- (7) 岩手県雇用促進産学官連携協議会について
- (8) Twitterの実施について

(9) その他

第3回 日 時：平成25年10月3日（木）15：00～

場 所：学生センターA棟会議室

議 題

- (1) 平成25年度事業計画の実施状況について
- (2) 就職・採用活動時期の後ろ倒しへの対応について
- (3) 平成25年度後期の就職ガイダンス等について
- (4) 卒業・修了予定者の就職内定状況の把握について
- (5) その他

報 告

- (1) 各学部就職委員会等報告
- (2) 平成25年度卒業・修了者向け求人件数及びキャリア支援相談状況
- (3) 学内企業合同説明会Ⅲの結果について
- (4) 企業訪問の状況について
- (5) 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の進捗状況について（全体会議報告を含む。）
- (6) キャリア支援課Twitterの利用状況について
- (7) その他

第4回 日 時：平成25年11月18日（木）16：00～

場 所：学生センターA棟会議室

議 題

- (1) 就職・採用活動時期の後ろ倒しへの対応について（継続審議）
- (2) 教育研究支援施設の再編に伴う規則の改正について
- (3) 学内企業合同説明会Ⅰ・Ⅱの開催について
- (4) その他

報 告

- (1) 各学部就職委員会等報告
- (2) 卒業・修了予定者の進路決定状況について
- (3) 就活応援バスの運行予定について
- (4) 企業訪問の状況について
- (5) 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の進捗状況について
- (6) 平成25年度卒業・修了者向け求人件数及びキャリア支援相談状況
- (7) その他

第5回 日 時：平成25年12月16日（月）16：30～

場 所：学生センター A 棟会議室

議 題

- (1) 教育研究支援施設の再編に伴う規則の改正について（継続審議）
- (2) その他

報 告

- (1) 各学部就職委員会等報告
- (2) 卒業・修了予定者の進路決定状況について
- (3) 企業訪問の状況について
- (4) 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の進捗状況について
- (5) 平成25年度卒業・修了者向け求人件数及びキャリア支援相談状況について
- (6) 学内企業合同説明会 I 開催報告について
- (7) その他

第6回 日 時：平成26年2月12日（水）18：00～

場 所：学生センター A 棟会議室

議 題

- (1) 平成26年度キャリア教育支援及び就職支援に係る事業計画について
- (2) 教員採用試験対策講座の実施について
- (3) その他

報 告

- (1) 各学部就職委員会等報告
- (2) 文部科学省における大学等卒業生の「就職率」の取扱いについて
- (3) 平成26年3月卒業・修了予定者における未内定者の就職先決定に向けた「新卒応援ハローワーク」等との連携について
- (4) 平成27年度における国家公務員採用試験日程の後ろ倒し等について
- (5) 平成25年度「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」について
- (6) 卒業・修了予定者の進路決定状況について
- (7) 平成25年度卒業・修了者向け求人件数及びキャリア支援相談状況について
- (8) 学内企業合同説明会 II の開催報告について
- (9) 企業訪問の状況について
- (10) 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の進捗状況について
- (11) その他

第7回 日 時：平成26年3月17日（月）15：00～

場 所：学生センター A 棟会議室

議 題

- (1) 平成25年度の総括及び平成26年度への引継事項について

(2) 平成26年度キャリア教育支援及び就職支援に係る事業計画について

(3) その他

報告

(1) 各学部就職委員会等報告

(2) 卒業・修了予定者の進路決定状況について

(3) 平成25年度卒業・修了者向け求人件数及びキャリア支援相談状況について

(4) 企業訪問の状況について

(5) 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の進捗状況について

(6) その他

II キャリア形成支援事業

1 キャリア教育科目の実施

(1) 全学共通教育科目の「キャリアを考える」

前期：履修生210名，後期66名

(2) 全学共通教育科目の「地場産業・企業論」

岩手県立大学との共同開講

履修生岩手大学19名，岩手県立大学3名



2 キャリアガイダンスの実施

平成25年度から，新規にキャリアガイダンスを次のとおり実施した。

- | | |
|------------------------|--------------------|
| (1) 初年次ガイダンス（1年生対象） | ： 4月に4回実施，参加者514名 |
| (2) 進路を考えるガイダンス（3年生対象） | ： 5月に2回実施，参加者254名 |
| (3) 自己理解 | ： 6月と11月に実施，参加者31名 |
| (4) 労働関係法規セミナー | ： 12月に2回実施，参加者49名 |
| (5) 社会と会社を知る | ： 12月6日，参加者14名 |
| (6) 採用活動実施時期の変更ガイダンス | ： 12月に2回実施，参加者360名 |
| (7) ライティング講座 | ： 12月12日，参加者35名 |

- (8) 自分を伝えるコミュニケーション力 : 1月と2月に実施, 参加者47名



- (9) 就職内定者と学生とのトークカフェ : 2月12日, 参加者18名

3 インターンシップ

- (1) インターンシップ事前指導Ⅰ : 6月, 参加者148名
 (2) インターンシップ事前指導Ⅱ : 7月, 参加者121名
 (3) インターンシップ実施期間 : 8月5日～9月30日

参加者: 県内3大学連携インターンシップ 99名 (受入事業所34)

工学部独自インターンシップ 62名

農学部独自インターンシップ 90名

- (4) インターンシップ事後報告会 : 12月3日, 参加者80名

4 就職支援事業

就職支援事業として, 5月から3月まで次のとおり実施した。

- (1) 自己分析講座 : 5月2回実施, 参加者198名
 (2) 業界研究講座 : 6月2回実施, 参加者177名
 (3) 面接対策講座 : 6月2回, 11月2回実施, 参加者194名



- (4) S P I 模擬試験 : 6月2回, 10月1回実施, 参加者41名
 (5) 内定を勝ち取る就職活動講座 : 7月実施, 参加者65名
 (6) エントリーシート対策講座 : 7月2回実施, 参加者201名
 10～11月まで4回実施, 参加者326名



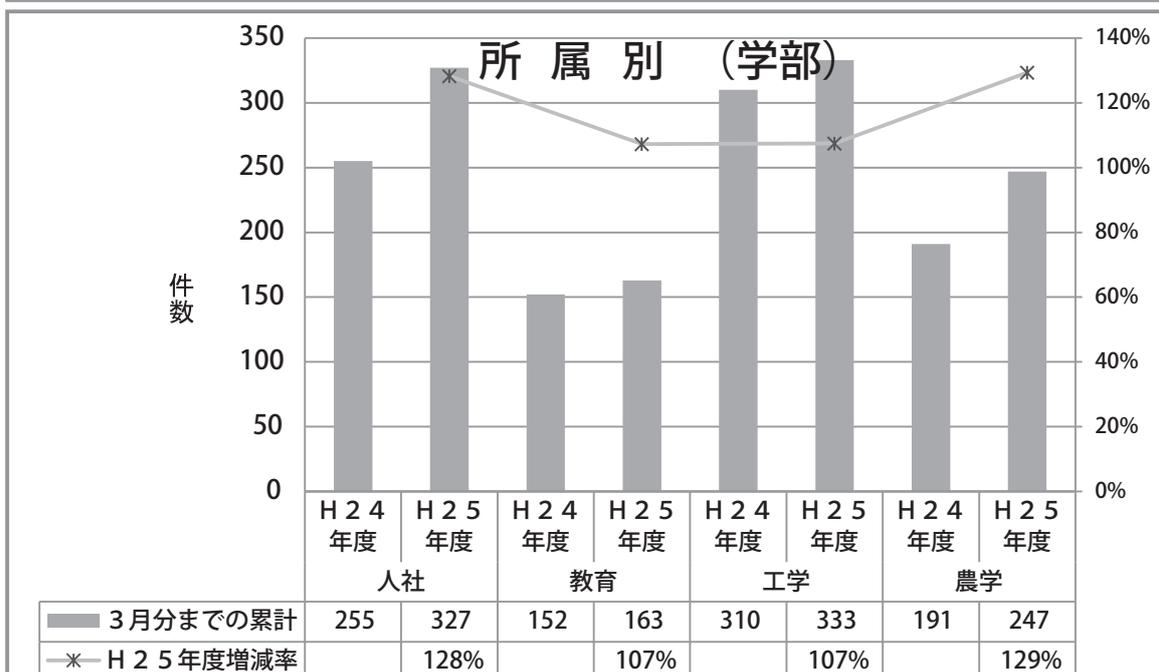
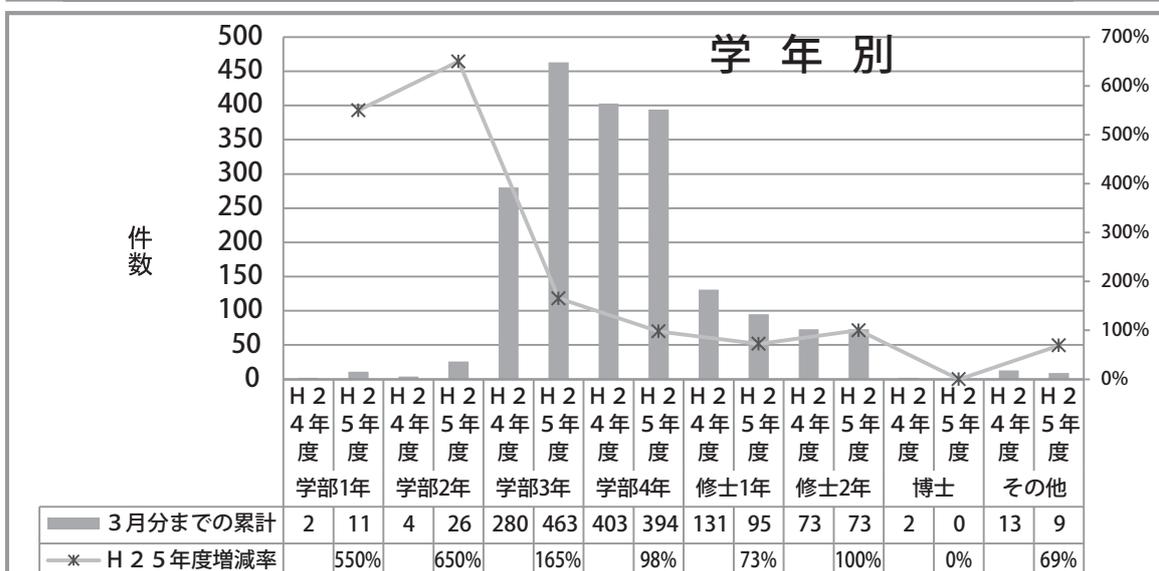
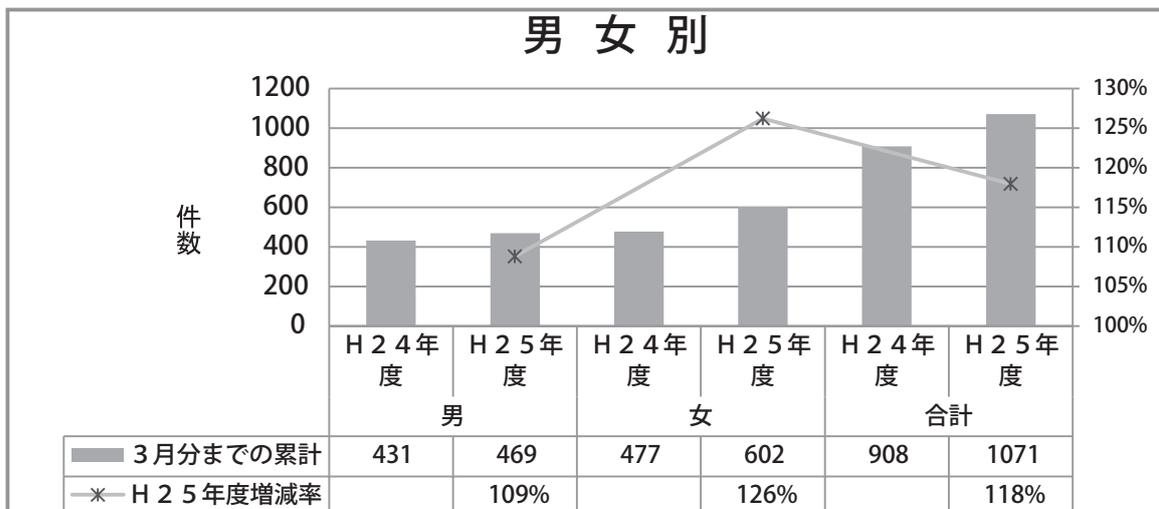
- (7) 就活身だしなみ講座 : 7月2回実施, 参加者81名
- (8) 夏休み中に準備しておきたい講座 : 7月実施, 参加者61名
- (9) インターンシップと情報サイトを
最大限活用する方法講座 : 7月実施, 参加者12名
- (10) 進路変更ガイダンス : 9月実施, 参加者1名
- (11) 業界研究講座 : 10月2回実施, 参加者117名
- (12) 合同企業説明会立ち回り講座 : 11月2回実施, 参加者231名
- (13) 日本茶の美味しい入れ方講座 : 11月, 3月実施, 参加者32名

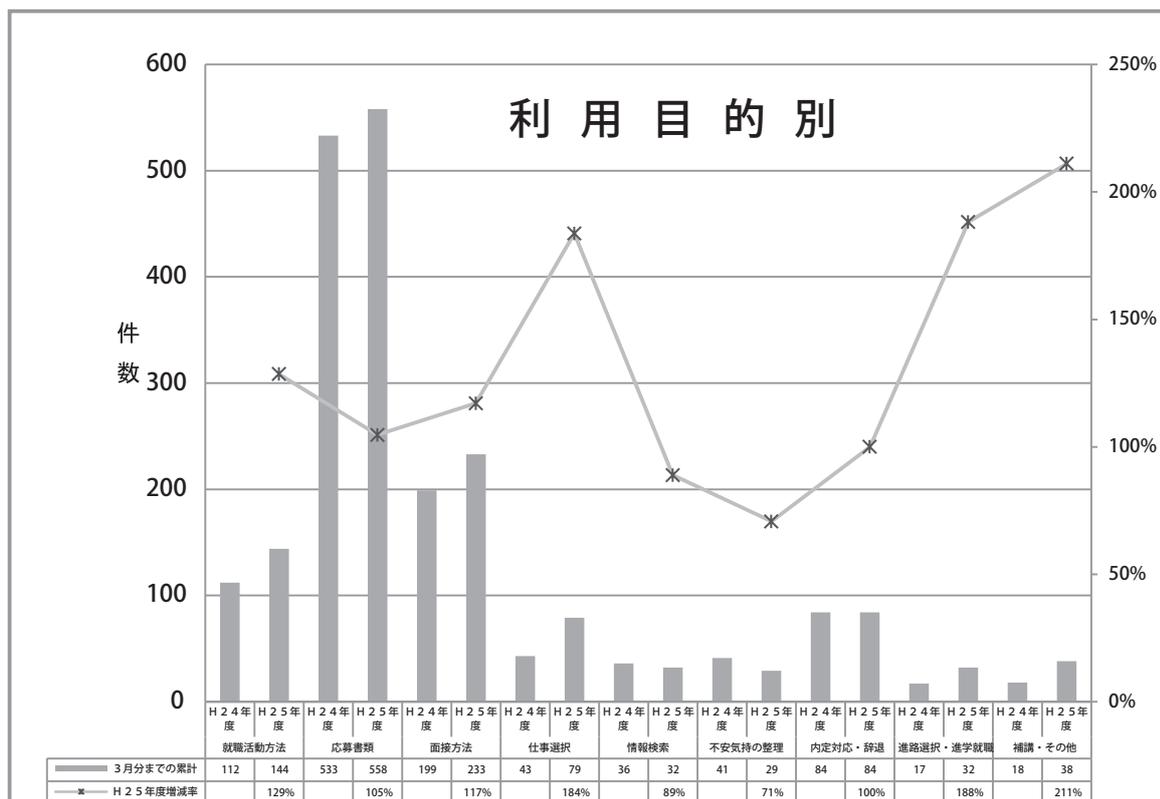


- (14) 面接実践講座 : 12~3月まで14回実施, 参加者347名
- (15) 内定者からの就活報告会 : 12月実施, 参加者65名
- (16) 学内合同企業説明会
 - 9月26日(木) : 卒業・修了年次学生対象
参加企業55社, 参加学生72名
 - 12月1日(日) : 学部3年次・大学院1年次対象
参加企業117社, 参加学生461名
 - 1月16日(木)・17日(金) :
学部3年次・大学院1年次対象
参加企業231社, 参加学生536名



5 キャリア相談





6 企業訪問(63事業所)

- (1) 6月24日(月)：盛岡市近郊・・・人文社会科学部教員2名、キャリア支援課1名
雫石町役場, (株)リードコナン, 岩手県市町村職員共済組合
- (2) 7月9日(火)：岩手県中央部・・・人文社会科学部教員1名、キャリア支援課1名
岩手中央農業協同組合, (株)東北TKR, 小田島商事(株)
- (3) 9月17日(火)・18日(水)：八戸・十和田市・・・農学部教員1名、キャリア支援課1名
八戸農業協同組合, (株)テクノル, デーリー東北新聞社, 高周波鋳造(株),
(株)ほくと, サクサシステムエンジニアリング(株), (株)ホクエツ東北, ワダカン(株),
(株)ササキコーポレーション, (株)東北産業
- (4) 9月25日(木)：岩手県中央部・・・教育学部教員1名、キャリア支援課1名
サンポット(株), (株)小田島, (株)みちのくクボタ, サステック東北, イーエス
大塚製菓(株)
- (5) 10月8日(火)：岩手県北部・・・人文社会科学部教員1名、キャリア支援課1名
岩手県北自動車(株), (株)カガヤ, ニチコン岩手(株), (株)小松製菓, (株)菅文, (株)戸田久
- (6) 10月21日(月)：岩手県南部・・・農学部教員1名、キャリア支援課1名
(株)ササキ組, (株)松栄堂, (株)岩手日日新聞社, (株)富士通ゼネラルエレクトロニクス,
SWS東日本(株)
- (7) 11月28日(木)・29(金)：郡山・福島市・・・教育学部教員1名、キャリア支援課1名
矢田工業(株), (株)恒和薬品, 郡山女子大学附属高校, 根本石油(株), 林精器製造(株),
(株)いちい, 福島民報社, (株)東日本学院, (株)倉島商店, フクシマフーズ(株)

- (8) 1月22日(水)：釜石市……工学部教員1名、キャリア支援課1名
 双葉精密(株)，SMC(株)，小野食品(株)，新日鉄住金(株)釜石製鉄所
- (9) 2月24日(月)：滝沢市・岩手郡……工学部教員1名、キャリア支援課1名
 熱エンジニアリング(株)，ミクニ(株)，ピーぷる，北日本機械(株)，ニュートン
- (10) 2月27日(木)・28日(金)：宮城県北・仙台市……人文社会科学部教員1名、
 キャリア支援課1名
 (株)本山製作所，東京エレクトロン宮城(株)，(株)カルラ，(株)東北国分，パナソニック
 システムネットワーク開発研究所，宮城生活協同組合，ヤンマーアグリジャパン(株)，JA
 全農北日本くみあい飼料，(株)TTK，JA仙台中央会，仙台銀行(株)，(株)東北NSソ
 リューションズ，日本郵便(株)

IV 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

1 テーマ2：産業界と大学のニーズを踏まえたインターンシップとしてジョブシャドウ（1日 職場観察）の実施

- (1) ジョブシャドウコミュニティ（IJS）
 の結成・打合せ : 5月15日，参加者5名
- (2) ジョブシャドウ参加説明会 : 7月4日・5日，参加者59名
- (3) ジョブシャドウ事前勉強会 : 7月17日・18日，参加者54名
- (4) ジョブシャドウ実施 : 8月～9月，受入事業所15，参加者40名
- (5) ジョブシャドウ事後報告会 : 10月26日，参加者82名（学生，教職員，受入事業所関係者）

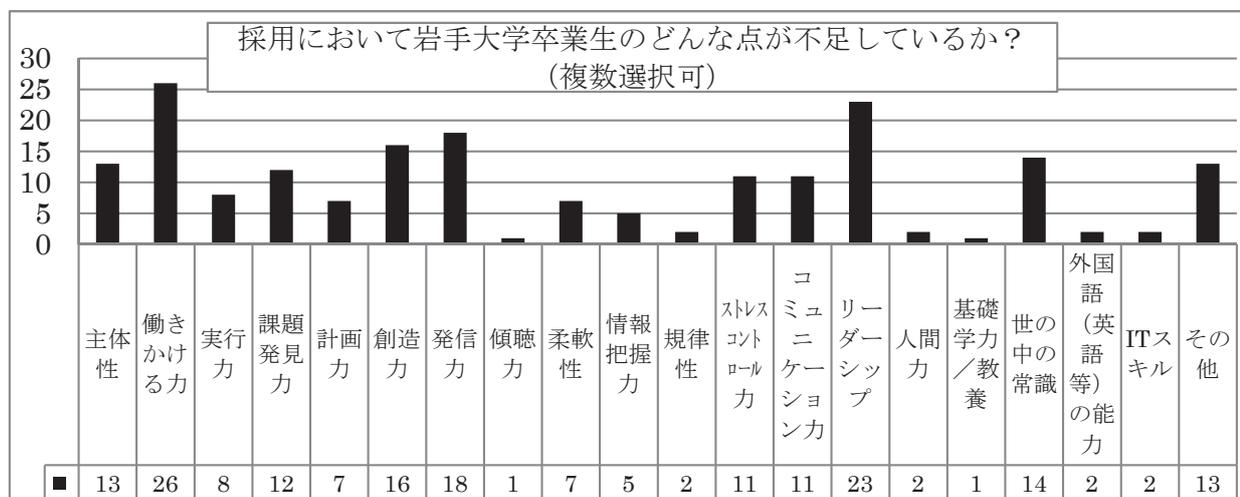
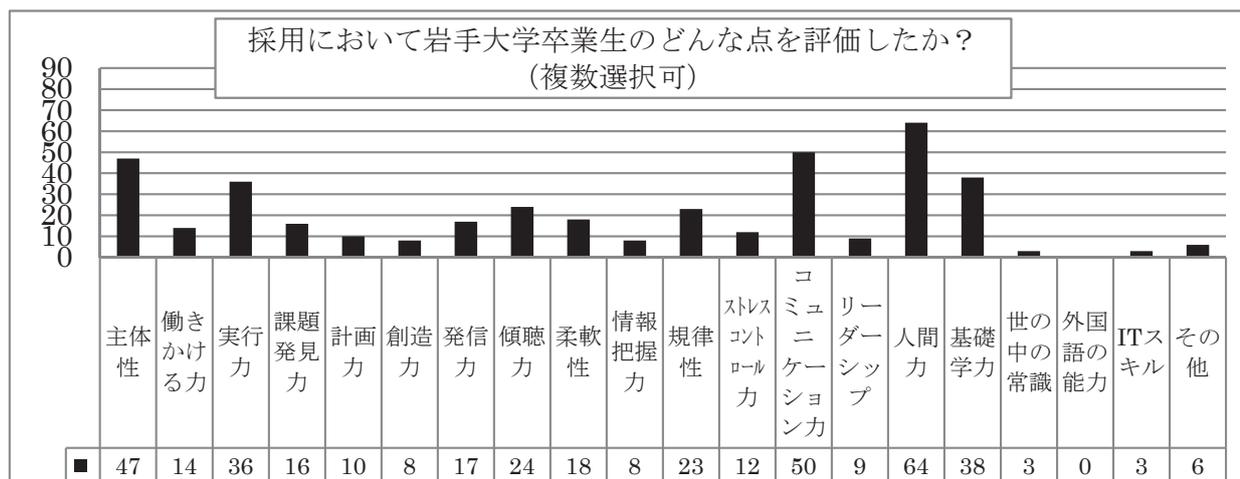
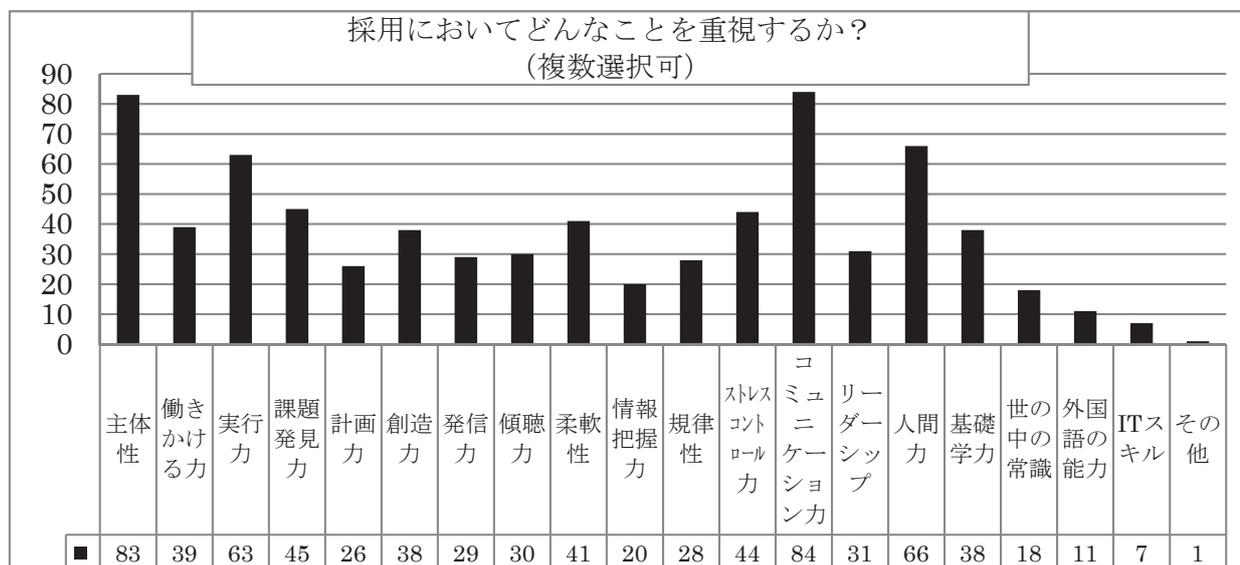


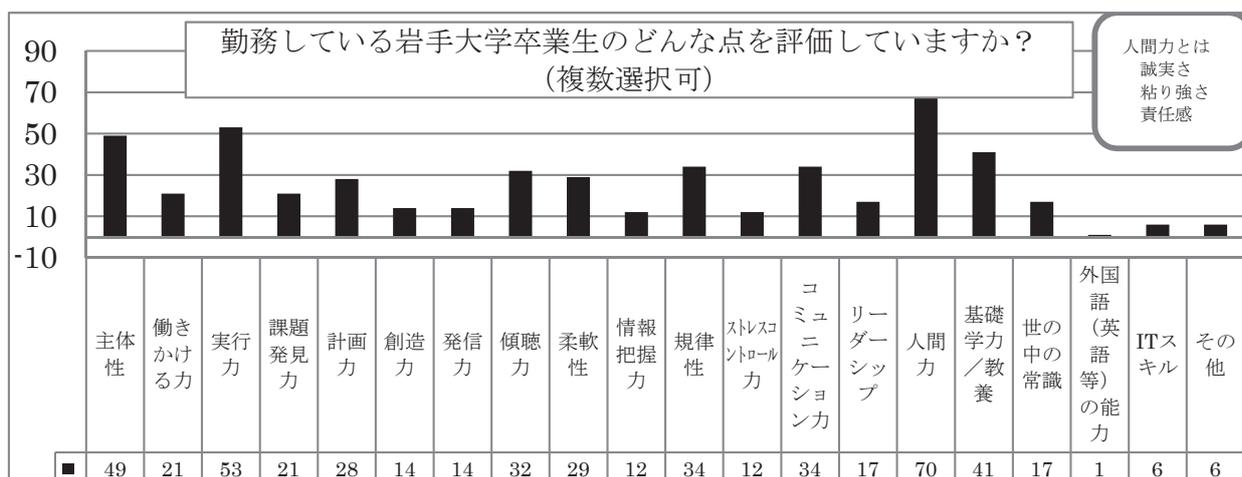
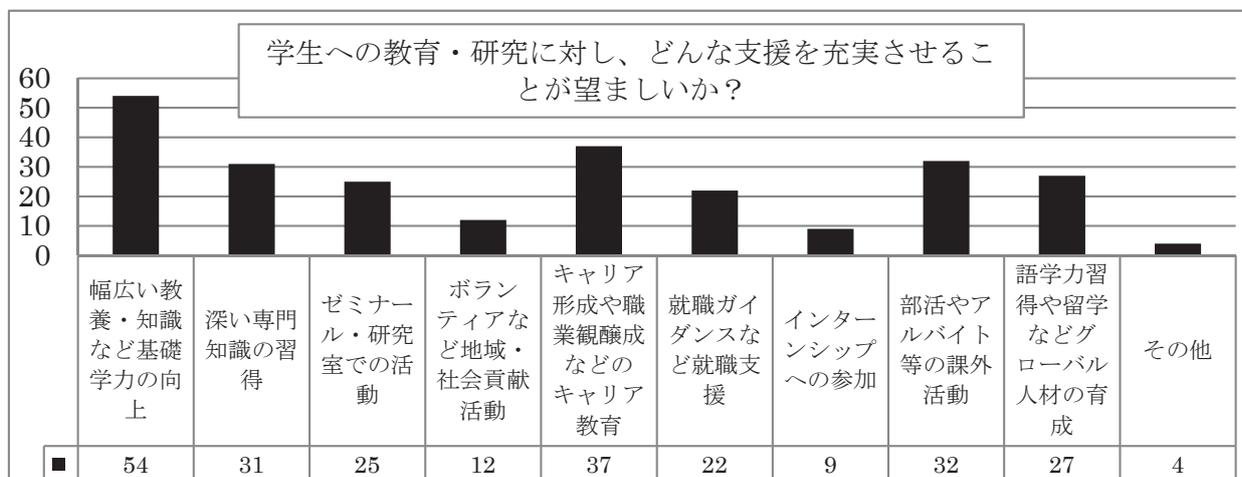
- (6) ジョブシャドウフォローアップ研修
 「プレゼンテーション基礎講座」：2月13日，参加者12名

2 テーマ3 早い段階から「将来目標」「社会・企業」を意識させる正課外の実践

産業界ニーズ調査（対象：採用実績のある217事業所 回答：101社）：4月実施

（以下、アンケート結果）





- ③「労働関係法規セミナー」 : 12月, 参加者 35名
- ④「社会と会社の仕組みを知る」 : 12月, 参加者 14名
- ⑤「就職・採用活動時期の変更に関する説明会」 : 12月, 参加者360名
- ⑥「ロジカルライティング講座」 : 12月, 参加者 35名

3 産学官連携・大学間連携・その他

- 5月 産業界ニーズ対応事業の評価会の結成と平成24年度事業評価会を実施
岩手県雇用推進産学官連携協議会開催
第2回ジョブシャドウイング大学連携会議開催
- 7月 岩手大学の産業界ニーズ対応事業説明パンフレット作成と広報活動
岩手大学の産業界ニーズ対応事業ホームページ開設
- 11月 シンポジウム「大学におけるキャリア教育を考える」開催
(参加者102名)



シンポジウムの様子

岩手大学
大学教育総合センター
年次報告 2013

平成 26 年 10 月 17 日 発行

- 編集・発行
岩手大学 大学教育総合センター
岩手県盛岡市上田3丁目18-34
- 印刷・製本
杜陵高速印刷株式会社



